

松山市埋蔵文化財調査年報 33

令和2年度

2021

松山市教育委員会
公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
埋蔵文化財センター

松山市埋蔵文化財調査年報 33

令和2年度

2021

松山市教育委員会
公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
埋蔵文化財センター



1 腰折 5 号墳遺物出土状況 (下難波腰折遺跡 2 次調査)



2 腰折 5 号墳出土須恵器 (下難波腰折遺跡 2 次調査)



1 遺構検出状況（姫原遺跡 3 次調査）



2 銅鍬
（姫原遺跡 3 次調査出土）



3 天目茶碗（松末栄松遺跡出土）



1 SK11 赤色顔料検出状況
(祝谷大地ヶ田遺跡9次調査)



2 ガラス玉出土状況
(祝谷大地ヶ田遺跡9次調査)



3 出土したガラス玉
(祝谷大地ヶ田遺跡9次調査)



1 石垣検出状況（松山城三之丸跡 23次調査）



1 墳丘と石棺検出状況（坂浪西1号墳）



2 石棺の被覆粘土検出状況（坂浪西1号墳）



3 石棺上部の玉石検出状況（坂浪西1号墳）



1 蓋石検出状況（坂浪西1号墳）



2 人骨出土状況（坂浪西1号墳）



3 蓋石撤去状況（坂浪西1号墳）



4 石棺内骨検出状況（坂浪西1号墳）



1 墓壙及び石棺内状況（坂浪西1号墳）



1 石棺から興居島を望む（坂浪西1号墳）



2 石棺床面の排水溝検出状況（坂浪西1号墳）



3 石棺長軸断面（坂浪西1号墳）



4 粘土及び玉砂利検出断面（坂浪西1号墳）

序 言

松山市内には、数多くの貴重な埋蔵文化財があります。松山市教育委員会と公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団は試掘調査や発掘調査をはじめとした調査研究事業、また考古館での普及啓発事業によって、埋蔵文化財の保護と活用に努めています。本書は令和2年度の事業概要報告です。

令和2年度には市内で8件の発掘調査を実施しました。特筆すべき遺跡として、祝谷大地ヶ田遺跡9次調査と姫原遺跡3次調査があります。祝谷大地ヶ田遺跡9次調査では、土坑から赤色顔料と大量のガラス玉が出土しました。この土坑は、弥生時代中期に顔料または玉製品を貯蔵・保管する目的があったものと考えられ、同時期のガラス玉の出土は数が少なく大変貴重なものです。また、姫原遺跡3次調査からは、遺物包含層の中から銅鏃が出土しました。ガラス玉や銅鏃の出土は、弥生時代の松山の歴史を研究するにあたり大変貴重な資料となるものです。

普及啓発事業では昨年度、考古館の開館30周年記念誌『発掘・松山の至宝』を刊行いたしました。同誌に掲載された遺物について、2回の特別展や講演会を開催しました。

前期展では「発掘・松山の至宝-食-」と題して、縄文時代から古墳時代までの貴重な考古資料を展示し、縄文時代から江戸時代までの食器や調理具も併せて展示しました。

後期展では「発掘・松山の至宝-マツリ-」と題して、飛鳥時代から江戸時代までの考古資料を展示し、弥生時代の分銅形土製品・青銅器、古墳時代の水辺のマツリの道具・埴輪なども併せて展示しました。

特別講演会では愛媛県教育委員会の兵頭勲担当係長に「縄文時代の器と食べもの」について語っていただき、多数の聴講者から御好評をいただきました。

最後に、埋蔵文化財の保護、発掘調査及び普及啓発について、皆様の御理解と御協力に厚くお礼申し上げますとともに、本書を埋蔵文化財の保護と調査研究にお役立ていただければ幸いです。

令和3年12月

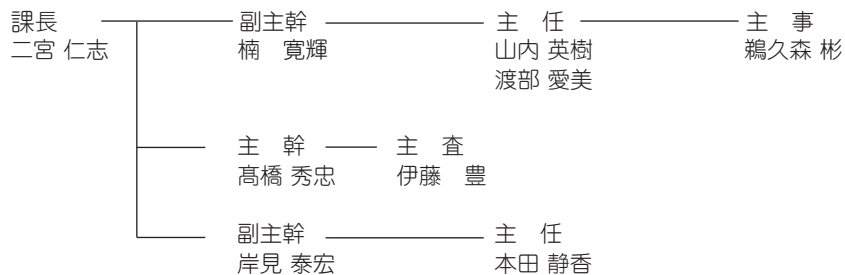
松山市教育委員会
教育長 藤田 仁

例 言

1. 本書は、松山市教育委員会と公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センターが、令和2年4月1日から令和3年3月31日までに実施した埋蔵文化財発掘調査の概要と、松山市考古館が行った普及啓発事業の成果などをまとめた年次報告書である。
2. 確認調査については、第Ⅱ章の表にその概要をまとめた。
3. 各調査の報告は、発掘調査担当者が執筆し、編集は高尾和長が行った。
4. 本書に掲載した写真は、担当調査員と大西朋子が撮影した。
5. 位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1図を使用した。
6. 遺構は、以下の略号で記した。
SB：竪穴建物址 掘立：掘立柱建物跡 SK：土坑 SD：溝 SE：井戸 SP：柱穴
SX：性格不明遺構 SR：自然流路 SA：柵、柱列 T：トレンチ
7. 刊行組織は、以下のとおりである。(令和3年4月1日現在)

松山市教育委員会	教育長	藤田 仁
事務局	局長	井出 修敏
	次長	西村 秀典
	次長	横山 憲
	次長	横江 茂樹
文化財課	課長	二宮 仁志
公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団	理事長	本田 元広
事務局	局長	片山 雅央
	次長兼施設管理部部長	杉野 公典
埋蔵文化財センター	所長兼館長	梅木 謙一

文化財課組織図(埋蔵文化財・史跡整備・文化財保護)



埋蔵文化財センター組織図

所長兼考古館長 梅木 謙一	調査・研究	主任	河野 史知、水本 完児、橋本 雄一
		学芸員	新原 佑典（派遣）
		再雇用嘱託	山本 健一、高尾 和長、宮内 慎一、相原 浩二
		専門嘱託	作田 一耕
		一般嘱託	大西 朋子、宮脇 和人、岡崎 政信、浅井 茂之 宇高千代美、木西 嘉子、川添 利恵 松本美代子、山下満佐子
	普及・啓発 施設運営	主 査	吉岡 和哉、小玉垂紀子
		主 任	網本 修、加島 次郎、竹政 俊一
		学芸員	渡部 浩史

8. ご指導・ご協力を賜った方々は、次のとおりである。（五十音順・敬称略）

池尻伸吾（愛媛県埋蔵文化財センター）／石貫弘泰（愛媛県埋蔵文化財センター）／今村賢司（愛媛県歴史文化博物館）／内田九州男／大久保徹也（徳島文理大学）／岡田敏彦（愛媛考古学協会）／小川忠博／小倉彩華／小林範之（愛媛大学）／佐川雅貴（正派邦楽会）／柴田昌児（愛媛大学）／柴田圭子（愛媛県埋蔵文化財センター）／下條信行／高瀬哲郎（石垣技術研究機構）／高山剛（松野町教育委員会）竹田美喜（子規記念博物館）／田崎博之（愛媛大学）／田中謙（村上海賊ミュージアム）／谷若倫郎（瀬戸内海考古学研究会）／富田尚夫（愛媛県歴史文化博物館）／中野良一（愛媛県埋蔵文化財センター）／中嶋美佳（徳島文理大学）／名本二六雄（愛媛考古学協会）／早川和子／花岡直樹（愛媛県建築士会）／兵頭勲（愛媛県教育委員会）／藤本史子（武庫川女子大学）／前園實知雄（愛媛県埋蔵文化財センター）／松下孝幸・松下真実（特定非営利活動法人人類学研究機構）／松村さを里（愛媛県埋蔵文化財センター）／三浦正幸（広島大学）／村上恭通（愛媛大学）／山本 亮（東京国立博物館）／横須賀倫達（文化庁）／吉田広（愛媛大学）

9. ご指導・ご協力を賜った機関は、次のとおりである。（五十音順・敬称略）

伊予史談会／愛媛県教育委員会／公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター／愛媛県歴史文化博物館／香川県埋蔵文化財センター／公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター／子規記念博物館／第一法規／公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター／特定非営利活動法人人類学研究機構／文化庁／村上海賊ミュージアム

10. 本書の仕様は、以下のとおりである。

製版 モノクロ写真・写真図版 - 175 線
印刷 オフセット印刷
用紙 本文：三菱製紙ニューVマット
製本 無線綴じ

本文目次

I	令和2年度 松山市埋蔵文化財調査概要	
	令和2年度 松山市埋蔵文化財調査概要	2
	下難波腰折遺跡2次調査	3
	姫原遺跡3次調査	8
	祝谷大地ヶ田遺跡9次調査	10
	東垣生八反地遺跡6次調査	14
	松山城三之丸跡23次調査	20
	桑原高井遺跡4次調査	26
	松末栄松遺跡	28
	掩体壕確認調査	34
II	令和2年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料	
	令和2年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料	40
III	令和2年度 出土物整理・保存処理事業	
	1. 出土物整理	50
	2. 出土物整理・工事立会調査	53
	3. 出土物整理・坂浪西1号墳確認調査	57
	4. 出土物整理・来住廃寺露盤石	71
	5. 出土物整理・寄贈品（遺物）	77
	6. 保存処理	80
	7. 北斎院地内遺跡2次調査出土の人骨	84
	8. 上苜谷遺跡3次調査出土の人骨	89
IV	令和2年度 普及啓発事業	
	1. 展示活動	98
	2. 教育普及活動	99
	3. 収集・保管・育成活動	101
	4. 出版活動	101
	5. 資料の貸出・調査	101
	●考古館月別入館者数調	101

巻頭図版目次

- 巻頭図版 1 1 腰折5号墳遺物出土状況（下難波腰折遺跡2次調査）
2 腰折5号墳出土須恵器（下難波腰折遺跡2次調査）
- 巻頭図版 2 1 遺構検出状況（姫原遺跡3次調査）
2 銅鏃（姫原遺跡3次調査）
3 天目茶碗（松末栄松遺跡）
- 巻頭図版 3 1 SK11 赤色顔料検出状況（祝谷大地ヶ田遺跡9次調査）
2 SK11 ガラス玉出土状況（祝谷大地ヶ田遺跡9次調査）
3 出土したガラス玉（祝谷大地ヶ田遺跡9次調査）
- 巻頭図版 4 1 石垣検出状況（松山城三之丸跡23次調査）
- 巻頭図版 5 1 墳丘と石棺検出状況（坂浪西1号墳）
2 石棺の被覆粘土検出状況（坂浪西1号墳）
3 石棺上部の玉石検出状況（坂浪西1号墳）
- 巻頭図版 6 1 蓋石検出状況（坂浪西1号墳）
2 人骨出土状況（坂浪西1号墳）
3 蓋石撤去状況（坂浪西1号墳）
4 石棺内朱検出状況（坂浪西1号墳）
- 巻頭図版 7 1 墓壙及び石棺内状況（坂浪西1号墳）
- 巻頭図版 8 1 石棺から興居島を望む（坂浪西1号墳）
2 石棺床面の排水溝検出状況（坂浪西1号墳）
3 石棺長軸断面（坂浪西1号墳）
4 粘土及び玉砂利検出断面（坂浪西1号墳）

挿図・写真目次

I 令和2年度 松山市埋蔵文化財調査概要

下難波腰折遺跡 2次調査..... 3

図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 調査地全景 (東上空より)
図2 遺構配置図	写真2 5号墳 石室全景 (北上より)
	写真3 5号墳 奥壁より玄門を望む (北より)
	写真4 5号墳 玄室床面の玉類出土状況 (南より)
	写真5 5号墳 玄門より奥壁を望む (南より)
	写真6 6号墳 石室検出状況 (北より)
	写真7 7号墳 石室検出状況 (北より)
	写真8 SX1 検出状況と5号墳石室 (北西より)
	写真9 1区全景 (真上より)
	写真10 5号墳 玄室内出土「子持ち高坏①」
	写真11 5号墳 玄室内出土「子持ち高坏②」

姫原遺跡 3次調査..... 8

図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 調査地近景 (北より)
図2 遺構配置図	写真2 竪穴建物及び竈完掘状況 (西より)
図3 銅鏃実測図	写真3 銅鏃

祝谷大地ヶ田遺跡 9次調査..... 10

図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 遺構完掘状況 (北東より)
図2 遺構配置図	写真2 SK3 完掘状況 (西より)
図3 SK11 測量図	写真3 SX3 遺物出土状況 (南より)

東垣生八反地遺跡 6次調査..... 14

図1 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1 調査地全景 (南東より)
図2 調査区測量図	写真2 1区全景 (南西より)
図3 周辺遺跡分布図	写真3 2区水田址検出状況 (西より)
図4 2区遺構配置図	写真4 2区集落址検出状況 (北より)
図5 5区遺構配置図	写真5 掘立202 検出状況 (北より)
図6 畦畔検出状況図	写真6 掘立202 柱材遺存状況 (南より)
	写真7 SK201 遺物出土状況 (南より)
	写真8 SK204 遺物出土状況 (南東より)
	写真9 SK208 遺物出土状況 (北西より)
	写真10 SK202 検出状況 (東より)
	写真11 SK202 敷石検出状況 (東より)

	写真 12	SE201 半截状況（北東より）	
	写真 13	3区全景（北より）	
	写真 14	4区全景（北西より）	
	写真 15	5区水田址検出状況（南東より）	
	写真 16	5区集落址完掘状況（南西より）	
	写真 17	4区5区水田址検出状況（南より）	
松山城三之丸跡 23次調査			20
図 1 調査地位置図（縮尺 1：25,000）	写真 1	石垣 4 全景（北北西より）	
図 2 『亀郭城秘図』北御門付近の描写	写真 2	石垣 5 に対する石垣 6 と雨落ち溝の 接続（南東より）	
図 3 遺構配置図			
図 4 北御門復元想定図	写真 3	礎石抜き取り穴と青灰色砂の道路面 （北北西より）	
桑原高井遺跡 4次調査			26
図 1 調査地位置図（縮尺 1：25,000）	写真 1	遺構検出状況（南より）	
松末栄松遺跡			28
図 1 調査地位置図（縮尺 1：25,000）	写真 1	1区遺構完掘状況（北より）	
図 2 調査区位置図	写真 2	1区 SX1066 完掘状況（南より）	
図 3 1区遺構配置図	写真 3	天目茶碗	
図 4 SX1066 測量図・出土遺物実測図	写真 4	2区遺構完掘状況（北上方より）	
図 5 2区遺構配置図	写真 5	2区 SD2001 完掘状況（南西より）	
図 6 SD2001 測量図・出土遺物実測図	写真 6	稜花皿	
掩体壕確認調査			34
図 1 調査地位置図（縮尺 1：25,000）	写真 1	掩体壕周辺状況①（南東より）	
図 2 1区・2区土層図	写真 2	掩体壕周辺状況②（北東より）	
図 3 調査区位置図	写真 3	1区 SD1 検出状況（南西より）	
図 3 掩体壕立面図（上）・断面図（下）	写真 4	2区礫溜まり検出状況（南東より）	
	写真 5	3区南壁土層堆積状況（北より）	
	写真 6	1区掩体壕内面型枠痕（西より）	
	写真 7	3区掩体壕外面蕈痕（南より）	
	写真 8	掩体壕整備状況（南西より）	
	写真 9	掩体壕内部作業風景（南より）	

II 令和 2 年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料

図 1 令和 2 年度 松山市埋蔵文化財本格調査位置図（縮尺 1：100,000）	48
---	----

Ⅲ 令和2年度 出土物整理・保存処理事業

2. 出土物整理・工事立会調査…………… 53

- 図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）
- 図2 調査地周辺埋蔵文化財包蔵地図
- 図3 土層掲載地点
- 図4 土層模式図
- 図5 出土遺物実測図

3. 出土物整理・坂浪西1号墳確認調査…………… 57

- 図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）
- 図2 墳丘測量図・断面土層図
- 図3 石棺測量図
- 図4 石棺構築模式図
- 図5 石棺平面断面の模式図・遺物出土状況図
- 図6 石棺床面測量図・展開図
- 図7 石棺排水溝測量図
- 写真1 調査地遠景
（矢印が坂浪西1号墳）（西より）
- 写真2 検出された箱式石棺と墳丘断面
（南より）
- 写真3 発見時の箱式石棺の様子
（小口側より）
- 写真4 石棺蓋石上部の円礫・ベンガラ
混じり粘土（南西より）
- 写真5 墓壙及び石棺蓋石の検出状況
（北より）
- 写真6 人骨及び鉄針の出土状況（北西より）
- 写真7 足位より見た石棺床面の排水溝
検出状況（西より）
- 写真8 裏込めの確認及び墓壙ライン・
円礫の確認状況（北西より）
- 写真9 石棺側板と小口石の組み合わせ及び
粘土の被覆状況（北東より）
- 写真10 確認した蓋石・側板・小口石
- 写真11 復元した石棺床面排水溝（左）
と礫床（右）（東より）
- 写真12 蓋石を架設した復元（東より）
- 写真13 復元した「小墳丘」と興居島（東より）
- 写真14 石棺内出土の鉄針（左）と
繊維の痕跡（右）

4. 出土物整理・来住廃寺露盤石…………… 71

- 図1 露盤石実測図
- 写真1 露盤石移動前
- 写真2 仮覆屋設置
- 写真3 生物除去剤噴霧作業状況

- 写真 4 クリーニング作業状況①
- 写真 5 クリーニング作業状況②
- 写真 6 強化剤含侵作業状況
- 写真 7 展示台製作作業状況
- 写真 8 館内設置作業状況
- 写真 9 露盤石展示風景
- 写真 10 側面
- 写真 11 伏鉢座
- 写真 12 下部の削り込み
- 写真 13 円孔内面
- 写真 14 上面の溝
- 写真 15 溝底面の鑿痕
- 写真 16 割れ面の打留状の高なり

5. 出土物整理・寄贈品遺物（竹本定義コレクション石器）…………… 77

- 図 1 石器実測図①・石器写真
- 図 2 石器実測図②・石器写真

6. 保存処理…………… 80

- 写真 1 祝谷 7 号墳出土轡 処理前
- 写真 2 祝谷 7 号墳出土轡 処理前
- 写真 3 祝谷 7 号墳出土轡ほか 処理前
- 写真 4 祝谷 7 号墳出土轡 処理中
- 写真 5 祝谷 7 号墳出土轡 処理中
- 写真 6 祝谷 7 号墳出土轡 処理前
- 写真 7 祝谷 7 号墳出土轡 処理前
- 写真 8 祝谷 8 号墳出土鐙吊り金具 処理前
- 写真 9 祝谷 7 号墳出土鐙吊り金具 処理中
- 写真 10 祝谷 7 号墳出土鐙吊り金具 処理中
- 写真 11 祝谷 8 号墳出土鐙吊り金具 処理中

7. 北斎院地内遺跡 2 次調査出土の人骨…………… 84

- 図 1 遺跡の位置図 (1/25,000)
- 図 2 土壙墓 1 測量図
- 写真 1 南側調査区遠景
- 写真 2 土壙墓 1 人骨出土状況
- 写真 3 歯 (The teeth) 土壙墓 1 人骨
(性別・年齢不明)

8. 上苅屋遺跡3次調査出土の中世人骨…………… 89

図1 遺跡の位置図 (1/25,000)	写真1 5区遠景
図2 5区SK1測量図	写真2 6区遠景
図3 5区SK2測量図	写真3 5区SK1人骨出土状況
図4 6区SK1測量図	写真4 6区SK1人骨出土状況
	写真5 歯(The teeth)5区SK1(性別・年齢不明)
	写真6 歯(The teeth)5区SK2(性別・年齢不明)
	写真7 歯(The teeth)6区SK1(性別・年齢不明)

IV 令和2年度 普及啓発事業

写真1 発掘へんろ展「四国の風土と暮らし」①……………	111
写真2 発掘へんろ展「四国の風土と暮らし」②……………	111
写真3 愛媛県・松山市連携事業『古代いよ発掘まつり』「掘ったぞな松山2020」…	111
写真4 「掘ったぞな松山2020」報告会 令和2年8月29日(土)……………	111
写真5 愛媛県・松山市連携事業『古代いよ発掘まつり』「いにしへのえひめ」…	111
写真6 「いにしへのえひめ」報告会 令和2年9月12日(土)……………	111
写真7 30周年記念特別展・前期展「発掘 松山の至宝」①……………	111
写真8 30周年記念特別展・前期展「発掘 松山の至宝」②……………	111
写真9 解説会の受付(新型コロナ感染予防対策) 令和2年12月……………	112
写真10 前期展「発掘 松山の至宝」講演会 令和3年1月23日(土)……………	112
写真11 30周年記念特別展後期展「発掘 松山の至宝」①……………	112
写真12 30周年記念特別展後期展「発掘 松山の至宝」②……………	112
写真13 講演会の受付(新型コロナ感染予防対策) 令和3年3月……………	112
写真14 後期展「発掘 松山の至宝」講演会① 令和3年3月20日(土)……………	112
写真15 後期展「発掘 松山の至宝」講演会② 令和3年3月20日(土)……………	112
写真16 発掘情報展「下難波腰折遺跡2次調査」……………	112
写真17 大連古代蓮 写真展①……………	113
写真18 大連古代蓮 写真展②……………	113
写真19 わかりやすい考古学講座……………	113
写真20 「松山の歴史を学ぼう」令和2年11月8日(日)……………	113
写真21 こども考古学教室(親子考古学教室)……………	113
写真22 考古館ロビーコンサート 令和2年12月26日(土)……………	113
写真23 わかりやすい考古学講座(現地見学・松山城三之丸跡) 令和2年11月14日(土)…	113
写真24 大連古代蓮の育成……………	113

表 目 次

I	令和2年度 松山市埋蔵文化財調査概要	
	松末栄松遺跡	
	表 1 SX1066 出土遺物観察表 (土製品).....	33
	表 2 SD2001 出土遺物観察表 (土製品).....	33
II	令和2年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料	
	表 1 松山市埋蔵文化財包蔵地変更一覧.....	41
	表 2 令和2年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧 (1) ~ (6).....	41 ~ 46
	表 3 令和2年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧.....	47
III	令和2年度 出土物整理・保存処理事業	
	1. 出土物整理	
	表 1 遺物接合・復元作業一覧 (1) (2).....	50・51
	表 2 遺物実測・整理・収蔵・図面整理作業一覧.....	51
	表 3 遺物写真撮影及びデータ処理・整理作業一覧.....	52
	2. 出土物整理・工事立会調査	
	表 1 出土遺物観察表 (土製品).....	56
	3. 出土物整理・坂浪西1号墳確認調査	
	表 1 坂浪西1号墳一覧表.....	66
	4. 出土物整理・来住廃寺露盤石	
	表 1 露盤石観察表.....	72
	5. 出土物整理・寄贈品遺物	
	表 1 竹本定義コレクション石器観察表.....	79
	6. 保存処理	
	表 1 令和2年度 金属製品保存処理遺跡一覧.....	80
	表 2 令和2年度 調査出土金属・木製・動植物遺体一覧 (以前の調査出土も含む).....	81
	7. 保存処理・北斎院地内遺跡2次調査出土の人骨	
	表 1 資料数 (Table 1. Number of materials).....	86
	表 2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons).....	86
	表 3 年齢区分 (Table 3. Division of age).....	86

8. 上茱屋遺跡3次調査出土の中世人骨

表 1	資料数 (Table 1. Number of materials)	91
表 2	出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)	91
表 3	年齢区分 (Table 3. Division of age)	91

IV 令和2年度 普及啓発事業

1. 展示活動

表 1	展示会一覧	102
-----	-------------	-----

2. 教育普及活動

表 2	教育普及活動一覧 (考古学講座・講演会等) (1) (2)	102・103
表 3	教育普及活動一覧 (古代体験教室) (1) (2)	103・104
表 4	教育普及活動一覧 (遺跡見学会)	104
表 5	教育普及活動一覧 (体験学習・主催事業来館・団体来館) (1) (2)	105・106
表 6	教育普及活動一覧 (発掘調査現地説明会)	106
表 7	教育普及活動一覧 (職場体験)	107
表 8	教育普及活動一覧 (博物館学芸員実習)	107
表 9	教育普及活動一覧 (館外・出前考古学教室) (1) (2)	107・108
表 10	教育普及活動一覧 (職員研修・会議)	108

4. 出版活動

表 11	考古館広報関係一覧 (印刷物・オンライン等)	109
表 12	出版物一覧	109

5. 資料の貸出・調査

表 13	資料の貸出一覧 (1) (2)	109・110
表 14	資料の調査一覧	110

●考古館月別入館者数調

表 15	令和2年度 考古館月別入館者数調 (令和2年4月～令和3年3月)	110
------	--	-----

I 令和2年度

松山市埋蔵文化財調査概要

令和2年度 松山市埋蔵文化財調査概要

概要 令和2年度の埋蔵文化財調査事業は、発掘調査9件(前年度継続1件)、試掘調査105件、年報・報告書刊行2件、出土物整理・保存処理を実施した。

〔発掘調査〕 発掘調査は公共事業3件、民間事業2件、国庫補助事業4件である。なお、現地説明会はコロナウイルスの影響で執り行っていない。

公共事業 (3件)：下難波、東垣生町、南吉田町で調査を行った。下難波腰折遺跡2次調査A区では、古墳2基(5号・6号)を検出した。とくに5号墳では石室内から多量の須恵器や鉄器、装飾品が出土したほか、子持ち器台の装飾須恵器が出土した。装飾須恵器は、松山市南部の古墳に比較的多く副葬されるが北条地区では稀な出土である。東垣生八反地遺跡6次調査では、調査地や周辺地域における室町時代以降の水田区画や規模等を解明することができ、水田様相の一端が明らかになった。遺物では、古墳時代後期、奈良時代の須恵器(坏蓋・坏身・甕)、平安時代中期から鎌倉時代(10～13世紀)の土師器や須恵器、黒色土器、瓦器のほかに施釉陶器や陶磁器、鉄器、木器、動物遺存体(動物歯)等が出土した。掩体壕確認調査では、掩体壕構築以前から現在に至るまでの土地利用の変遷や掩体壕内部と外部の地下構造、掩体壕の構築方法を確認した。

民間事業 (2件)：市内一円で調査を実施した。桑原高井遺跡4次調査では、弥生時代の竪穴建物や土器棺墓と、古墳時代の溝及び中世の掘立柱建物址、柱穴を検出した。松末栄松遺跡では弥生時代の土坑、中世の溝や井戸、柱穴を検出した。遺物では、弥生土器、土師器、陶磁器、石製品、金属製品があり、特に天目茶碗は完形品であり、出土数も少なく注目する遺物である。

国庫補助事業 (4件)：松山城三之丸跡では史跡整備に伴う確認調査を継続的に実施しており、令和2年度は23次調査になる。今年度は、三之丸北御門跡東袖の構造解明を目的に調査を行った。調査では北御門の礎石、北土塁西端と北御門を連結する東袖石垣の一部を確認した。下難波腰折遺跡2次調査B区からは、石室1基(7号墳)を検出した。祝谷大地ヶ田遺跡9次調査では、弥生時代から中・近世にかけての遺構・遺物を確認された。特に注目されるのが弥生時代の土坑SK11である。断面形状がフラスコ状で、赤色顔料が出土し、その下からは散らばった状態で大量のガラス玉が出土した。姫原遺跡3次調査では、弥生時代から中世(鎌倉時代～室町時代)までの竪穴建物、溝、土坑、柱穴を検出した。とくに古代(平安時代)の竪穴状遺構には東壁に造り付けのカマドが設置されていた。内部には柱穴や周壁溝は検出されず、住居ではなく工房的な遺構と考える。

〔試掘調査〕：国庫補助事業として、市内一円における試掘調査によって、埋蔵文化財の内容確認を実施している。埋蔵文化財の確認申込受付件数は243件で前年度(221件)に比べ22件増加した。このうち105件の試掘を行い、50件について遺跡を確認している。(P41～46・表2)

〔年報・報告書刊行〕：令和2年度事業をまとめた『年報32』と2冊の発掘調査報告書を作成した。調査報告書は公共開発に伴う発掘調査事業が1冊(3遺跡)、国庫補助発掘調査事業が1冊(1遺跡)である。(P109・表12)

しもなんばこしおれ

下難波腰折遺跡 2 次調査

所在地 松山市下難波乙 109 番 1、乙 9 番 41、
乙 9 番 42 の各一部（北条地区 包蔵地外）
期 間 令和 2 年 10 月 15 日～令和 2 年 12 月 25 日
面 積 1,349㎡
原 因 A 区：下難波地区農地整備工事（公共事業）
B 区：下難波地区農地整備工事（国庫補助事業）
担 当 相原浩二・山邊進也



図 1 調査地位置図

概 要 下難波腰折遺跡 2 次調査は、昨年度に調査を行った 1 次調査に続いて、今年度は 2 回目の調査である。1 次調査地では、古墳時代後期の古墳 4 基（腰折 1 号～ 4 号墳）の調査が行われた。このうち、2 号墳では全国的にも珍しい木炭床が確認されたほか、1 号墳では翡翠の勾玉が出土するなど大きな成果をあげている。今回の調査地は、1 次調査地から谷を挟んだ南西約 150m に位置し、西方向に緩やかに下る尾根上の標高 26m～28m に立地している。この尾根からの眺望は、西に開けて鹿島や忽那島、陸月島、中島などの瀬戸内に浮かぶ島々を望むことができる。調査は都合上、A 区と B 区に分けて行った。A 区で見つかった主な遺構は古墳 2 基（腰折 5 号、6 号墳）、性格不明遺構 2 基（SX1、SX2）、近世墓 1 基（SK1）、B 区で見つかった遺構は古墳 1 基（腰折 7 号墳）である。

遺構・遺物 見つかった古墳の埋葬施設は、いずれも上部が壊れていて全容は不明であるが 5 号墳は横穴式石室、6 号・7 号墳は石室形態不明の小さな石室である。SX1 は 5 号墳の北側で見つかった遺構である。遺物は、石室内や周溝などから出土した埴輪や須恵器のほか、鉄器や装飾品が出土している。主要な遺構の概要を以下に記す。

[腰折 5 号墳]

石室と周溝を検出した。墳丘盛土は石室の北側と西側に一部を残すのみでほとんど失われている。石室は、主軸方位を N0° にとる南側に開口する両袖式の横穴式石室である。石室は石室前面に東西の石積を伴う前庭部とで構成され、地山に墓坑を掘削して構築される。石室の壁体は比較的大型の石材を使用し、奥壁から入口にかけて 2 段～ 4 段を残す。東側の側壁中央の上段の石積みは石室方向に押されて傾斜し不安定であったため掘削時に撤去している。天井石は石室内への落下も無く、周辺にも見られなかった。玄門に取り付く前庭部の側壁の石積には小ぶりの石材が使用され、1 段～ 4 段を残している。

石室規模は長さ 5.76m（玄室長 4.36m）、幅 1.80m～1.30m、残高 1.20m を測る。玄室床面は直径 2.0cm～6.0cm の玉石を貼床（厚さ 6.0cm～8.0cm）上に敷き詰めて礫床とする。遺物は土師器、須恵器、埴輪、鉄器、装飾品がある。土師器は坏が 1 点のみである。須恵器には高坏、短頸壺、長頸壺、提瓶、鉄器は大刀、鉄鏃、鋤先、刀子、轡、装飾品では耳環、管玉、切子玉、勾玉、平玉、棗玉、ガラス小玉など 170 点以上が出土している。このうち勾玉は水晶、平玉は碧玉、棗玉は琥珀製である。人骨は出土していない。周溝は、石室中央から東側 7.0 m で検出した。南、北、西側では検出していない。検出規模は幅 3.00m、深さ 0.30m～0.40m を測る。遺物は北側で埴輪片が少量出土したのみである。

古墳の墳形と規模は、検出した周溝の形状などから直径 14m 前後の円墳と考えられる。このほか、

下難波腰折遺跡 2 次調査

石室内の埋土からは完形に近い円筒埴輪 2 点のほか、多数の埴輪の破片が出土している。このことは、築造当時の墳丘上には円筒埴輪が立て並べていたものと推察される。

時期：石室内の出土遺物より 6 世紀後半とする。

【腰折 6 号墳】

5 号墳から東へ 24m の尾根上で石室のみを検出した。墳丘の盛土はすべて失われ、周溝なども検出していない。壁体は、基底石の 1 段を残すのみで部分的に抜き取られるほか、石室中央部に東西方向の灌漑用のパイプ溝が掘られるなどひどく壊されている。検出規模は石室内法で長さ 1.10m、幅 0.54m、残高 0.32m を測る。床面は、直径 2.0cm～4.0cm の玉石を貼床（厚さ 3.0cm～4.0cm）上に敷き詰めている。遺物は南側の奥壁沿で須恵器の短頸壺が 1 点出土したほか、床面で馬具や管玉 1 点、土玉 3 点が出土している。人骨は出土していない。

時期：出土遺物より 6 世紀後半～7 世初頭とする。

【腰折 7 号墳】

6 号墳から東へ 29m の尾根上で石室のみを検出した。壁体は基底石の 1 段を残すものの、部分的に抜き取られている。石室南側には東西方向に灌漑用のパイプ溝が掘られている。墳丘の盛土はすべて失われ、周溝などの施設も検出していない。このため墳形、規模とも不明である。検出規模は石室内法で長さ 1.60m、幅 0.66m、残高 0.28m を測る。床面は、直径 2.0～4.0cm の玉石を貼床（厚さ 3.0cm～4.0cm）上に敷き詰めている。遺物は北側の床面上で勾玉 1 点、管玉 2 点、ガラス小玉 22 点などが出土している。

時期：6 号墳の石室形態に似ていることから 6 世紀後半～7 世初頭とする。

【SX1】

SX1 は 5 号墳の北側で検出した遺構である。遺構の南側は 5 号墳の石室墓坑に切られている。平面形態は不整形である。西側に向かってのびるが北側や西側は開墾などにより削平されて全容は不明

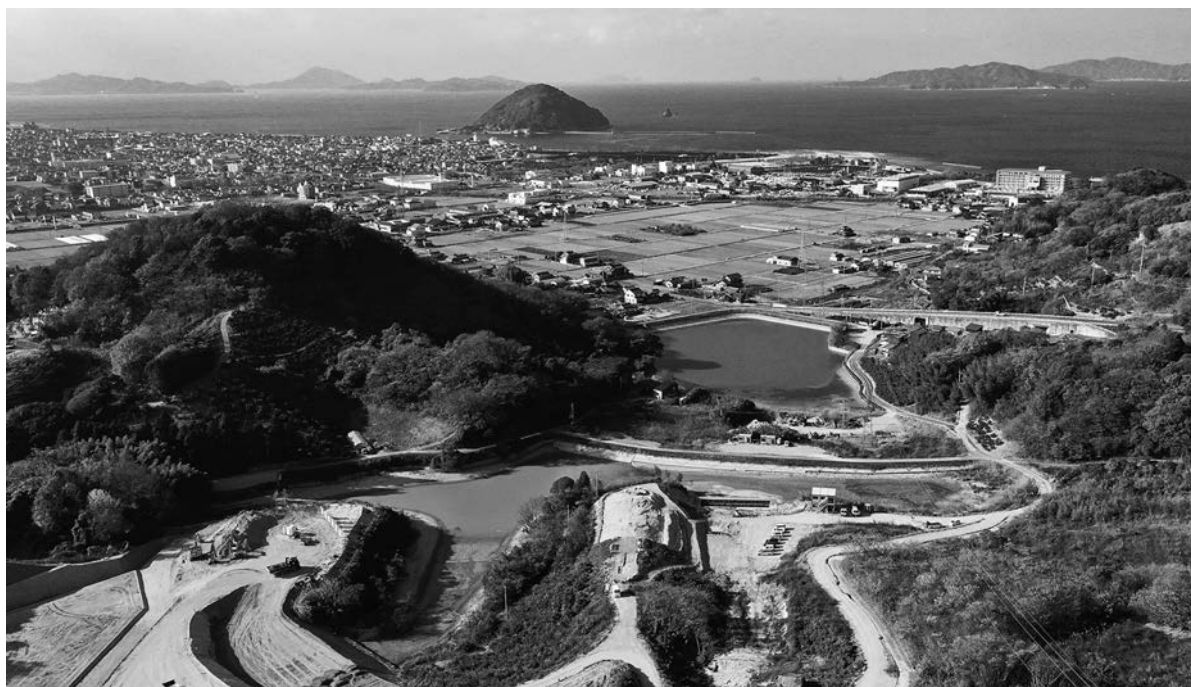


写真 1 調査地全景（東上空より）

下難波腰折遺跡 2 次調査

である。検出規模は南北 1.30m～3.00m、東西 5.70m、検出面（地山）からの深さ最大で 0.71m を測る。5 号墳の石室墓坑との切り合い関係より 5 号墳築造前の遺構である。遺構の性格は、完形の土器や鉄器がまとまって出土していることから、古墳を含めた何らかの祭祀に伴う遺構と考えられる。土層観察からは、SX1 を埋め戻した後に 5 号墳の墳丘盛土にパックされている様子が看取される。遺物は土師器の甕 1 点、須恵器の蓋坏がセットで 3 点、甕 1 点、鉄製の鋤先 1 点などが出土している。

時期：出土した蓋坏の形態より 5 世紀後半とする。

まとめ 下難波地区には多くの古墳の存在が知られているが、本格的な発掘調査の事例は少なく、様相が不明な地域であった。下難波腰折遺跡では 1 次調査の 4 基、今回の 3 基を含めた 7 基の古墳を調査することができた。いずれも、6 世紀以降に築造された後期古墳と呼ばれる古墳で石室形態や副葬品の種類など、下難波地区の古墳の様相を知る貴重な資料を得ることができた。（相原）

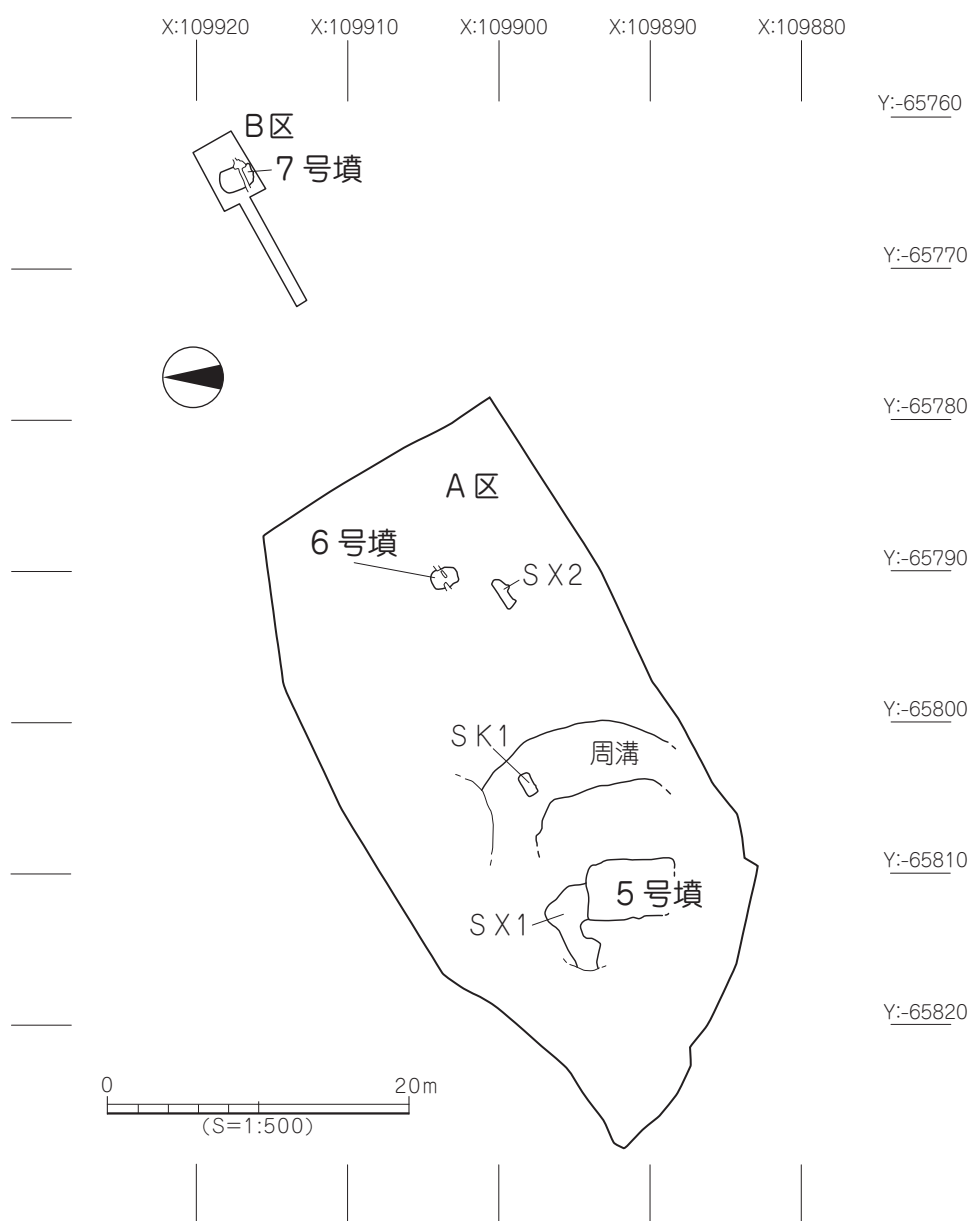


図 2 遺構配置図



写真2 5号墳 石室全景 (北上より)



写真3 5号墳 奥壁より玄門を望む (北より)



写真4 5号墳 玄室床面の玉類出土状況 (南より)



写真5 5号墳 玄門より奥壁を望む (南より)

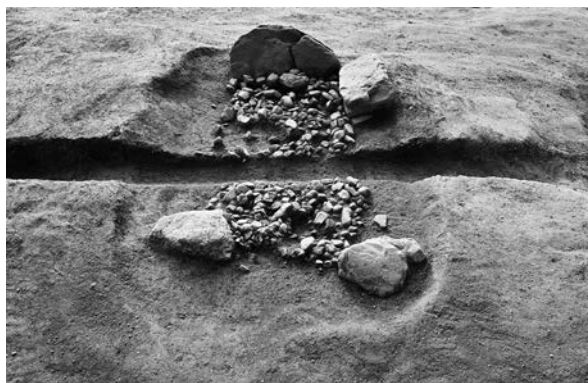


写真6 6号墳 石室検出状況 (北より)



写真7 7号墳 石室検出状況 (北より)



写真8 SX1 検出状況と5号墳石室 (北西より)

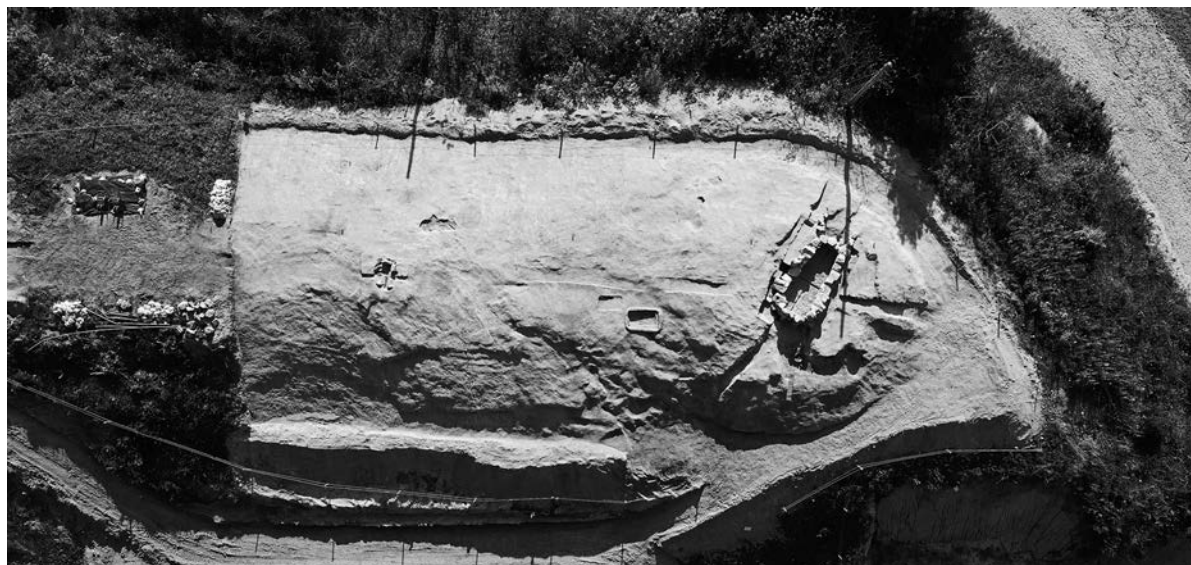


写真9 1区全景(真上より)



写真10 5号墳玄室内出土「子持ち高坏①」



写真11 5号墳玄室内出土「子持ち高坏②」

ひめばら

姫原遺跡 3 次調査

所在地 松山市姫原一丁目甲 33 番、甲 33 番 2
(松山地区No.168 姫原遺物包含地)

期 間 令和 2 年 5 月 7 日～ 6 月 30 日

面 積 234.16㎡

原 因 個人住宅建設 (国庫補助事業)

担 当 水本 完児
新原 佑典 (文化財課)

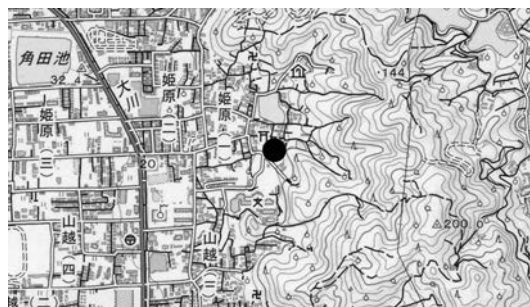


図 1 調査地位置図

概 要 当調査地は、松山平野北部、高縄山系から南西に派生する御幸寺山塊の丘陵裾部、西向き斜面に位置し、現地標高約37.8m～37.2mを測る。上記包蔵地として、縄文時代の散布地と記載されているが、周辺では2次の調査が行なわれ、弥生時代から中世に至る集落及び生産域が確認されている。南西約250m地点には、横穴式石室3基と箱式石棺が調査された影浦谷古墳が所在する。

遺構・遺物 検出した主要な遺構は、弥生時代の溝1条、古墳時代の溝2条及び土坑2基、古代の竪穴建物1棟、中世の土坑4基である。溝(SD1)は、後世の削平を受け全容は明瞭ではないが、丘陵の等高線に沿うように掘削され、南北方向に展開する。長2.8m、幅0.7m、深0.1mを測り、断面は舟底状を呈する。遺物は弥生時代後期の土器とともに、ガラス管玉1点及び細片が出土した。竪穴建物(SB1)は隅丸方形の平面形態で、南北長2.2m、東西長2.23mを測る。東西軸を取り、東壁南寄りの隅角部付近に竈を付設する。竈は平面コ字形を呈し、焚口幅0.55m、奥行き0.5m、残存高0.2mである。焚口と燃焼部はほぼ同一幅である。掛口部は遺存していない。竈の構築にあたっては、建物の壁体を拡張し、床面を掘り窪め、側壁に先行して砂質土で奥壁を設置する。そののち、フラットな基底面を設定した上でやはり砂質土で側壁を組み立てる。側壁はほぼ垂直に立ち上がるが、奥壁は外傾する。右壁よりも左壁が焚出部にせり出す。炉壁は赤変しており、また火床に炭化物、灰を含有する2層の堆積層が確認されることから、数次の燃焼行為が窺われる。竈の内部には、支脚などその使用に関する遺物は認められなかったが、燃焼部の埋土に赤変した壁体が落ち込んでいたことから、廃絶に伴い破却されたものと考えられる。竈の北、建物内床面から把手付きの大型甕が出土し、SB1は古代の建物と考えられる。このほか鞆の羽口片も出土している。またSB1の西、建物東壁から2.3mの位置に、いずれも径0.4mのピットが2基、南北に並んで検出された。SB1と同色の埋土であることから、建物に伴うものとも考えられ、小屋掛け様の建物となる可能性がある。このほか中世に位置付けられる土坑4基(SK3～SK6)については、いずれも平面は不定形であるが、一部に瓦器碗の破片を含むことから、墓の可能性はある。

遺構に伴わない遺物であるが、銅鏃1点が出土した。残存長4.3cm、鏃身幅1.2cm、厚0.4cm。有茎で鏃は有さず、断面は扁平な六角形を呈す。全面に研磨を施し、鋒、刃部、関を形成し、茎にも及ぶ。鋒と茎の先端を欠失する。弥生時代の所産と考えられる。

まとめ 古代の遺構であるSB1は、一辺約2mと小型で西斜面に開口する竈を有しており、工場の可能性が窺われるが、類例の検討が必要である。また弥生時代の銅鏃については、松山市域では船ヶ谷遺跡の土器棺副葬例など出土状況の明確なものを除くと、大部分は遺構に伴わないものである。今後は既出資料の再整理を行うなど型式学的な検討を含め、資料の位置づけを図りたい。(新原)

姫原遺跡 3次調査

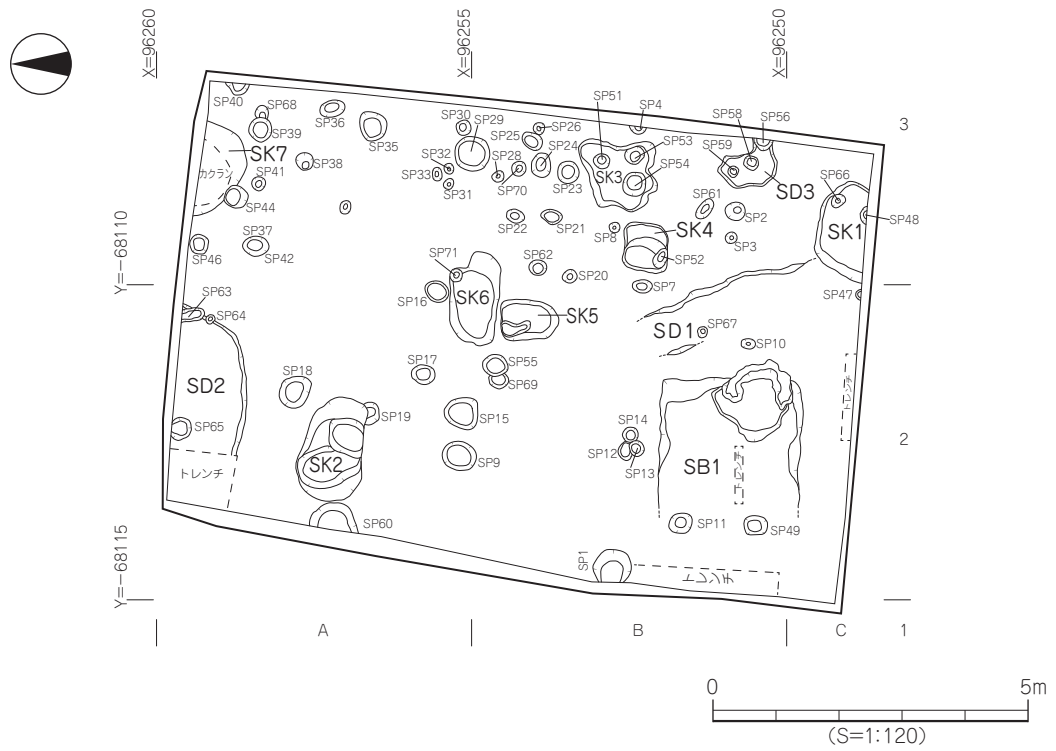


図2 遺構配置図



写真1 調査地近景 (北より)



写真2 竪穴建物及び竈完掘状況 (西より)



写真3 銅劔

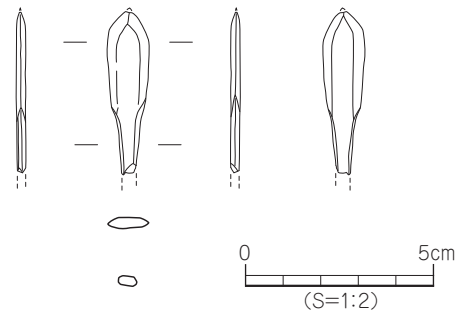


図3 銅劔実測図

いわいだにおおちがた
祝谷大地ヶ田遺跡 9次調査

所在地 松山市祝谷五丁目 824 番 1 の一部
(松山地区No.55 祝谷大地ヶ田遺跡)

期 間 令和 2 年 7 月 1 日～同年 8 月 31 日

面 積 387.87㎡

原 因 宅地造成

担 当 水本完児
山内英樹 (文化財課)



図 1 調査地位置図

概 要 調査地は松山平野北東部、西側の谷部に向かう標高 48m の丘陵緩斜面に位置する。当該地を含む「祝谷大地ヶ田遺跡」は、これまで 8 次にわたり発掘調査が実施され、弥生時代前期から中期の大量の土坑群（貯蔵穴）や、古墳時代中期の馬蹄形周壕を伴い、周壕外面に葺石を伴う前方後円墳（祝谷 9 号墳）、さらには横穴式石室を埋葬主体に持ち、豊富な副葬品を有する後期古墳（祝谷 6～8・11 号墳）など、同時期の貴重な調査成果が相次いでいる、松山平野でも注目される地域である

遺構・遺物 本調査では、上層では近・現代の水田・柑橘に伴う削平・攪乱がみられるものの、その下層では主に弥生時代から中世（一部に江戸期）にかけての遺構・遺物が出土している。

主な遺構としては溝 3 条、土坑 19 基、柱穴 68 基、性格不明遺構 3 基で、出土遺物も弥生土器・土師器・須恵器のほか、サヌカイト剥片や玉製品（ガラス玉）、陶器などが挙げられる。

注目される遺構としては、周辺の調査でも確認された弥生時代中期の袋状土坑（貯蔵穴か）が、本調査でも確認された点である。SK3 は断面フラスコ状を呈し、規模は径 1m を超える大型のもので、下層から弥生土器（甕・壺・鉢）がまとまって出土している。

また、弥生時代中期の遺構としては、赤色顔料およびガラス玉が確認された SK11 が注目される。底部がフラスコ状を呈し、赤色顔料を取り除いた下面に、一定範囲で水色のガラス玉（幅 0.4～0.5cm・厚さ 0.2cm 前後）が散布された状態で出土している。単なる貯蔵用とは異なり、土坑自体の性格を考える上で重要な成果である。なお、ガラス玉は破片復元を合わせ 42 点確認されており、①穴は両面穿孔、②ガラス内の気泡が引き延ばされた形跡がない、③表面に原料の窪みが残る、などの特徴から、原料のガラス玉（製品）を割った破片を「再加工」して作られた可能性が高い。

さらに、古墳時代後期と想定される SX3 は、長軸 4.1m の隅丸形状を呈し、貼床と思われる床面上層から須恵器および台石が出土している。規則的な柱穴配置はみられるものの、恒常的な居住施設ではなく一時的な「作業空間」であった可能性が考えられる。

まとめ 本調査では弥生時代から中近世にかけての連綿とした遺構・遺物の展開および、「祝谷大地ヶ田遺跡群」の南端を把握することができた。また、ガラス玉については「鉛バリウムガラス（註 1）」の可能性も指摘されており、全国的にみても 1 遺跡からの出土量としては特筆すべきものである。

今後は祝谷地区における弥生時代中期および古墳時代後期の有力首長層を支える集団の存在について、「道後城北遺跡群」を含めた広範な視点で検討する必要がある。（山内）

（註 1）資料実見された奈良女子大学・大賀克彦氏のご教示による。

祝谷大地ヶ田遺跡 9次調査

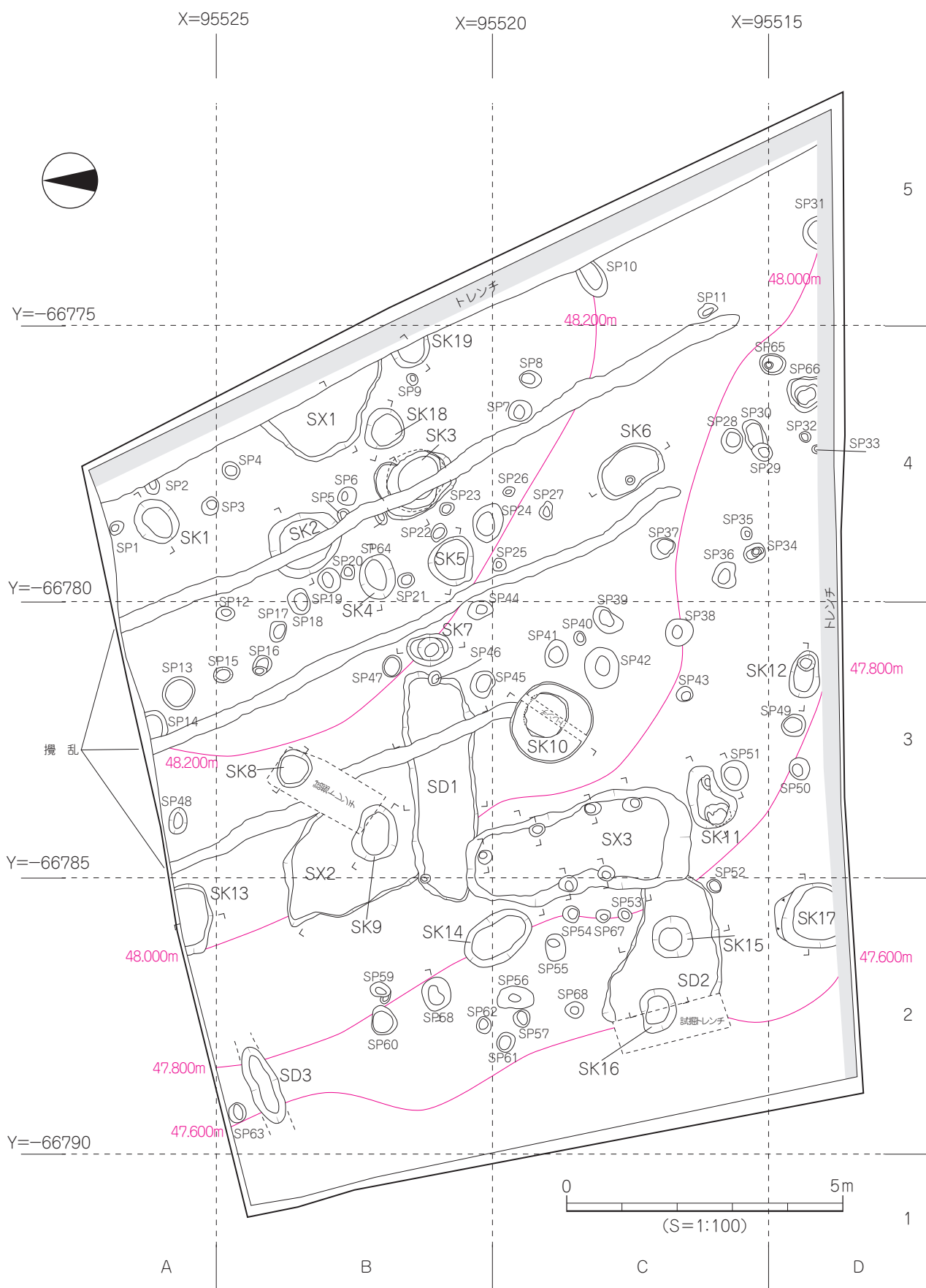


図2 遺構配置図



写真 1 遺構完掘状況（北東より）

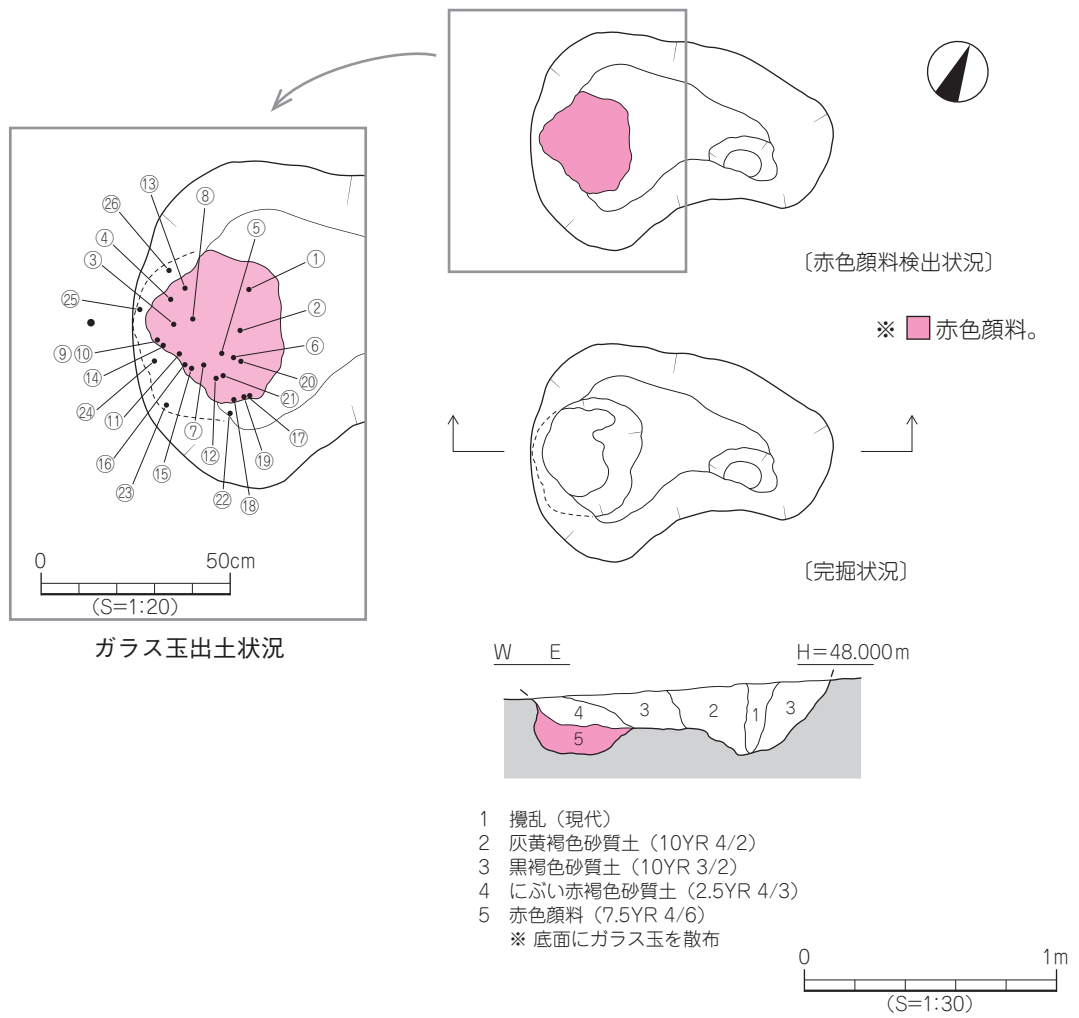


図 3 SK11 測量図



写真 2 SK3 完掘状況 (西より)



写真 3 SX3 遺物出土状況 (南より)

ひがしはぶはったんじ
東垣生八反地遺跡 6次調査

所在地 松山市東垣生町 650 番 1、651 番 1、652 番 1、
653 番 1、663 番、664 番、654 番 1、651
番 5 の各一部（松山地区 包蔵地外）
期 間 令和 2 年 2 月 3 日（月）～同年 8 月 7 日（金）
面 積 2,088㎡
原 因 （仮称）松山市新垣生学校給食共同調理場
整備事業
担 当 宮内 慎一・宮脇 和人



図 1 調査地位置図

概 要 本調査は、松山市教育委員会事務局保健体育課と委託契約を締結して実施した（仮称）松山市新垣生学校給食共同調理場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査である。調査地は松山平野西部、標高 4.50～4.60m に立地する。調査地が所在する松山市東垣生町周辺では平成 26 年度から 28 年度にかけて、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センターと公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センターとにより、松山外環状線道路（空港線）整備に伴う発掘調査（余戸中ノ孝遺跡・余戸柳井田遺跡・東垣生八反地遺跡・南吉田南代遺跡）が実施され、弥生時代から古墳時代の竪穴建物をはじめ、平安時代から室町時代の集落址や生産址が発見されている。集落址では鎌倉時代の建物址や溝、土坑のほか土壙墓や井戸址が検出され、生産址では鎌倉時代の終わり頃から室町時代の水田址や畠址が検出され、鋤跡や畝溝のほか数多くの足跡（人・牛）が見つまっている。本調査は、調査対象地内を 5 つの地区（1～5 区）に分区して実施した。調査では平安時代後半から鎌倉時代の集落跡や鎌倉時代後半から室町時代の水田址を検出した。集落址は 2 区と 5 区で発見され、掘立柱建物址や土坑、井戸址などが検出されている。一方、水田址は全調査区で検出され、畦畔や鋤跡、足跡が見つまっている。遺物は土師器、須恵器、瓦器、緑釉陶器、国産陶磁器（亀山焼・古瀬戸）、輸入陶磁器（白磁・青磁）のほか砥石や鉄製品、木器、動物骨などが出土している。ここでは、調査区毎に概要を説明する。



写真 1 調査地全景（南東より）

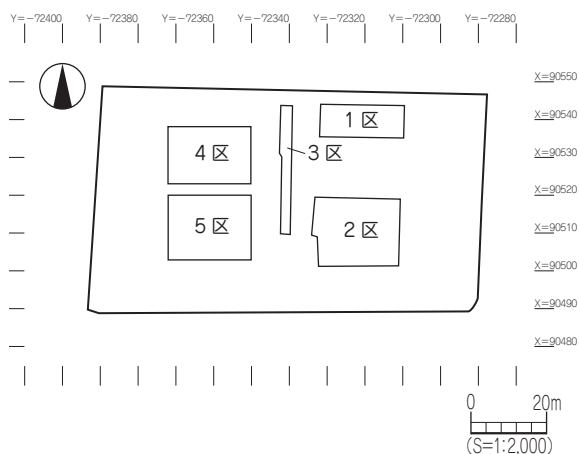


図 2 調査区測量図

東垣生八反地遺跡 6 次調査

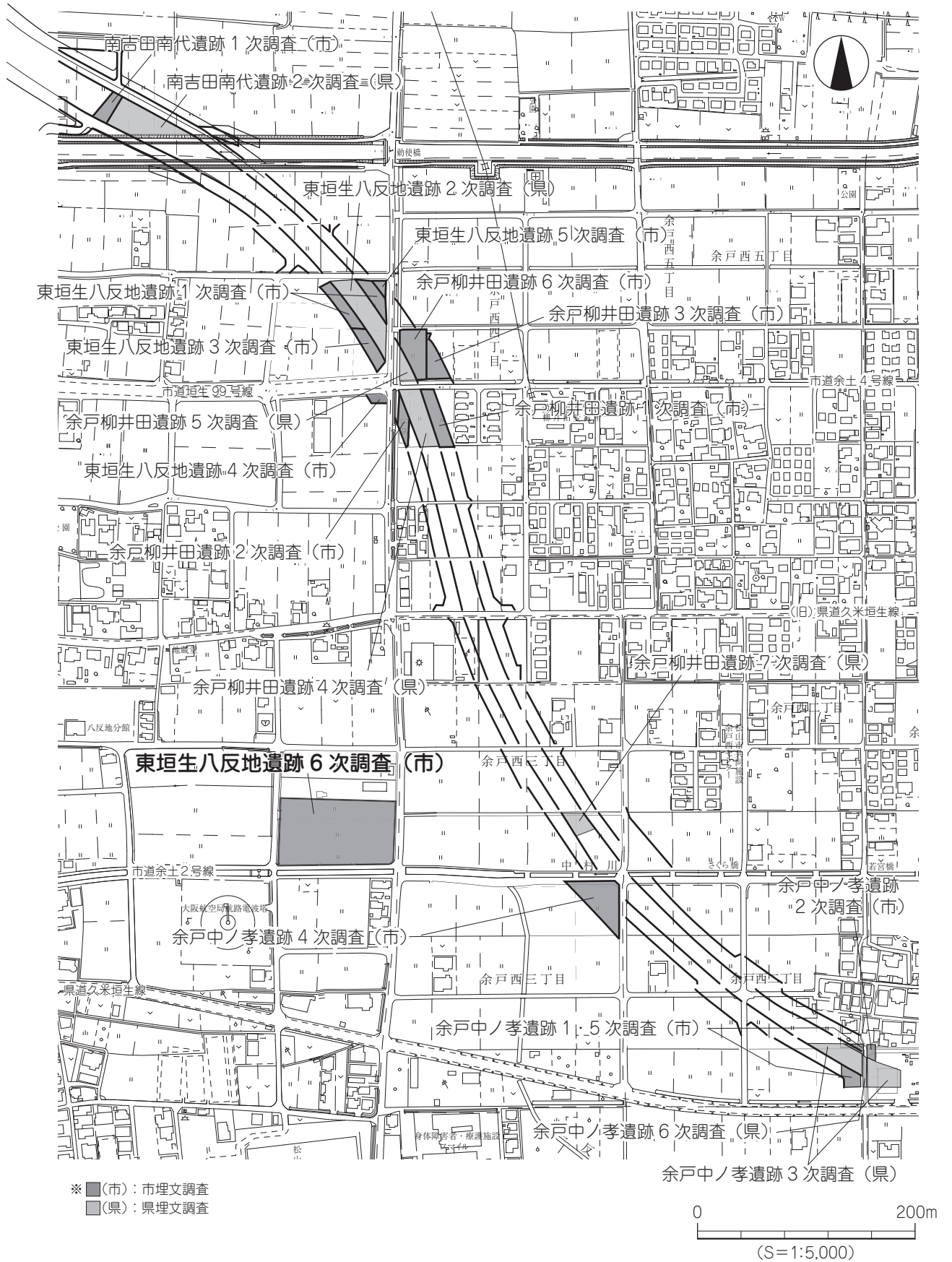


図3 周辺遺跡分布図

遺構・遺物

〔1 区の調査〕

1 区からは、畦畔と牛耕に伴う鋤跡や 4,000 ケを超える人や牛の足跡を検出した。水田址は海拔標高 3.1m 前後の地点で検出され、粘り気の強い灰色土が水田土壌である。水田は洪水等により運ばれた灰白色や褐色砂で埋没している。水田土壌からは、室町時代の土師器片（坏・土釜）が数点出土している。

〔2 区の調査〕

＜水田址＞ 2 区では水田址が 2 面あり、2 区西半部からは 1 区検出と同様の水田址を検出した。一方、東半部では西半部より水田面が約 10cm 高くなっており、灰色の粘質土が水田土壌である。2 区からは幅 30cm、高さ 5cm 前後の畦畔と幅約 3m、高さ 10cm 前後の大畦畔を検出した。水田は 1 区と同様、洪水砂で埋没しており、水田土壌や砂からは瓦質土器（羽釜）や亀山焼の破片が少量出土した。2 区からは、5,700 ケ余りの足跡を検出している。

＜集落址＞ 水田面の地下約 30cm の地点にて、集落址を確認した。検出した遺構は掘立柱建物址 2 棟、溝 1 条、土坑 9 基、井戸址 2 基、柱穴 209 基である。このうち、掘立 202 は 2 間 × 2 間（4.8m × 4.3m）規模の総柱建物で建物柱穴内には当時使用された柱材の一部が遺存していた。また、土坑内からは主に平安時代後期の土師器や須恵器、瓦器などがまとまって出土している。注目される遺構は土坑 SK202 で、土坑中位には炭化物が厚さ 5cm 程度堆積している。基底面には扁平な円礫や角礫が敷き詰められているが、土坑西側は礫が円を描くように配置されており、中央部には礫がなく、その部分からは湧水が認められた。このほか、井戸 SE201 は掘り方の直径が約 3m、深さは 1.1m あり、掘り方中央部には木杭と板材が方形状に組み合わせり、井戸枠として利用されていた。遺物は掘立 202 や井戸址内

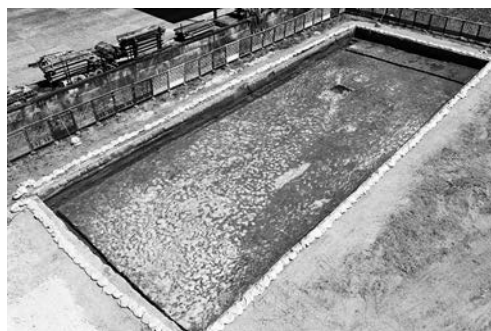


写真 2 1 区全景（南西より）



写真 3 2 区水田址検出状況（西より）



写真 4 2 区集落址検出状況（北より）

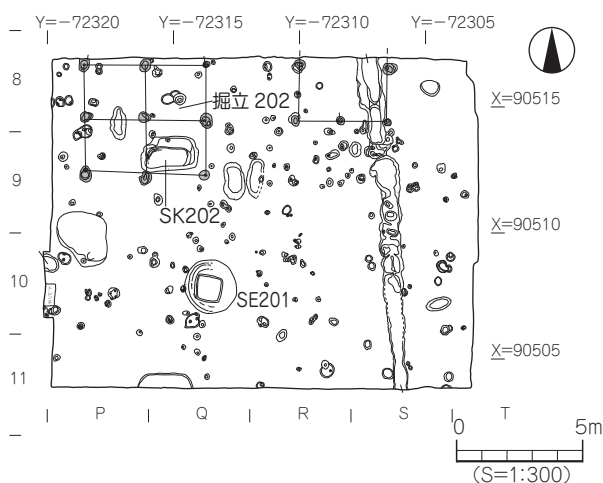


図 4 2 区遺構配置図



写真 5 掘立 202 検出状況 (北より)



写真 6 掘立 202 柱材遺存状況 (南より)



写真 7 SK201 遺物出土状況 (南より)



写真 8 SK204 遺物出土状況 (南東より)



写真 9 SK208 遺物出土状況 (北西より)



写真 10 SK202 検出状況 (東より)



写真 11 SK202 敷石検出状況 (東より)



写真 12 SE201 半截状況 (北東より)

より松山市内では出土例の少ない楠葉型の瓦器
 埴（口縁部片）が出土し、土坑からは緑釉陶器
 や白磁のほかに吉備地方からの搬入品と思われ
 る土師器埴などが出土している。

〔3 区の調査〕

3 区では、海拔標高 3.0m ～ 3.1m の地点にて
 畦畔や水路、足跡を検出した。1 区と同様、灰
 色の粘質土が水田土壌であり、洪水等による灰
 色砂や褐色砂で埋没している。畦畔は幅約 30
 cm、高さ 3cm 程度の小規模なもので、3 区北西
 隅にて南北方向に長さ 6m 程度を検出した。ま
 た、畦畔に付随して水田に水を供給するための
 水路を一部検出している。なお、足跡は総数
 2,800 ケを検出し、このうち牛と思われる足跡
 は 724 ケである。

〔4 区の調査〕

4 区では 1・2・3 区で検出した水田と同様の
 水田址を検出した。水田土壌は灰色粘質土
 で大小の畦畔と鋤跡、足跡が見つかった。小
 畦畔は 4 区北側にあり、幅 30cm ～ 40
 cm、高さは約 3cm である。また、大畦畔は幅
 約 3m、高さ 5cm 程度で、4 区中央部付近を東
 西方向にのび、途中、南側 5 区の方へ「T」
 字状に分岐している。なお、水田は調査壁の
 土層観察により、少なくとも 3 面存在してお
 り、大畦畔は最も新しい時期の水田に伴うも
 のである。水田層や水田を覆う砂からは主に
 室町時代の土師器片が少量出土している。4
 区では総数 25,000 ケの足跡を検出し、牛の足
 跡は約 8,000 ケである。

〔5 区の調査〕

5 区からは、集落址と水田址を検出した。
 <水田址> 5 区では 1・2・3・4 区で検出した
 水田と同様の水田址（灰色粘質土）が見つ
 かり、大小の畦畔や鋤跡・足跡を検出した。小

畦畔は 5 区南西部にあり、幅 30cm、高さは 3cm 程度である。大畦畔は 5 区中央部を南北方向にのびて
 おり、4 区検出の大畦畔と接続するものと思われる。なお、大畦畔は 5 区北側において東側に分岐し
 ている。足跡は総数約 14,000 ケを検出し、牛の足跡は約 4,700 ケである。なお、足跡や鋤跡は灰色砂



写真 13 3 区全景（北より）



写真 14 4 区全景（北西より）



写真 15 5 区水田址検出状況（南東より）

や灰色微砂で埋没している。水田土壌からは土師器、須恵器の破片や古瀬戸の『おろし皿』が出土した。

<集落址> 5区では、水田面の地下約30cmの地点にて集落址を発見した。検出した遺構は溝2条、土坑3基、柱穴96基である。なお、5区は地下水の水位が高く、調査時は常に滞水状態であり、遺構の掘削や測量作業は困難を極めた。溝からは平安時代の土師器や須恵器のほか、緑釉陶器の破片などが出土している。また、柱穴内からは古墳時代後期から奈良時代の土師器片や須恵器片（坏・高坏）が数点出土したほか、21基の柱穴からは土師器土鍋の破片が出土している。

まとめ 本調査では主に平安時代から室町時代の遺構や遺物を確認した。平安時代後期では完形品を伴った複数の土坑のほか、溝や井戸址を検出した。また、鎌倉時代では建物址や土坑を検出している。周辺調査においても同時期の遺構が多数確認されており、東垣生町周辺には該期の集落が広範囲に存在していたものと考えられる。一方、既往の調査では室町時代以降、調査地一帯では水田経営が広範囲に行われていたことが明らかになっており、今回の調査でも同様の結果が得られた。これまでの調査からは水田の形状や規模等は明らかになっていなかった。今回の調査では畦畔の配置より東西、南北方向に長い長方形の水田区画が存在したことが明らかになり、この水田区画は現在まで継承されたと考えられる。なお、大畦畔の検出は初例であり、当時の水田様相を解明するうえで貴重な調査成果といえよう。（宮内）



写真 16 5区集落址完掘状況（南東より）

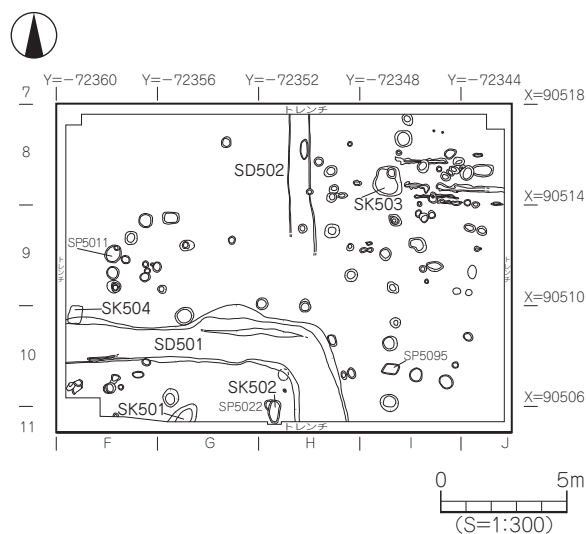


図 5 5区遺構配置図

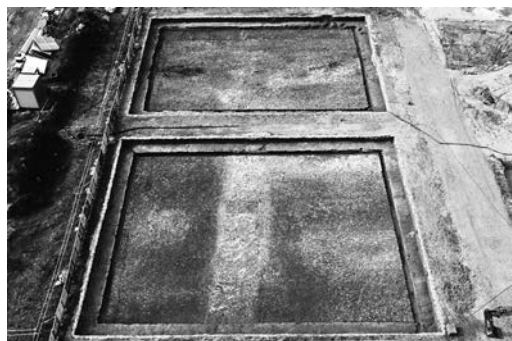


写真 17 4区5区水田址検出状況（南より）

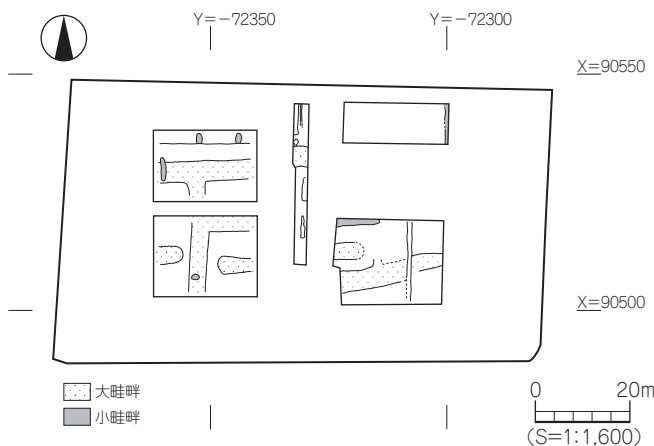


図 6 畦畔検出状況図

まつやまじょうさんのまるあと
松山城三之丸跡 23 次調査

所在地 松山市堀之内堀之内 13 番 9
(松山地区No.74 史跡松山城跡)
期 間 令和 2 年 11 月 9 日～同年 12 月 25 日
面 積 約 120㎡
原 因 史跡整備に伴う確認調査 (国庫補助事業)
担 当 橋本雄一・河野史知・宮脇和人



図 1 調査地位置図

概 要 国史跡「松山城跡」は、道後平野北部の独立丘陵である「勝山」を中心に構築された近世城郭である。松山市では、「城山公園 (堀之内地区) 整備計画」を基に城山公園堀之内地区の整備を進めており、基礎資料の取得と遺構の保護を目的として、平成 13 年度から確認調査を実施している。今年度は三之丸北御門跡東袖の構造解明を目的に調査を行った。調査の結果、北御門の礎石を検出することはできなかったものの、北土塁と北御門を連結する東袖石垣 4 基を確認することができた。

遺構・遺物 東袖石垣は、土塁と北御門との間を結ぶ石垣 3 と、これに直交し土塁西端を北へ伸びる石垣 4、北御門城内側の石垣 5 と石垣 6 で構成される。石垣 3 最下段の石材は、築城期の地面を掘り込んで設置されている。昨年度調査の 22 次石垣 1 と同様、「鏡石」が配置されていることから、城外側からの見栄えを意識していることがわかる (『年報 32』)。

石垣 4 は北御門東袖に幕末期に増設された石垣である (図 3)。昨年度調査の石垣 2 に対応する。石垣 2 と同様、門の際では 4 石積みと考えられるが、北へ向かうにつれて高さを減じ、北端では 2 石ほどであったと想定している。最下段の石材で南北長約 9.9m を確認した。石垣 1 に対する石垣 2 と同様、石垣 3 に垂直に取りつくことから、石垣 4 は明治期に近い幕末期を上限とする時期に増設されたものとみられる (『年報 32』)。

石垣 4 と石垣 2 との間の距離は、約 19.7m (10 間) で、文献に記された櫓の桁行寸法 (10 間・19.7m) に対応することから、幕末期に石垣 4 と石垣 2 を増設する際に、櫓の東西端の位置にあわせた配置としたのであろう (図 4)。

石垣 5 と石垣 6 は、北御門東袖の南側 (城内側) を構成する石垣である (写真 2)。調査区南端において僅かに検出されたものであるが、石垣 5 には巨石が配置されている。一方、これに垂直に接続する石垣 6 の石材は石垣 4 と比べて明確に小さいことから、北御門東袖城内側の石組は城外側と比べて高さが低かったとみられる。

石垣 5 に接して石組溝が 1 条検出された (写真 2)。幅 0.52m で花崗岩の割石の平坦面が溝の底にあたる。城外側では検出されていないことから、城内側だけに設けられた雨落溝と考えられる。築城期の屏風絵には描かれていない。なお、溝底の割石の面を検出する直前に、厚さ 1～3cm 程度の赤みを帯びた褐色粘質土の堆積が確認されており、北御門を撤去した際に瓦を固定するために用いられた粘土が周辺に散らばったものではないかと推測している。スサは含まれていない。これと同様の土層が城外側の石垣 3 と石垣 4 の接点付近でも確認されており、瓦の破片が多量に含まれていた。また、昨年度調査の石垣 1 と石垣 2 の接点においては、瓦片よりも拳大の礫 (栗石) が多く含まれていたこ

とから、土塁の土砂が石垣 2 の増設後に流入したもので、これの直下が幕末期ころの道路面に対応することがわかっている（図 4）。

西拡張区では、幕末期と考えている青灰色砂の硬化面（道路面）において、土坑状の掘り込みを 1 基検出した（写真 3）。礎石の抜き取り穴である可能性も考えたが、この場所の地下に礎石が現存する証拠ではないかと推測している。

まとめ 昨年度の調査時に、石垣 2 に接して「盛土」と呼んだ構造物の存在を想定したが（『年報 32』）、今次の調査成果を踏まえると、廃城直前の道路肩を反映した構造と理解する方がより自然な解釈ではないかと考えている。「盛土」上面において先に述べた粘土層が認められることも、北御門解体時の路肩の構造を反映しており、門の正面の路面（青灰色砂硬化面）に比べて東西袖寄りが一段高く設定された路肩であったことを裏付けているのではないかと推測している（図 4）。（橋本）

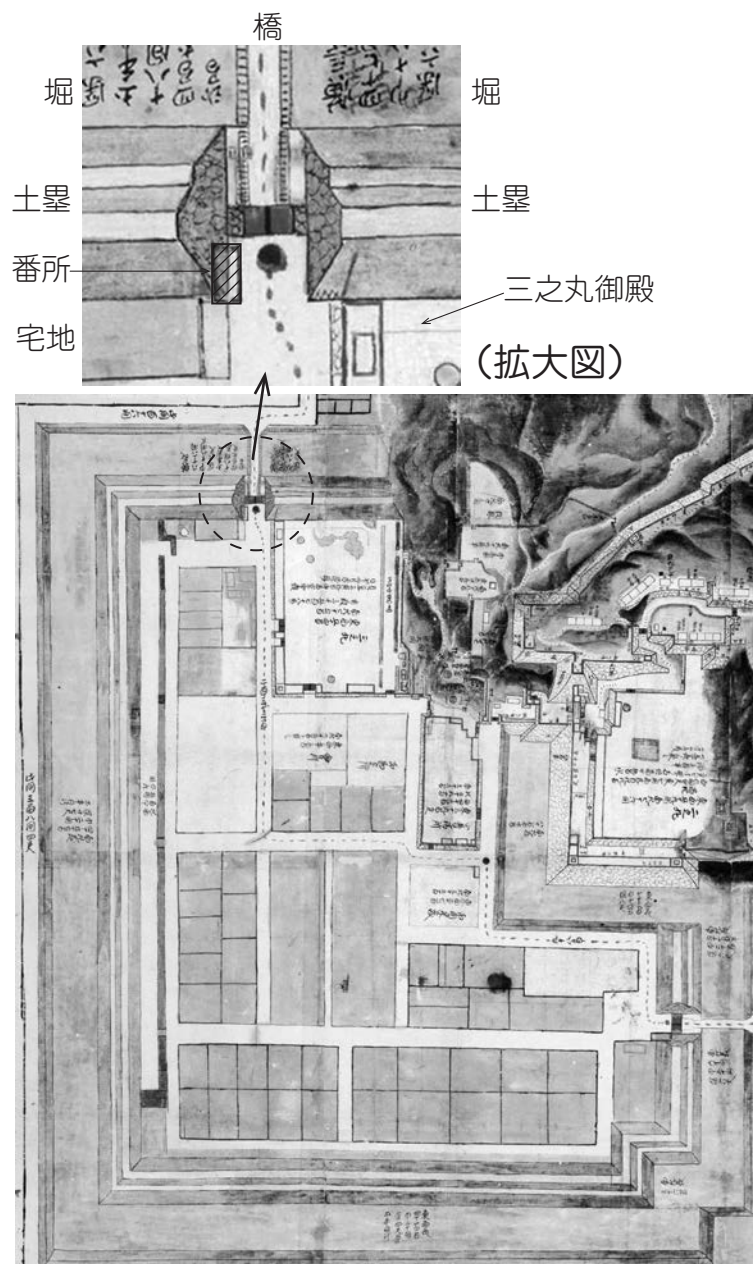


図 2 『亀郭城秘図』北御門付近の描写

松山城三之丸跡 23 次調査

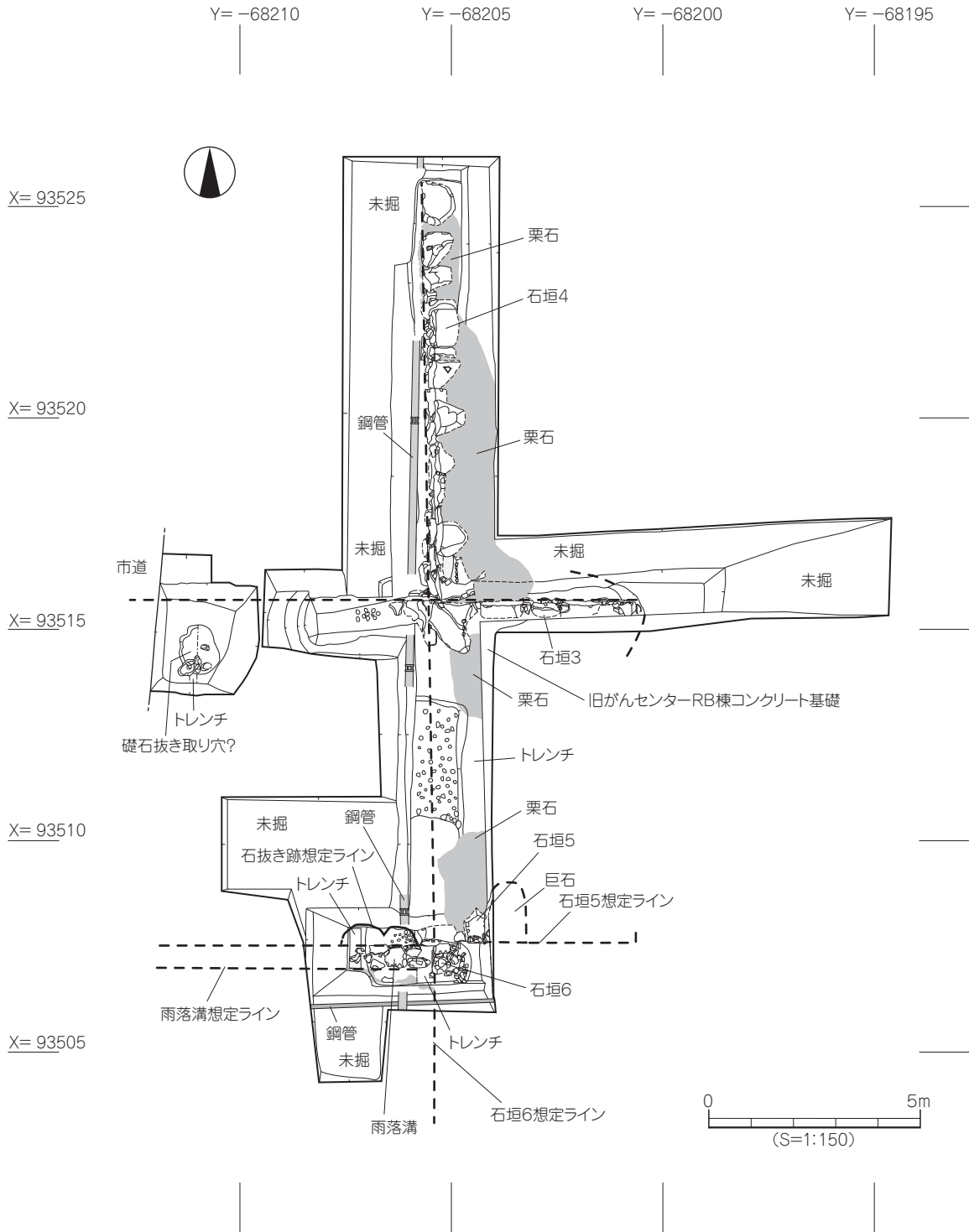


図 3 遺構配置図

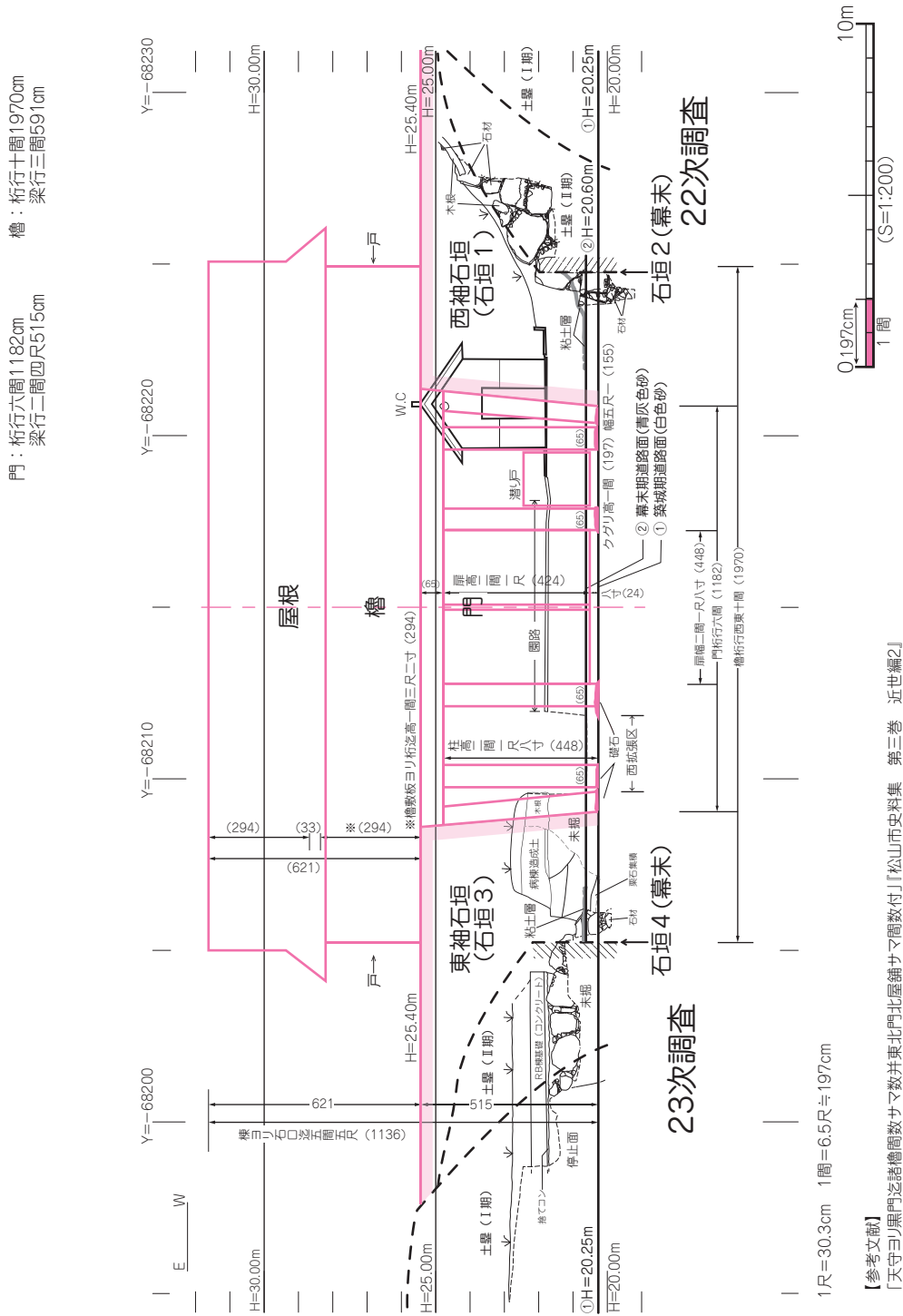


図 4 北御門復元想定図



写真1 石垣4全景（北北西より）



写真2 石垣5に対する石垣6と雨落ち溝の接続（南東より）



写真3 礎石抜き取り穴と青灰色砂の道路面（北北西より）

くわばらたかい

桑原高井遺跡 4 次調査

所在地 松山市桑原一丁目 778 番、779 番 1 の
各一部及び 778 番地先
(松山地区No.82 桑原・東本遺跡群)

期 間 令和2年10月1日(木)～同年10月30日(金)

面 積 115.68㎡

原 因 分譲住宅工事

担 当 宮内 慎一・宮脇 和人



図 1 調査地位置図

概 要 本調査は、民間業者による分譲住宅工事に伴い実施した埋蔵文化財の発掘調査である。調査地が所在する松山市桑原地区は市内でも有数の遺跡地帯であり、調査地周辺では桑原高井遺跡として3度の発掘調査が行われ、弥生時代終末期の竪穴建物や溝のほか、中世の建物址などが確認されている。今回の調査では竪穴建物1棟(弥生時代後期後半)、掘立柱建物2棟(鎌倉時代)、溝1条(古墳時代後期前半)、土器棺墓1基(弥生時代後期後半)、柱穴104基を検出した。遺物は弥生土器(後期～終末)、土師器(古墳～鎌倉時代)、須恵器(古墳)、陶磁器、鉄製品などが出土した。このほか、2種類の火山灰〔アカホヤ・始良カルデラ〕を確認している。

遺構・遺物 各遺構は地表下約50cm、海拔標高36m前後に堆積する『にぶい褐色土』上面にて検出した。本層上面は調査地北側から南側に向けて緩傾斜をなしているが(比高差5cm)、本層中には、本層下面に堆積するAT火山灰がブロック状に混入する箇所が多数みられた。

調査地北部にある推定直径7m前後の円形竪穴建物(約1/4を検出)からは、主柱穴や周壁溝、炉址を検出した。このうち、炉址は検出幅0.6m、検出長0.8mの楕円形状の掘り方をもち、幅10cm、高さ5cm程度の土提を伴っているが全周はせず、途切れた部分の周辺には大量の炭化物を検出したことから、掃き出し口をもつ構造であると思われる。竪穴内からは完形品の出土はなく、検出状況から人為的に埋め戻された建物と考えられる。出土した遺物には口縁部を故意に打ち欠いた壺や線刻を施した土器片3点が出土しており、建物廃絶に伴い、これらを用いた何らかの祭祀儀礼が執り行われたものと推測される。また、建物に近接して土器棺墓を検出した。複合口縁壺を棺身、鉢形土器を棺蓋とする合口式壺棺墓であり、竪穴建物とほぼ同時期の遺構と考えられる。楕円形状の掘り方は壺の形状に合うように掘削されており、基底面には土器片を数枚重ね合わせることで、棺身である壺を固定していることが分かった。次に、古墳時代では調査地南東部にて北東-南西方向の溝を検出した。溝内からは弥生土器片(終末)や須恵器坏蓋・坏身片(6世紀前半)が出土している。埋土中には砂や小礫を含んでおり、水利に伴う溝と考えられる。また、調査地中央部付近では掘立柱建物を検出した。1間×1間、2間×1間の小規模な建物址で、建物柱穴内からは鎌倉時代の土師器坏や土鍋の破片が出土している。このほか、表採資料ではあるが、表土中から日本刀の鞘に付属する鉄製の小柄(こづか)が出土した。

まとめ 今回の調査による竪穴建物や溝の検出は、弥生時代や古墳時代において既往の調査成果を補足する資料であり、該期における集落の広がりや構造を解明するうえで貴重な成果といえる。加えて、弥生時代における竪穴建物廃絶の様子が知れる資料を得ることができた。(宮内)

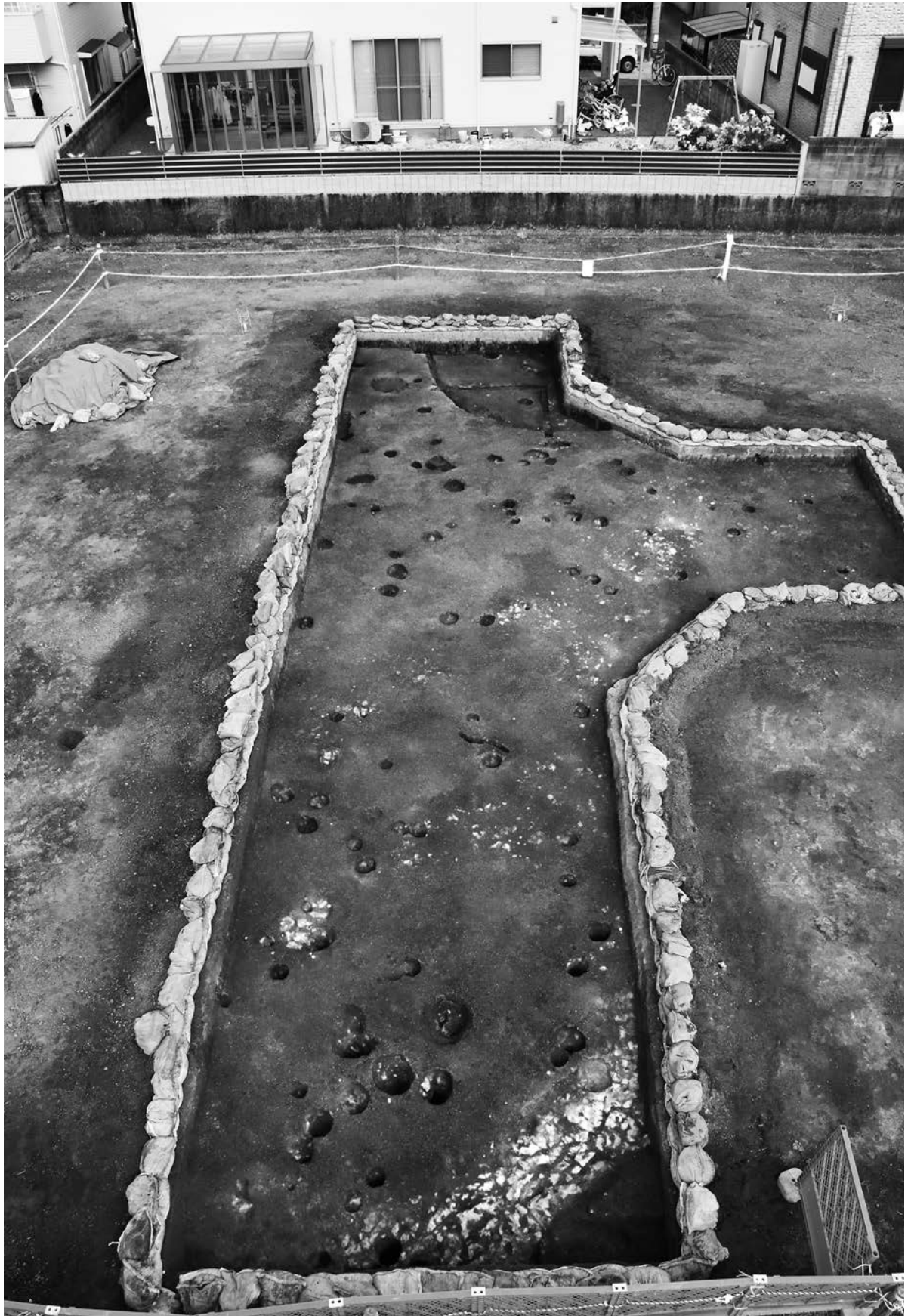


写真1 遺構検出状況（南より）

まつすえいしょう
松末栄松遺跡

所在地 松山市松末二丁目 138 番 1、138 番 4
138 番 5、138 番 6 の各一部
(松山地区No.202 松末館跡)

期 間 令和 2 年 5 月 7 日～令和 2 年 8 月 18 日

面 積 804㎡

原 因 病院建て替え工事

担 当 作田一耕・山本健一・山邊進也



図 1 調査地位置図

概 要 調査地は、松山市埋蔵文化財包蔵地『No.202 松末館跡』内に所在する。周辺には、弥生時代の大型円形竪穴建物跡や方形竪穴建物跡が多く見つかっている東本遺跡や、弥生時代から飛鳥時代の大集落である福音小学校構内遺跡など、弥生時代から中世にかけての遺構・遺物が見つかっている遺跡が多くある。本遺跡でも同様の遺構・遺物が包蔵されているものと推定し、事前の試掘調査を行うこととなった。その結果、申請地の西部及び中央部で遺構や遺物を包含する土層の存在することが判明した。ただし、その中間部と申請地東部では、それらが確認できなかった。出土遺物は弥生土器、土師器、備前焼片が出土している。試掘調査の結果から、申請地西部及び中央部の土坑や柱穴を検出したトレンチ周囲に遺跡の存在する可能性が高いと判断し、埋蔵文化財発掘調査を実施することとなった。調査は、弥生時代から中世の集落範囲や構造の確認を主目的とした。便宜上、調査地は西部を 1 区、中央部を 2 区とし、北から南へ A・B・C…、西から東へ 1・2・3…というグリッド名を付した。

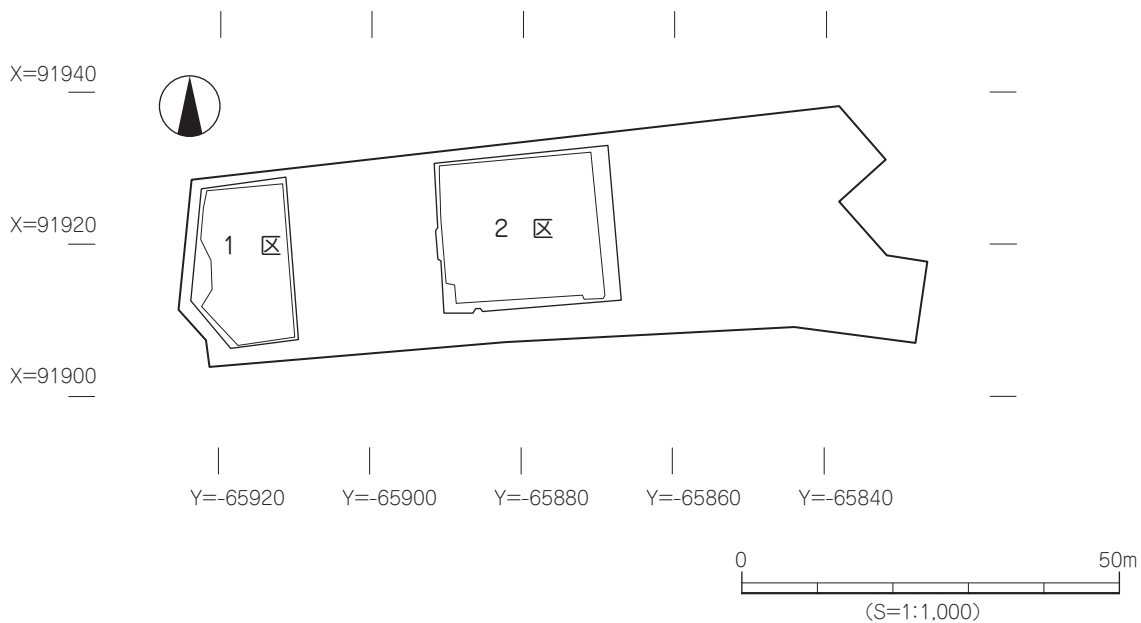


図 2 調査区位置図

遺構・遺物

[1区の調査]

中世の土坑 (SK) 2基、溝 (SD) 11条、性格不明遺構 (SX) 1基、小穴 (SP) 46口を検出した。

1区では、中世の性格不明遺構1基について記述する。SX1066は、調査区南東隅のE・F3グリッドに位置する。形状は北西の標高の高い方に円形遺構があり、南東側にはそれよりも深い方形遺構がある。規模は円形遺構が長軸約3.60m、短軸約3.00m、中央部の深さ約0.50mを測り、方形遺構が南北辺の検出長約2.50m、東西辺の検出長約1.90m、南東角部分の深さ1.25mを測る。円形遺構は皿状の断面形で、黒褐色粘質土を主体とする埋土中に人頭大から拳大の礫が多く出土したが、底部近辺で見ると、中心部と北及び西側周縁部ではほとんどみることができず、多くは南東寄りに集まっている。南端に東西方向の石組状の小礫を4～5石ほどみることができるが、他は散乱した状態である。同程度の礫は、方形遺構の中～下位の堆積層からも出土しており、円形遺構からの転石であろう。方形遺構は南北辺の肩部に小礫が積まれており、延長は約1.3mにわたっている。石組のように整然としたものではないので、原位置を留めているのかどうかも不明であるが、円形遺構南端の礫集中部に接続しているようにも見える。本遺構の性格は不明とした。しかし、北に広がる幅約100mの平坦な台地が南の低地に向かって落ちていく斜面に築かれており、円形遺構のほぼ中央の床面直上に完形もしくはほぼ完形の天目茶碗や土師器皿が出土していることから、構築時ないしは廃絶時の祭祀との関連を窺うことができる。さらに方形遺構は名称どおり、平面形が方形で、人為的な掘り込みと判断できる。この方形遺構の北西角が円形遺構南東部と切り合っており、40°～50°近い急傾斜で落ち込んでいる。堆積土も下層は砂質土、その



写真1 1区遺構完掘状況(北より)

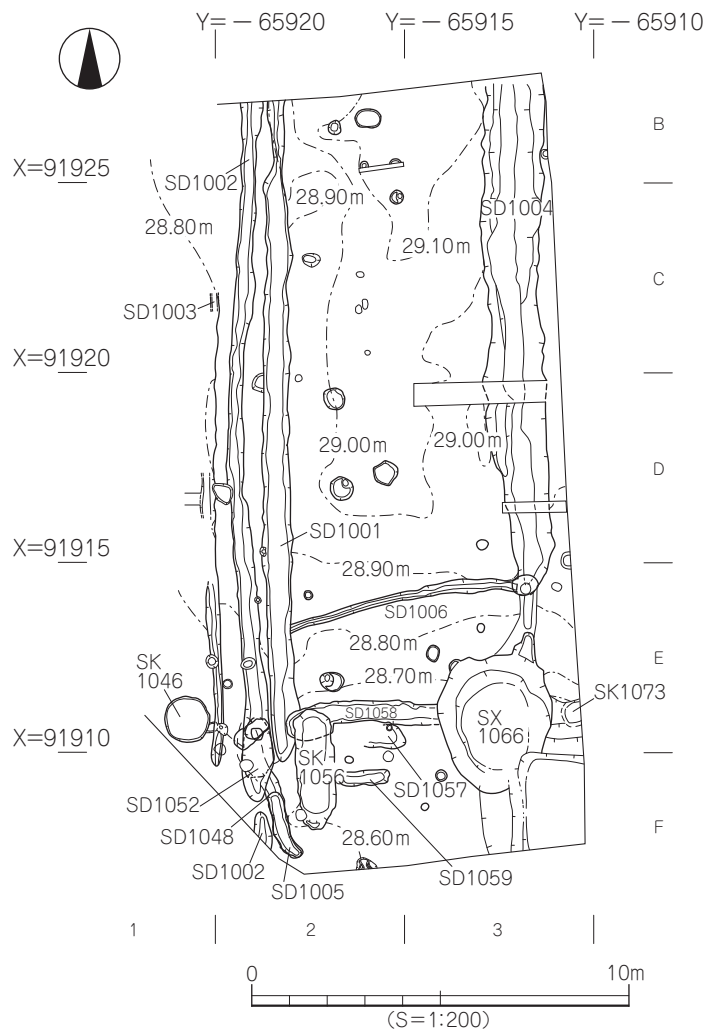


図3 1区遺構配置図

松末栄松遺跡

上位に粘質土があり、明らかに水性堆積状況を示している。円形遺構からは、土師器皿、土師質土釜、備前焼の播鉢、瀬戸・美濃の大窯で焼かれた天目茶碗（図4-2、写真3）、青白磁の小碗などが出土した。方形遺構からは土師器皿、茶釜の鏝、格子タタキの甕片などが出土している。天目茶碗は大窯1段階（藤澤 2001）、備前焼播鉢は中世5期段階（乗岡 2000）に生産されたものである。本遺構の時期は、上記遺物の生産年代から概ね16世紀代のものと判断できる。ちなみに、本遺跡周辺からは天目茶碗が二点出土している。北久米遺跡4次調査、来住廃寺15次調査からである。どちらも形態や施釉等の特徴から、本遺跡出土のものより新しいと判断できる。

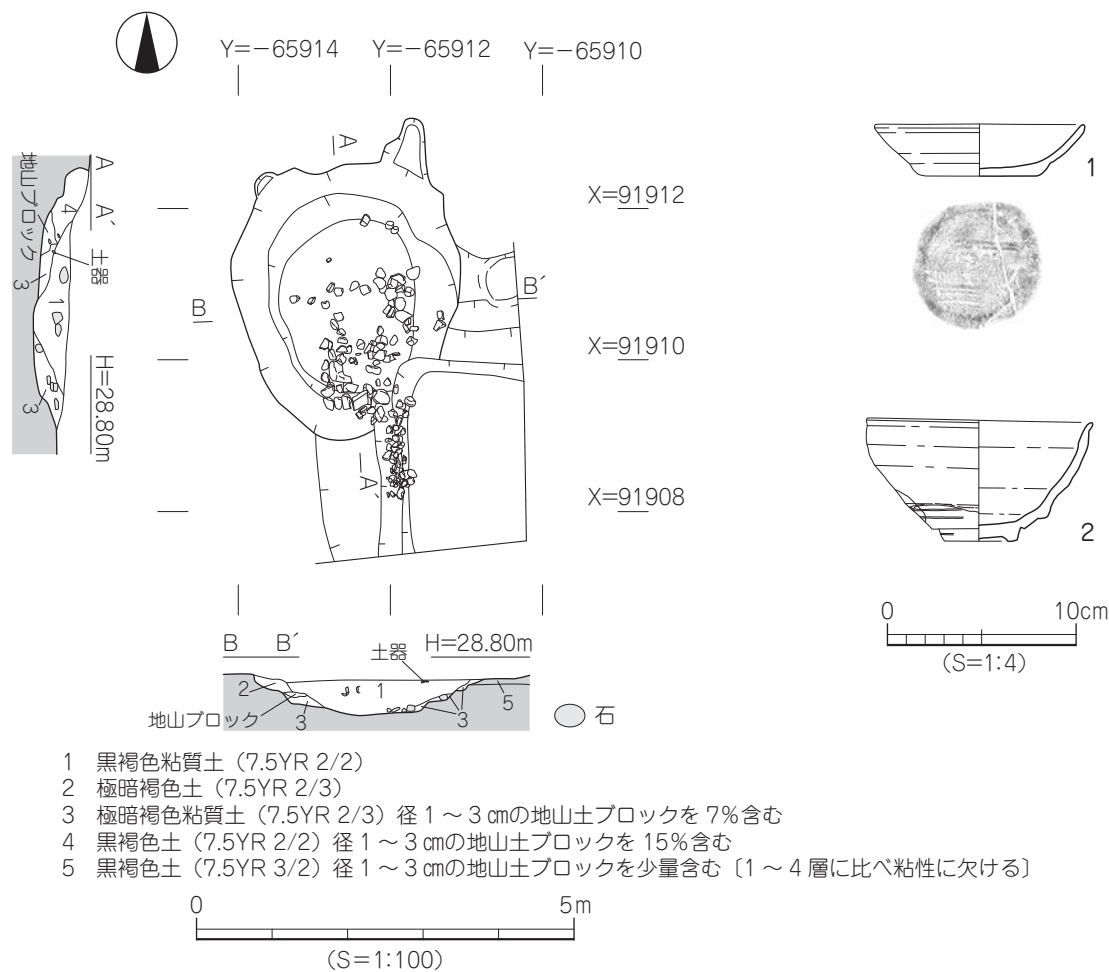


図4 SX1066 測量図・出土遺物実測図



写真2 1区SX1066完掘状況(南より)



写真3 天目茶碗

[2区の調査]

弥生時代と中世の遺構と遺物を確認した。遺構は土坑4基、井戸2基、溝6条、性格不明遺構2基、柱穴237基を検出した。遺物は弥生土器、土師質土器、陶磁器、石製品、金属製品が出土した。2区では、中世の溝SD2001の説明を行う。調査区中央のC9～C11グリッドに位置する。ほぼ東西方向の溝である。SD2008とSK2004に切られる。規模は検出長15.40m、最大幅3.00m、深さ0.40mを測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は①層：極暗褐色土（黄色土粒が少量混じる）②層：極暗

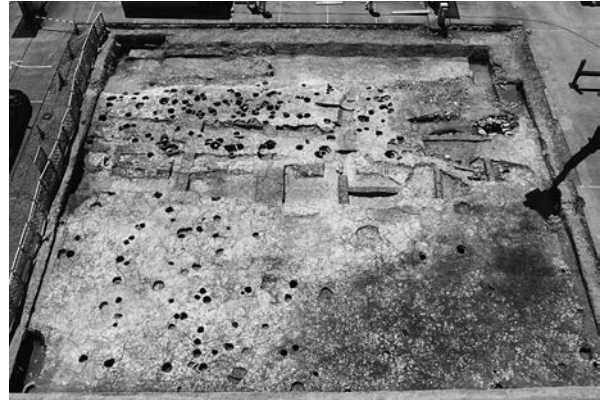


写真4 2区遺構完掘状況（北上方より）



図5 2区遺構配置図

松末栄松遺跡

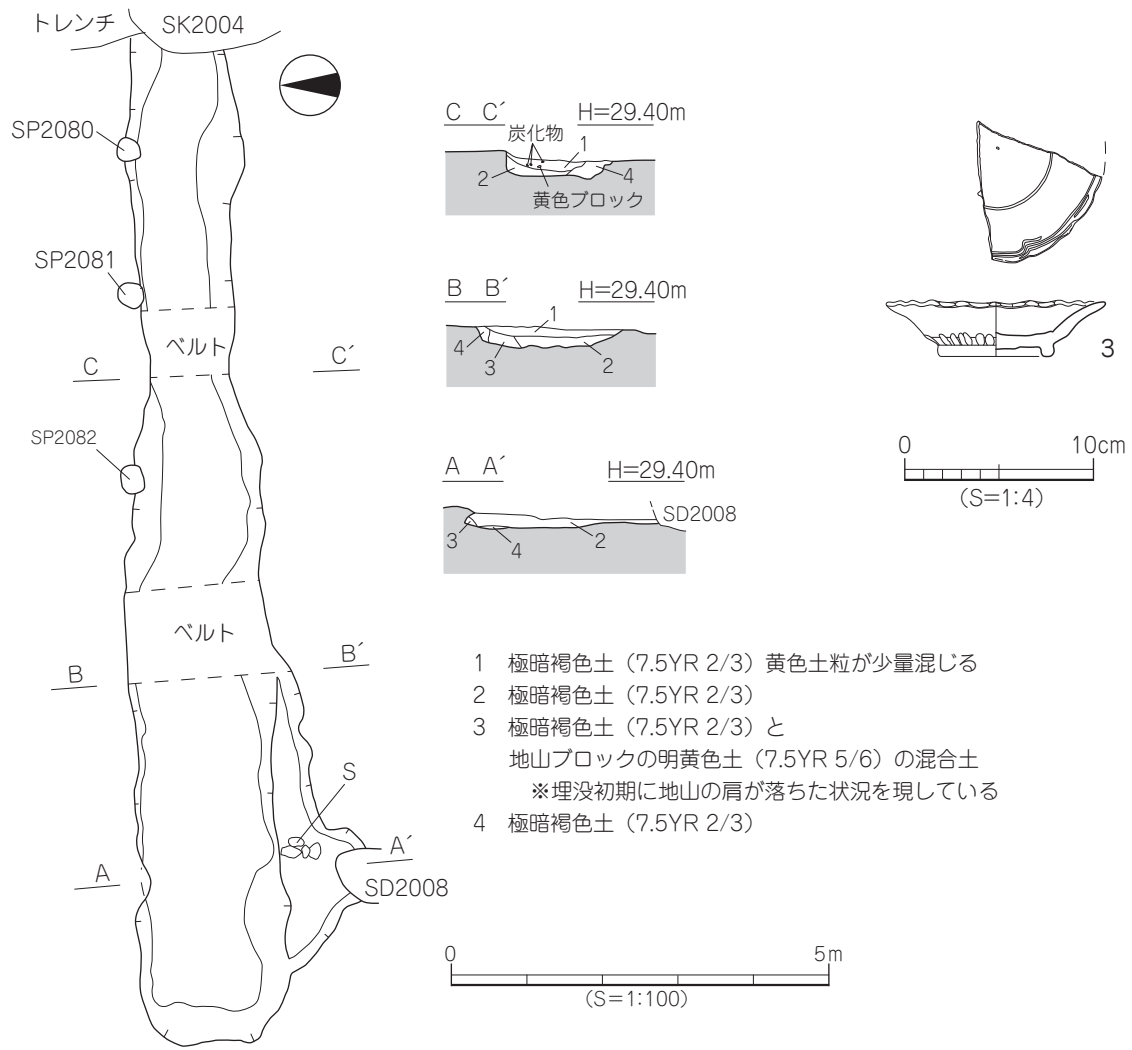


図6 SD2001 測量図・出土遺物実測図



写真5 2区 SD2001 完掘状況 (南西より)



写真6 菱花皿

松末栄松遺跡

褐色土③層：極暗褐色土（地山土のブロック状が混じる）④層：極暗褐色土（地山土のブロック状が多量に入る）の4層に分層される。遺物は埋土中より土師器、土師質土器、陶磁器が出土した。また溝中央部 C10 グリッドでは基底部約 0.80m 四方より 10～20cm 大の礫石、焼土、炭が集中して出土した。遺物は磁器の稜花皿（図 6-3、写真 6）である。見込み部には圏線、口縁端部内面には端部の花卉に添う形で 3 条の沈線が施されている。また外面高台付近には花卉形状に凹凸が見られる。削り出し高台で、復元口径 11.6cm、器高 2.9cm、高台復元径 6cm を測る。

まとめ 本遺跡は幅約 100m の台地が南の沖積地にかかる地点で調査を行った。既述のとおり、この場所は河野氏の武将である松末氏の館跡の一部と言われており、出土遺物も概ね 14 世紀から 16 世紀代のものが中心である。これは 14 世紀前半に築城し、16 世紀末に小早川隆景に降伏した河野氏と湯築城の歴史とも符合する。さらに本文中に記したとおり、調査区西側の小河川（暗渠・開渠）とそれに沿うように延びる道路を北上すると石手川にぶつかり、それを渡って、現在の東部環状線の 1 本東側の市道東雲 50 号線をさらに北上すると、湯築城外堀の南西角に至る。この道は明治期の地図にも記されており、かなり古くからの道であったことが窺えることを記しておきたい。そうした歴史的、地理的環境の中、今回の調査で見つかった東西や南北に延びる溝、井戸、小穴群、性格不明遺構、それらから出土した青磁の稜花皿や天目茶碗、備前焼の甕、播鉢などは本調査地周辺における武士階級存在を彷彿とさせるものである。今後、さらに調査事例が増えて、その実態が明らかになることを期待したい。（山本）

【引用文献】

藤澤良祐 「瀬戸・美濃大窯の生産技術」『瀬戸大窯とその時代』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 2001
 乗岡 実 「中近世の備前焼播鉢の編年案」 第 3 回中近世備前焼研究会 2000

【参考文献】

中野良一他 『南斎院土居北遺跡・南江戸鬮目遺跡 2 次調査』 愛媛県埋蔵文化財発掘調査報告書 113 集 2004
 中野良一他 『湯築城跡』 愛媛県埋蔵文化財発掘調査報告書 66 集 1998
 相原浩二他 『中村松田遺跡 5 次調査』 松山市文化財調査報告書 153 集 2011

表 1 SX1066 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成
				外面	内面		
1	土師器 坏	口径 11.2 器高 2.7 底径 6.0	体部は外上方に直線的に立ち上がる。底部から体部下端の外面はふくらみを持つ。底部は平底である。	㊦ ナデ ㊧ 回転糸切り 板状圧痕	㊦ ナデ	灰白色 浅黄橙色	密 ◎
2	施釉陶器 天目茶碗	口径 11.9 器高 6.5 底径 3.9	口唇部は外方に折れて立ち上がり体部は内湾気味に立ち上がる。底部は断面逆台形の高台である。	㊦ 鉄釉・錆釉 ㊧ 削り出し輪高台 錆釉	㊦ 鉄釉	灰白色 オリーブ灰色 オリーブ黒色	黒色粒 ◎

表 2 SD2001 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成
				外面	内面		
3	磁器 稜花皿	口径 (11.6) 器高 2.9 底径 (6.0)	見込み部に圏線。口縁端部内面には 3 条の沈線。外面高台付近に花卉状の凹凸。	施釉	施釉	灰オリーブ	密 ◎

えんたいごう 掩体壕確認調査

所在地 松山市南吉田町 1020 番 4、
1021 番 4 の一部（松山地区包蔵地外）
期 間 令和 2 年 6 月 15 日～同年 6 月 26 日
面 積 85㎡
原 因 松山市指定有形文化財掩体壕保存修理工事
担 当 相原浩二
鶴久森彬（文化財課）

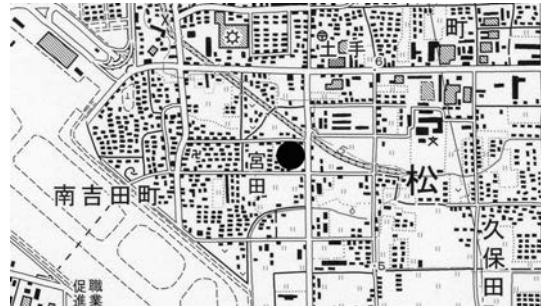


図 1 調査地位置図

概 要 調査地は、松山平野西部の標高約 4.5m に位置する。掩体壕は、軍用機を敵の空襲から守るために造られた格納庫で、太平洋戦争末期、全国の軍用飛行場に造られていたものである。昭和 18 年 10 月に松山海軍航空隊と松山海軍航空基地が設置された後、南吉田・垣生両地区に航空基地の飛行場付帯施設として、掩体壕（有蓋・無蓋）63 基や誘導路などが築かれた。戦後、そのほとんどは消滅したが、南吉田地区にはコンクリート造の有蓋掩体壕 3 基が今も残っている。

調査を実施した掩体壕は、平成 30 年 5 月 18 日に松山市指定有形文化財（歴史資料）に指定されたものである。この掩体壕の保存修理工事に先立ち、掩体壕の保存に与える影響を把握するために調査を実施した。

調査は、掩体壕内部を 1 区、開口部前庭を 2 区、前部アーチ東側を 3 区に設定し実施した。

層 序 1 区は第 1～3 層が戦後から現代までの造成土である。第 4a～f 層は掩体壕構築の際の造成土で、第 4a・b 層は他の層より硬く締まっている。第 4b 層は硬化面であるが、戦後農業用倉庫として利用していた際にトラクターが出入りしていたこともあり、軍用機の出入りに伴うものなのか判断としない。第 5・6・8 層は掩体壕構築の際の作業面である。第 5 層上面では炭化物や焼土、釘類が出土した。第 7 層は掩体壕の基礎構築に伴う地固めの栗石と思われる。第 8 層は掩体壕構築以前の耕作土でもある。第 9 層は第 8 層の床土、第 10・11 層は旧耕作土の可能性がある。第 12 層は自然堆積層である。

遺 構 1 区及び 2 区からは、排水施設である暗渠（SD1～5、礫溜まり）を確認することができた。SD1～5 は南北に素掘りの溝を掘り込み、底面に栗石（川原石）を敷き詰めた後、造成土で埋めていた暗渠である。前部アーチの中心に 1 条と、その両側に 2 条ずつを約 2.9m の間隔で配置している。SD1・4 の南側は礫溜まりに、SD4・5 は北側の布基礎下の栗石層に接続している。

[掩体壕] 前部アーチ・後部アーチの内外面に残る型枠痕の測量を行った。前部アーチ・後部アーチの内外面には、幅 9cm～23cm、長さ 0.8m～2m の板材を敷き詰めた型枠により成形されている。板材は使用箇所によって異なるが、前部アーチ内面では長さ 1.5m、幅 9cm～17cm の板 5 枚を 1 ブロック（幅約 75cm）として、前部アーチ外面では長さ 2m、幅 9cm～17cm の板 5～8 枚を 1 ブロックとして、それぞれアーチを 4 分割したように横に並べ、天頂部にむけて円形になるように組並べられていた痕跡がある。前部アーチ外面の天頂部は、型枠の痕は全く残っておらず、莖で養生した痕跡が残っている。コンクリート打ち継ぎの痕はコンクリートの打設日の違いによるものである。使用された板材には釘頭の痕跡が残っている。

掩体壕確認調査

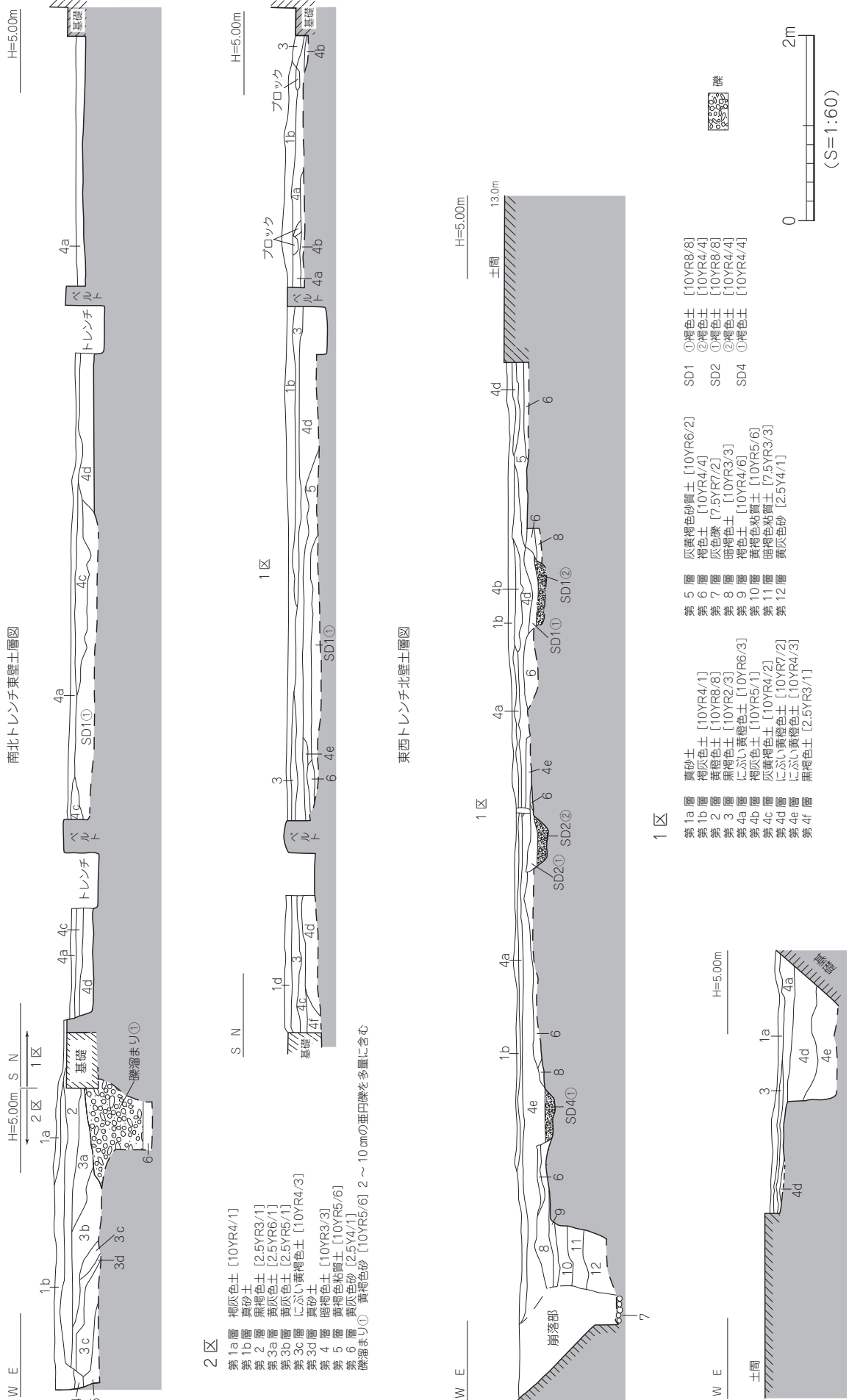


図2 1区・2区土層図

掩体壕確認調査

まとめ 土層堆積からは掩体壕構築以前から現在に至るまでの土地利用の変遷を確認することができた。検出された暗渠については、排水を目的としたものと推測される。暗渠の発見は『昭和19年築城施設教範草案』第二編航空基地施設、第二章陸上航空基地、第七節飛行機置場、第九十四のなかに「掩体内の掘開部は適当なる排水方法を講ずるを要とす」とあり、これに準拠したものといえる。また、掩体壕の内外面に残る型枠痕からは、掩体壕の構築過程を確認することができた。（鶴久森）

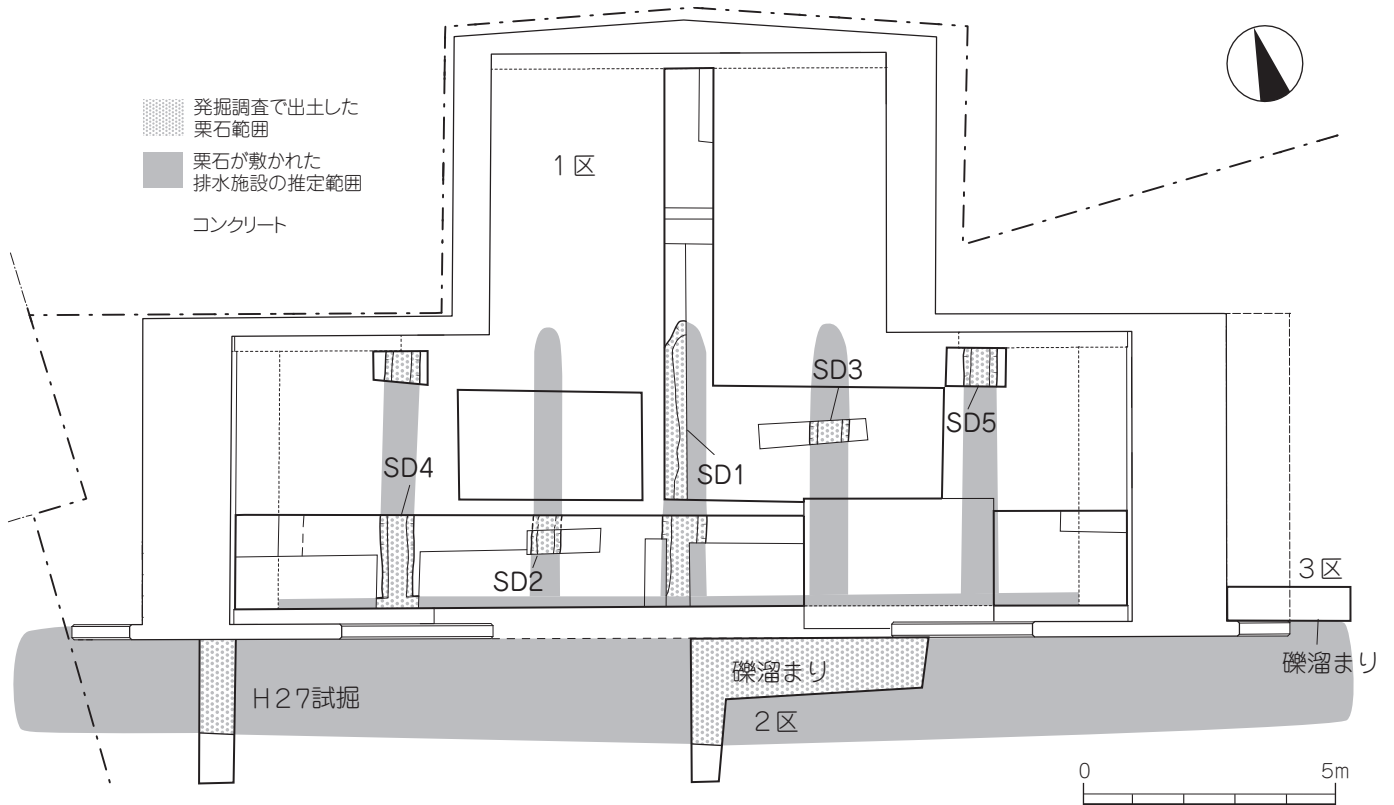


図3 調査区位置図

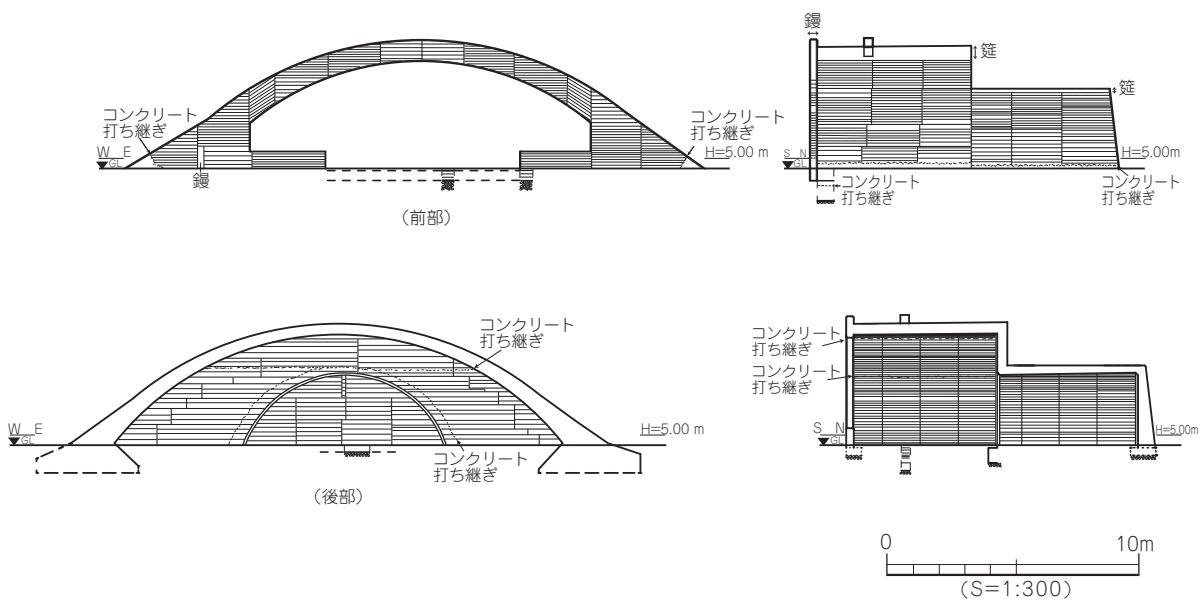


図4 掩体壕立面図(上)・断面図(下)

掩体壕確認調査



写真1 掩体壕周辺状況①（南東より）

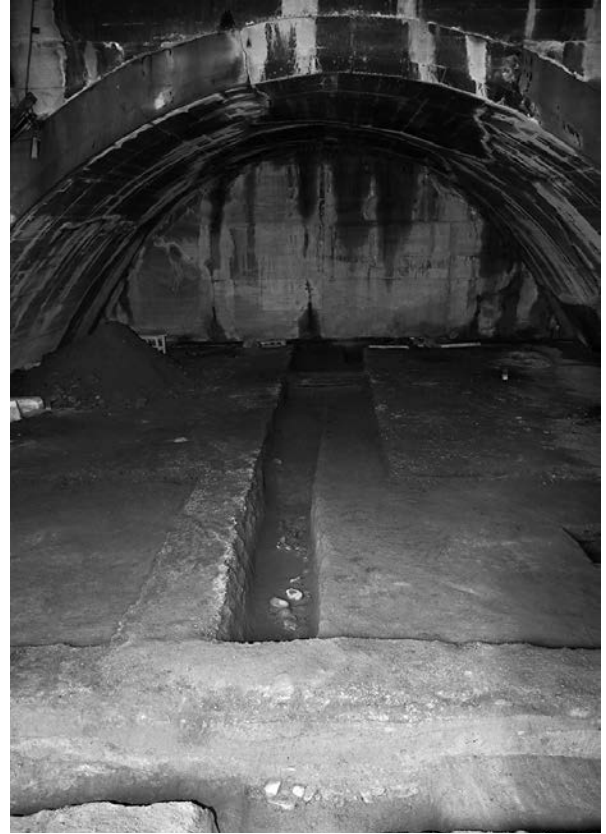


写真3 1区SD1検出状況（南西より）



写真2 掩体壕周辺状況②（北東より）



写真4 2区礫溜まり検出状況（南東より）



写真5 3区南壁土層堆積状況（北より）



写真6 1区掩体壕内面型枠痕（西より）



写真7 3区掩体壕外面蕨痕（南より）

掩体壕確認調査



写真 8 掩体壕整備状況（南西より）

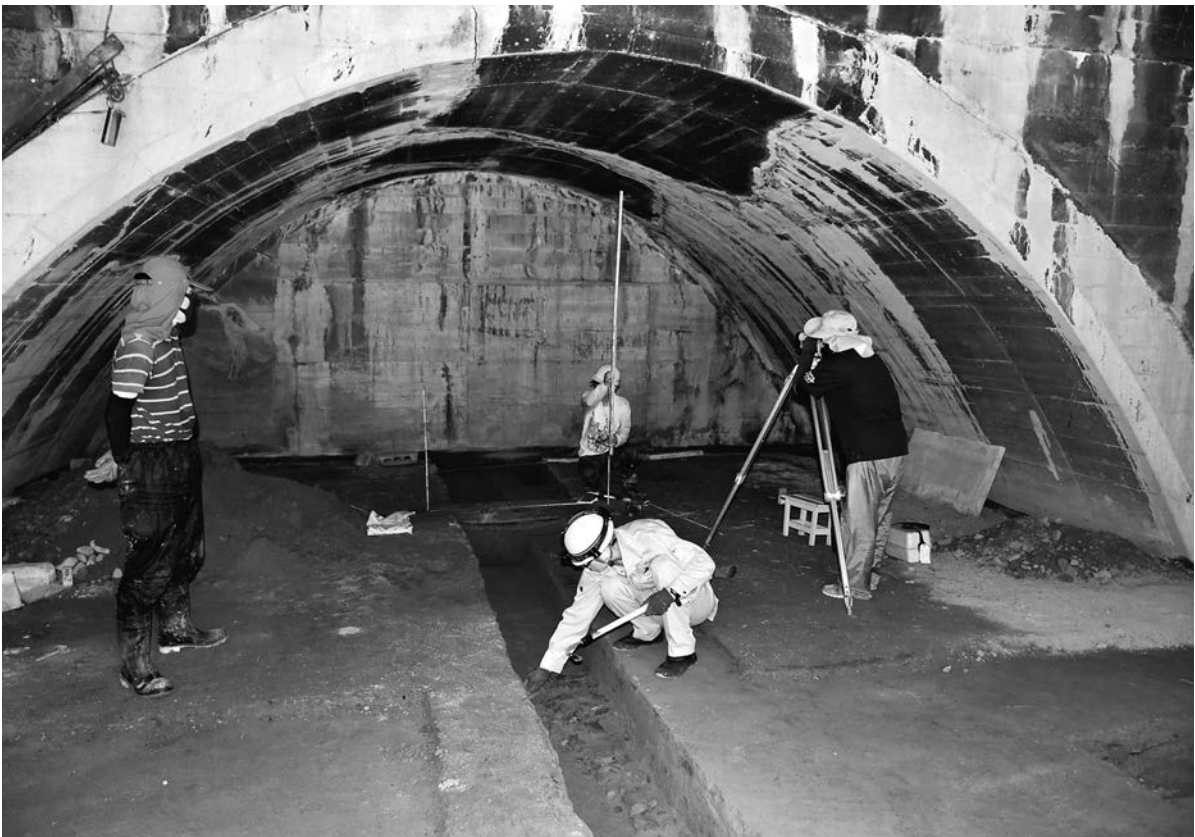


写真 9 掩体壕内部作業風景（南より）

Ⅱ 令和 2 年度

松山市埋蔵文化財調査関係資料

令和2年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料

●例言

1. 本編は、松山市教育委員会事務局文化財課と公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財確認調査及び本発掘調査資料である。
2. 埋蔵文化財確認調査は、令和2年4月1日～令和3年3月31日受付迄（申請番号1～243号）の資料を取り扱う。なお、平成31年度・令和元年度以前の資料については、『松山市埋蔵文化財調査年報I～X（昭和60～平成9年度）、同年報11～32（平成10～31年度・令和元年度）』を参照されたい。
3. 資料作成（一覧表・付録図）は、高尾和長、相原浩二、坂本久美子、浅井茂之、岡崎政信が行った。
4. 表中の番号は、埋蔵文化財確認申込書の番号に準ずるものである。また、本発掘調査については、令和2年度内に発掘調査を完了した遺跡を取り扱う。
5. 付録図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（伊予北条・三津浜・松山北部・郡中・松山南部）を使用し、10万分の1の縮尺で記載した。
6. 一覧の略記について
 - ① 標高：地表面での測定値。
 - ② 申込者：公＝地方公共団体等、民＝民間事業者。
 - ③ 調査方法：試掘、踏査及び既往・周辺の調査履歴。
 - ④ 緊急：記録保存を目的とした調査。
 - 国補：国庫補助事業調査。

●埋蔵文化財の保護について

文化財は、わが国の歴史・文化等を正しく理解するために欠くことのできないものであり、かつ将来の文化の向上、発展の基礎をなすものです。それら文化財の保存・活用による国民の文化的向上を目的として昭和25年に制定された文化財保護法には、国民の心構えとして、「政府及び地方公共団体がこの法律の目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない」こと、「文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに（中略）その文化的活用を努めなければならない」ことが記されています。また同時に政府及び地方公共団体は、関係者の所有権その他の財産権を尊重しなければならないこととなっています。

●周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出および確認調査について

周知の埋蔵文化財包蔵地とは、貝塚、古墳その他埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地のことです。

埋蔵文化財は、建造物等の他の文化財と違って主に地下に存在するため、土木工事等による破壊を免れない場合があります。そのため、地図^註に示された「周知の埋蔵文化財包蔵地」内で土木工事等を行う場合は、60日前までに愛媛県教育委員会への届出が義務付けられています。また、その届出に伴い埋蔵文化財の有無を確認するための調査（踏査、試掘等）を行いますので、土木工事等の計画がある場合は事前に松山市教育委員会文化財課へご相談ください。

註）地図（松山市埋蔵文化財包蔵地図）は、文化財課にて配布しているほか、松山市ホームページでも閲覧が可能です。

松山市埋蔵文化財調査関係資料

●周知の埋蔵文化財包蔵地の変更について

令和2年度は以下の7件の埋蔵文化財包蔵地に関する見直しが報告されました。

表1 松山市埋蔵文化財包蔵地変更一覧

包蔵地番号	包蔵地名称	種類	時代	見直し結果
28	東垣生八反地遺跡・余戸柳井田遺跡	集落跡・生産遺跡	古代・中世	R3.4 新規
158	北土居墳墓			R3.4 廃止
202	松末栄松遺跡	集落跡・城館跡	弥生・中世	R3.4 変更
228	余戸中ノ孝遺跡	集落跡・墳墓	弥生・古墳・中世	R3.4 新規
229	南吉田南代遺跡	集落跡	弥生・古墳	R3.4 新規
230	南斎院土居北遺跡	集落跡	中世	R3.4 新規
231	坂浪西古墳群	古墳	古墳	R3.4 新規

表2 令和2年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(1)

No.	所在地	面積 (㎡)	標高 (m)	包蔵地 番号	申込者	工事の目的	調査方法	遺跡 有・無	包含層○ 遺構名	出土遺物	備考
1	安城寺町	956.00	6.70 ～ 6.80	No.155	民	資材置場	試掘	無	○	縄文土器	
2	東方町	44.24	57.50	No.143	民	その他建物	試掘	無			
3	祝谷二丁目	592.86	42.20 ～ 42.30	No.57	民	宅地造成	試掘	有	○ 柱穴・溝	弥生土器・土師器 須恵器	
4	朝美二丁目	1.47	19.60	No.34	公	水道	既往の調査履歴 H31-112	(無)			
5	平井町	328.70	77.10	No.90	民	住宅	周辺の調査履歴 H28-139	(無)			
6	小坂三丁目	268.60	27.80	No.110	民	宅地造成	試掘	無			
7	桑原五丁目	643.53	33.50 ～ 33.70	No.82	民	その他建物	試掘	有	○ 溝・足跡	土師器	
8	南江戸四丁目	188.46	12.90	No.35	民	住宅	試掘	無			
9	祝谷東町	165.96	84.00	No.58	民	住宅	試掘	無			
10	衣山三丁目	387.19	19.40	No.20	民	住宅	試掘	有	○ 土坑	弥生土器	
11	樽味四丁目	5.17	38.50 ～ 38.60	No.81	公	水道	既往の調査履歴 H31-134	(無)			
12	南久米町	125.82	37.10	No.126-1	民	住宅	既往の調査履歴 H30-237	(有)			
13	西石井六丁目	650.18	22.40	No.119	民	住宅	試掘	無			
14	枝松三丁目	0.34	11.35	No.82	公	水道	周辺の調査履歴 H11-145	(無)			
15	安城寺町	152.70	3.30 ～ 3.70	No.12	民	住宅	既往の調査履歴 H31-031	(有)			
16	道後喜多町	147.48	34.00	No.219	公	その他建物	周辺の調査履歴 H07-327	(無)			
17	高岡町	370.32	7.90	No.26	民	住宅	試掘	無			
18	西長戸町	72.44	11.40	No.17	民	その他建物	試掘	有	○ 溝	弥生土器・土師器 須恵器	
19	平井町	138.86	57.40 ～ 58.30	No.152	民	住宅	既往の調査履歴 H30-130	(有)			
20	道後町二丁目	116.99	35.80	No.68	民	住宅	既往の調査履歴 H31-198	(無)			
21	小坂五丁目	145.48	22.80 ～ 23.20	No.111	民	住宅	既往の調査履歴 H30-063	(無)			
22	森松町	34.30	32.60	No.134	民	水道	既往の調査履歴 H31-152	(無)			
23	持田町一丁目	約373.15	34.50	No.209	民	その他開発	既往の調査履歴 愛媛大学調査報告 V. XIII, XIX, XXX, XXXII 岩崎遺跡	—			
24	清水町一丁目	237.18	25.50	No.220	民	その他建物	試掘	有	○ 柱穴・溝	弥生土器	
25	樽味二丁目	1,023.19	44.30 ～ 44.90	No.81	民	宅地造成	既往の調査履歴 H29-123 H31-073	(有) (有)			
26	西石井五丁目	31.50	20.40	No.119	公	水道	既往の調査履歴 H22-299	(無)			
27	東野一丁目	916.70	46.10	No.81	民	宅地造成	既往の調査履歴 H31-202	(無)			
28	今在家二丁目	762.94	30.70 ～ 30.90	No.125	民	宅地造成	既往の調査履歴 H22-230 周辺の調査履歴 H24-022	(有) (有)			
29	枝松三丁目	356.17	31.20	No.83	民	住宅	試掘	有	○ 柱穴		
30	南斎院町	264.30	8.10	No.27	民	住宅	試掘	無			
31	北井門三丁目	211.50	22.30	No.121	民	宅地造成	試掘	無			

松山市埋蔵文化財調査関係資料

令和2年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(2)

32	北久米町	231.45	31.70	No.126-1	民	住宅	試掘	有	○ 柱穴	弥生土器・土師器 須恵器	
33	天山一丁目	218.98	20.20	No.112	民	その他建物	試掘	有	○ 土坑	土師器	
34	樽味二丁目	185.00	44.50	No.81	民	宅地造成	試掘	無			
35	姫原一丁目	764.52	38.50	No.45	民	住宅	既往の調査履歴	H16-321 (有)			
36	南久米町	159.60	37.40	No.127	公	水道	既往の調査履歴	H31-204 (無)			
37	樽味二丁目	135.92	44.80	No.81	民	その他建物	既往の調査履歴	H31-073 (有)			
38	西石井六丁目	172.09	21.40	No.119	民	住宅	試掘	有	○ 柱穴	土師器	
39	西石井六丁目	246.15	21.30	No.119	民	住宅	試掘	有	○ 柱穴	須恵器・土師器	
40	北斎院町	230.87	5.60	No.29	民	住宅	既往の調査履歴	H30-230 (有)			
41	樽味二丁目	281.00	39.60	No.81	民	その他開発	既往の調査履歴	H27-175 (有)			
42	南江戸四丁目	209.30	13.20 ~ 13.30	No.35	公	水道	周辺の調査履歴	H30-144 (無) H31-101 (無)			
43	北斎院町	173.57	14.00 ~ 14.50	No.156	公	その他建物	試掘	無			
44	枝松三丁目	167.09	32.00	No.83	民	住宅	試掘	有	柱穴		
45	安城寺町	133.62	3.30 ~ 3.70	No.12	民	住宅	既往の調査履歴	H31-031 (有)			
46	枝松三丁目	118.72	31.40	No.83	民	宅地造成	試掘	有	柱穴		
47	南梅本町	453.84	82.78	No.107	公	水路	周辺の調査履歴	H03-121 (無)			
48	御幸二丁目	268.70	21.80	No.46	民	住宅	既往の調査履歴	H31-187 (無)			
49	南久米町	121.50	38.40	No.127	民	住宅	既往の調査履歴	H25-200 (有)			
50	福音寺町	186.79	26.30 ~ 30.10	No.116	公	水道	周辺の調査履歴	H04-059 (無) H07-195 (無) H09-319 (有) H11-358 (有) H14-221 (無) H21-051 (無) H27-106 (無) H28-033 (無) 筋違E遺跡 —			
51	北斎院町	167.20	7.80 ~ 9.70	No.29 No.156	公	水道	周辺の調査履歴	H05-017 (無) H07-081 (無) H14-369 (無) H22-247 (無) H28-035 (有) H29-042 (無) H30-096 (有)			
52	平井町	364	89.84	No.90	公	水道	周辺の調査履歴	H14-167 (無)			
53	西石井六丁目	75.62	21.45	No.119	公	水道	既往の調査履歴	H12-206 (無)			
54	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	申請取下
55	下伊台町	156.60	152.40	包蔵地外	公	その他建物	試掘	無			
56	高岡町	247.95	6.10	包蔵地外	公	その他建物	試掘	無	○ 足跡	土器片	
57	吉藤二丁目	148.75	19.20	No.227	民	その他建物	試掘	無			
58	小坂三丁目	1,322.83	35.20	No.110	民	その他開発	既往の調査履歴	H31-191 (有)			
59	北井門二丁目	253.38	23.70	No.121	民	住宅	試掘	有	柱穴		
60	安城寺町	956.00	6.70 ~ 6.80	No.155	民	その他開発	既往の調査履歴	R02-001 (無)			
61	北斎院町	5.01	5.60	No.29	公	水道	既往の調査履歴	H30-230 (有)			
62	東方町	599.01	56.40	No.143	民	住宅	試掘	無	○	土器片	
63	鷹子町	7.70	42.10	No.128	公	水道	周辺の調査履歴	H11-353 (無)			
64	鷹子町	29.37	45.36 ~ 46.70	No.128	公	水道	周辺の調査履歴	H07-016 (無) H14-153 (無)			
65	鷹子町	26.40	45.90	No.128	公	水道	周辺の調査履歴	H08-217 (無) H20-284 (無)			
66	平井町	132.25	57.40 ~ 58.30	No.152	民	住宅	既往の調査履歴	H30-130 (有)			
67	山西町 古三津町	937.00	5.00 ~ 17.50	No.21	民	その他開発	試掘	有	○ 溝	三足鍋の破片 土師器・須恵器 弥生土器・鉄製品	
68	西石井四丁目	86.44	19.80	No.119	民	住宅	試掘	無	○	弥生土器	
69	道後町一丁目	66.88	36.90 ~ 38.20	No.214	公	水道	周辺の調査履歴	道後町遺跡 —			
70	南江戸四丁目	70.08	12.50 ~ 12.90	No.35	公	その他開発	既往の調査履歴	H07-225 (無) H14-326 (無)			
71	文京町	6.64	28.80	No.67	民	その他開発	既往の調査履歴	愛媛大学調査報告XIX —			

松山市埋蔵文化財調査関係資料

令和2年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(3)

72	桑原五丁目	729.03	36.20	No. 82	民	宅地造成	試掘	有	○ 堅穴建物 柱穴・溝	弥生土器 土師器の皿・陶磁器	
73	久万ノ台	701.27	~ 17.60 17.80	No. 167	民	住宅	試掘	有	○ 堅穴建物 柱穴・土坑	弥生土器	
74	中通	983.81	~ 16.80 17.60	北条No. 40 北条No. 68	民	住宅	試掘	有	○ 堅穴建物 土坑・柱穴	弥生土器・土師器 須恵器・礎石	
75	道後緑台	148.05	38.70	No. 57	民	住宅	既往の調査履歴	H28-211 (有)			
76	平井町	126.00	~ 57.40 58.30	No. 152	民	宅地造成	既往の調査履歴	H30-130 (有)			
77	平井町	132.25	~ 57.40 58.30	No. 152	民	宅地造成	既往の調査履歴	H30-130 (有)			
78	北井門二丁目	347.83	25.20	No. 222	民	擁壁	既往の調査履歴	H31-043 (有)			
78-2	北井門二丁目	347.83	25.20	No. 222	民	住宅	既往の調査履歴	H31-043 (有)			
79	岩崎町二丁目	393.88	37.20	No. 224	民	住宅	試掘	有	○ 柱穴・溝	弥生土器・須恵器	
80	樽味二丁目	約 120.00	~ 39.60 40.91	No. 81	公	水道	周辺の調査履歴	H07-017 H27-175 (有)			
81	祝谷二丁目	165.32	39.90	No. 56	民	住宅	試掘	有	○ 溝	弥生土器	
82	朝美二丁目	132.23	14.60	No. 34	民	住宅	試掘	無	○	弥生土器・須恵器	
83	朝美一丁目	283.76	16.00	No. 34	民	その他開発	試掘	無	○	瓦片・陶磁器	
84	桑原六丁目	125.77	32.50	No. 82	民	その他建物	試掘	無			
85	小坂四丁目	655.76	25.90	No. 110	民	その他建物	既往の調査履歴	H30-159 (無)			
86	小坂三丁目	127.46	27.90	No. 110	民	住宅	既往の調査履歴	H24-065 (有)			
87	東野五丁目	132.29	23.20	No. 79	民	宅地造成	既往の調査履歴	H30-058 (無)			
88	平井町	180.14	~ 57.40 58.30	No. 152	民	住宅	既往の調査履歴	H30-130 (有)			
89	樽味二丁目	887.27	~ 44.30 44.90	No. 81	民	水道	既往の調査履歴	H29-123 H31-073 (有)			
90	福音寺町	206.30	29.00	No. 116	公	水道	周辺の調査履歴	H29-065 筋違E遺跡 (有)			
91	山越一丁目	210.53	18.80	No. 160	民	住宅	試掘	有	○ 溝	弥生土器・土師器 須恵器	
92	道後今市	145.94	33.20	No. 68	民	住宅	既往の調査履歴	H29-124 (有)			
93	南斎院町	264.30	8.10	No. 27	民	住宅	既往の調査履歴	R02-030 (無)			
94	南久米町	187.25	37.50	No. 126-1	民	住宅	試掘	無	○	備前焼	
95	枝松三丁目	219.41	33.10	No. 82	公	水道	周辺の調査履歴	H26-054 (無)			
96	文京町	約 57.97	29.30	No. 67	民	水道	既往の調査履歴	愛媛大学調査 報告XII 松山市文化 財報告書 28	—		
97	持田町一丁目	約 8.22	34.60	No. 209	民	その他開発	既往の調査履歴	愛媛大学調査 報告XIII 持田遺跡14次	—		
98	北斎院町	104.38	6.60	No. 26	民	住宅	試掘	有	○ 柱穴	弥生土器	
99	平井町	659.62	59.00	No. 152	民	宅地造成	既往の調査履歴	H30-131 (有)			
100	鷹子町	889.00	43.20	No. 128	民	宅地造成	試掘	有	○ 溝	須恵器	
101	姫原一丁目	119.39	25.00	No. 168	民	住宅	既往の調査履歴	H29-217 (有)			
102	北井門一丁目	334.85	23.60	No. 121	民	その他建物	試掘	有	○ 柱穴	須恵器	
103	西石井五丁目	5.61	20.00	No. 119	公	水道	既往の調査履歴	H31-098 (無)			
104	清水町一丁目	244.73	25.50	No. 220	民	その他建物	周辺の調査履歴	R02-024 (有)			
105	枝松三丁目	101.70	33.10	No. 82	民	住宅	試掘	有	○ 土坑	弥生土器	
106	南久米町	175.58	35.00	No. 126-1	民	住宅	試掘	無	○ 柱穴	土師器	
107	南江戸四丁目	343.37	11.70	No. 35	民	住宅	既往の調査履歴	H30-192 (有)			
108	今在家二丁目	2.00	30.70	No. 125	民	水道	既往の調査履歴	H22-230 (有)			
109	北斎院町	230.86	5.60	No. 29	民	住宅	既往の調査履歴	H30-230 (有)			
110	北井門二丁目	10.20	25.20	No. 222	公	水道	既往の調査履歴	H31-043 (有)			
111	樽味二丁目	416.23	44.40	No. 81	民	住宅	試掘	有	○ 土坑・柱穴	弥生土器・須恵器	
112	朝美一丁目	143.00	20.00	No. 34	民	その他開発	試掘	有	○ 土坑	弥生土器	
113	枝松三丁目	101.70	33.10	No. 82	民	住宅	既往の調査履歴	R02-105 (有)			

松山市埋蔵文化財調査関係資料

令和2年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(4)

114	今在家二丁目	220.38	30.70	No. 125	民	住宅	既往の調査履歴	H22-230	(有)			
115	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	廃案
116	祝谷二丁目	1281	42.20 ~ 42.30	No. 57	公	水道	既往の調査履歴	R02-003	(有)			
117	北井門三丁目	423.10	22.40	No. 121	民	その他建物	試掘		無	○	須恵器	一部履歴 (R02-031)
118	枝松三丁目	231.93	33.20	No. 82	民	住宅	試掘		無			
119	別府町	375.74	9.80	No. 30	民	住宅	試掘		有	○ 土坑・柱穴・溝	弥生土器・須恵器 土師器・瓦器	
119 ②	別府町	375.74	9.80	No. 30	民	住宅	既往の調査履歴	R02-119	(有)			
120	安城寺町	204.72	3.30 ~ 3.70	No. 12	民	その他建物	既往の調査履歴	H31-031	(有)			
121	道後今市	405.74	33.00	No. 219	民	宅地造成	試掘		無	○ 自然流路	弥生土器・土師器	
122	桑原一丁目	151.70	35.10 ~ 35.40	No. 82	民	住宅	既往の調査履歴	H31-154	(有)			
123	高砂町一丁目	134.36	23.00	No. 220	民	その他建物	試掘		無	○	土師器	
124	北斎院町	125.80	7.40	No. 26	民	住宅	既往の調査履歴	H31-082	(無)			
125	道後今市	221.49	32.20	No. 68	民	住宅	試掘		有	○ 柱穴・土坑・溝	弥生土器・須恵器 土師器	
126	南江戸三丁目	222.45	14.40	No. 35	民	その他建物	既往の調査履歴	H27-060	(無)			
127	岩崎町二丁目	159.60	37.20	No. 224	公	水道	周辺の調査履歴	R02-079	(有)			
128	森松町	496.39	32.70	No. 134	民	宅地造成	既往の調査履歴	H31-123	(無)			
129	祝谷東町	385.00	107.20	No. 58	民	その他建物	試掘		無			
130	樽味三丁目	約 310.67	42.00 ~ 44.40	No. 81	民	その他開発	既往の調査履歴	愛媛大学調査 報告V・X XXI・XXIX	—			
131	文京町	約 156.21	27.80 ~ 28.30	No. 67	民	その他開発	既往の調査履歴	愛媛大学調査 報告XX	—			
132	祝谷東町	3.13	107.20	No. 58	公	水道	既往の調査履歴	R02-129	(無)			
133	祝谷六丁目	176.95	72.00	No. 49	民	住宅	試掘		無			
134	太山寺町	842.00	4.60	No. 173	民	その他建物	試掘		無			
135	来住町	13.31	37.00	No. 127	公	水道	周辺の調査履歴	H02-033	(有)			
136	南梅本町	795.00	98.30	No. 107	民	その他建物	試掘		有	土坑・柱穴		
137	小坂四丁目	1,002.14	26.30	No. 113	民	その他建物	試掘		無	○	弥生土器	
138	道後今市	115.69	32.20	No. 68	民	住宅	既往の調査履歴	R02-125	(有)			
139	平井町	373.18	67.60	No. 90	民	土地造成	試掘		無			
140	福音寺町	133.91	29.20	No. 116	民	住宅	既往の調査履歴	H28-071	(無)			
141	北条辻	9,092.82	2.20	包蔵地外	公	その他建物	試掘		無			
142	平井町	293.60	71.60	No. 90	公	道路	試掘		無			
143	東野三丁目	429.87	90.00	No. 78	民	駐車場	試掘		無			
144	南江戸四丁目	259.29	12.70	No. 35	民	その他建物	既往の調査履歴	H28-121	(無)			
145	鷹子町	281.84	43.40	No. 128	民	住宅	既往の調査履歴	H30-023	(無)			
146	東野五丁目	332.60	57.90 ~ 64.80	No. 79	公	水道	周辺の調査履歴	H08-213 H15-189 H17-091 H19-220 H20-332 H26-118 H26-207 H30-209	(無) (無) (無) (無) (無) (無) (有) (無)			
147	南江戸五丁目	201.74	13.10	No. 35	民	住宅	試掘		無			
148	東野五丁目	約 130.3	62.00 ~ 63.50	No. 79	公	水道	既往の調査履歴	H31-211	(有)			
149	太山寺町	960.88	9.80	No. 10	民	その他建物	既往の調査履歴	H21-115	(無)			
150	鷹子町	244.39	43.40	No. 128	民	住宅	既往の調査履歴	H30-023	(有)			
151	祝谷六丁目	725.55	47.70	No. 55	民	宅地造成	既往の調査履歴	H28-062	(無)			
152	南江戸五丁目	159.00	13.40	No. 33	民	住宅	試掘		無			
153	下伊台町	170.00	151.10	包蔵地外	公	その他開発	試掘		無			
154	常竹	170.00	15.40	包蔵地外	公	その他開発	試掘		無			
155	猿川原	170.00	97.80	包蔵地外	公	その他開発	試掘		無			
156	久万ノ台	517.88	20.00 ~ 22.00	No. 167	民	その他建物	既往の調査履歴	H31-107	(有)			
157	小坂五丁目	258.20	22.20 ~ 22.40	No. 111	民	住宅	既往の調査履歴	H29-171	(有)			
158	平井町	1,782.65	55.50 ~ 55.80	No. 152	民	その他建物	試掘		有	○ 溝・堅穴建物	弥生土器・須恵器 土師器・陶磁器	

松山市埋蔵文化財調査関係資料

令和2年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(5)

159	西長戸町	528.39	9.20	No. 154	民	その他建物	試掘	無			
160	余戸西一丁目	592.61	5.60	包蔵地外	公	その他建物	試掘	有	○ 土坑・柱穴	須恵器・土師器 瓦器・磁器	
161	道後今市	201.12	32.00	No. 68	民	住宅	試掘	無	○	弥生土器・須恵器	
162	南久米町	189.60	34.70 ~ 36.50	No. 126-1	公	水道	周辺の調査履歴 S56-003 (H05-062) H07-021 H10-114 H17-281	(無) (無) (無) (有)			
163	居相三丁目	108.44	20.20	No. 119	民	住宅	試掘	有	○ 柱穴	弥生土器	
164	平井町	25.13	58.40 ~ 59.00	No. 152	公	水道	周辺の調査履歴 H17-239-7 H30-131 平井遺跡8次	(無) (有) 一			
165	善応寺	743.00	44.40	北条 No. 67	民	住宅	試掘	有	○ 堅穴建物・柱穴	弥生土器・須恵器 土師器	
166	平井町	283.69	68.30	No. 90	民	住宅	試掘	有	○ 溝	土師器	
167	鷹子町	631.06	48.10 ~ 48.30	No. 128	民	住宅	既往の調査履歴 H31-144	(無)			
168	枝松三丁目	238.49	33.20	No. 82	民	住宅	既往の調査履歴 R02-118	(無)			
169	北斎院町	566.00	5.60	No. 29	民	宅地造成	試掘	有	○	弥生土器・須恵器 土師器	
170	南久米町	379.15	35.90	No. 126-1	民	宅地造成	既往の調査履歴 H30-147	(無)			
171	東石井六丁目	248.28	20.40	No. 119	民	住宅	試掘	無			
172	吉藤二丁目	456.12	20.00	No. 227	民	宅地造成	試掘	有	○ 土坑	弥生土器・須恵器 土師器	
173	小坂四丁目	3.90	25.90	No. 110	公	水道	既往の調査履歴 H30-159	(無)			
174	北井門二丁目	5.40	23.70	No. 121	公	水道	既往の調査履歴 R02-059	(有)			
175	上野町	3,759.00	61.20	No. 136	民	宅地造成	試掘	無			
176	中村二丁目	218.34	26.50	No. 108	民	住宅	試掘	無	○	弥生土器	
177	朝美一丁目	190.87	14.10	No. 34	民	その他建物	試掘	有	○ 溝・柱穴	弥生土器	
178	土居町	335.42	29.10	No. 176	民	その他建物	試掘	無			
179	谷町	255.19	14.20	No. 41	民	住宅	試掘	有	○ 堅穴建物・土坑	弥生土器	
180	北斎院町	5.72	6.60	No. 26	公	水道	既往の調査履歴 R02-098	(有)			
181	権現町	303.11	33.40	No. 170-3	民	住宅	試掘	有	○ 土坑	弥生土器	
182	小坂四丁目	168.76	25.50	No. 110	民	住宅	試掘	無			
183	平井町	205.91	74.80	No. 90	民	宅地造成	試掘	無			
184	祝谷五丁目	135.10	52.20	No. 55	民	住宅	既往の調査履歴 H31-158	(無)			
185	山西町 古三津町	1,165.00	5.00 ~ 17.50	No. 21	民	その他開発	既往の調査履歴 R02-067	(有)			
186	道後今市	184.65	33.20	No. 68	民	住宅	既往の調査履歴 H29-124	(有)			
187	南久米町	171.83	35.00	No. 126-1	民	住宅	既往の調査履歴 H19-047	(無)			
188	山越三丁目	540.00	18.00	No. 168	公	道路	周辺の調査履歴 H14-297	(無)			
189	朝日ヶ丘二丁目	1,633.40	19.00 ~ 20.70	No. 34	民	宅地造成	試掘	有	○ 溝・柱穴	須恵器・土師器・瓦	
190	祝谷六丁目	426.08	71.80	No. 49	民	宅地造成	既往の調査履歴 H30-165	(無)			
191	桑原一丁目	136.95	35.10 ~ 35.40	No. 82	民	住宅	既往の調査履歴 H31-154	(有)			
192	桑原一丁目	140.77	35.10 ~ 35.40	No. 82	民	住宅	既往の調査履歴 H31-154	(有)			
193	北斎院町	141.35	9.60	No. 156	民	住宅	試掘	無			
194	東野五丁目	161.04	62.00 ~ 63.50	No. 79	民	住宅	既往の調査履歴 H31-211	(有)			
195	中村一丁目	466.15	28.80	No. 108	民	住宅	試掘	有	○ 溝・柱穴	弥生土器	
196	南江戸五丁目	934.01	12.60	No. 35	民	住宅	試掘	無	○	弥生土器	
197	高岡町	123.44	7.90	No. 26	民	住宅	既往の調査履歴 R02-017	(無)			
198	祝谷二丁目	4.92	35.20	No. 57	公	水道	既往の調査履歴 H31-190	(無)			
199	道後今市	105.79	32.20	No. 68	民	住宅	既往の調査履歴 R02-125	(有)			
200	南江戸二丁目	171.24	15.40	No. 37	民	住宅	試掘	無			
201	祝谷二丁目	212.41	35.20	No. 57	民	住宅	既往の調査履歴 H31-190	(無)			
202	姫原一丁目	164.30	27.30	No. 168	民	住宅	試掘	有	○ 溝・柱穴	弥生土器・須恵器 土師器	
203	船ヶ谷町	240.57	13.80	No. 17	民	住宅	試掘	有	○ 柱穴	弥生土器	

松山市埋蔵文化財調査関係資料

令和2年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(6)

204	東石井二丁目	331.44	23.00	No. 215	民	宅地造成	試掘	無		
205	南久米町	3.19	35.00	No. 126-1	公	水道	周辺の調査履歴 H19-047	(無)		
206	道後今市	229.10	33.00	No. 219	民	住宅	試掘	無		
207	南斎院町	1,952.91	7.60	No. 27	民	宅地造成	試掘	有	○ 井戸・溝	土師器・弥生土器 瓦器
208	道後湯月町	175.50	62.40	No. 58	民	住宅	試掘	無		
209	上野町	271.03	61.80	No. 135	民	住宅	試掘	無		
210	北斎院町	205.00	10.60	No. 156	民	その他開発	試掘	有	○ 柱穴・堅穴建物	弥生土器・須恵器
211	北井門三丁目	180.27	22.60 ~ 22.80	No. 121	民	住宅	既往の調査履歴 H28-249	(有)		
212	権現町	303.12	33.40	No. 170-3	民	宅地造成	既往の調査履歴 R02-181	(有)		
213	中村一丁目	538.28	28.80	No. 108	民	宅地造成	既往の調査履歴 R02-195	(有)		
214	桑原一丁目	136.89	35.10 ~ 35.40	No. 82	民	住宅	既往の調査履歴 H31-154	(有)		
215	吉藤二丁目	456.12	20.00	No. 227	民	宅地造成	既往の調査履歴 R2-172	(有)		
216	道後今市	235.18	32.10	No. 68	民	住宅	試掘	有	溝	弥生土器・須恵器
217	南高井町	1,569.87	36.10	No. 134	公	その他開発	試掘	有	堅穴建物・溝 土坑・柱穴	土師器
218	南江戸五丁目	164.15	13.40	No. 33	民	住宅	既往の調査履歴 R02-152	(無)		
219	朝美一丁目	4.0	14.10	No. 34	民	水道	既往の調査履歴 R02-177	(有)		
220	南久米町 来住町	597.48	39.70	No. 127	民	宅地造成	試掘	無		
221	北井門二丁目	2,328.00	24.20 ~ 25.50	No. 222	民	その他建物	試掘	有	○ 溝・柱穴	弥生土器・陶器 須恵器・土師器
222	北斎院町	742.87	7.80	No. 29	民	宅地造成	試掘	無		
223	祝谷五丁目	128.39	54.70	No. 55	民	その他開発	試掘	有	○	壺形土器・須恵器
224	勝岡町	約300.00	39.30	No. 231	民	その他開発	試掘	有	石棺	人骨
225	東野五丁目	658.78	60.00 ~ 63.50	No. 79	民	住宅	既往の調査履歴 H30-209	(無)		
226	中村三丁目	10.72	26.50	No. 110	民	水道	周辺の調査履歴 H23-008	(無)		
227	中村三丁目	235.71	26.30	No. 110	民	住宅	試掘	有	柱穴	—
228	樽味二丁目	640.42	42.50	No. 81	民	宅地造成	試掘	有	○ 土坑・柱穴	弥生土器・須恵器 土師器・土器細片
229	来住町	452.00	39.50	No. 127	民	宅地造成	試掘	無		
230	恵原町	3,353.00	81.10 ~ 88.50	No. 164	民	その他開発	試掘	無		
231	恵原町	4,670.00	84.00 ~ 98.00	No. 164	民	その他開発	試掘	無		
232	吉藤二丁目	306.48	17.60	No. 227	民	造成	試掘	有	○ 堅穴建物・溝	弥生土器・土器細片
233	朝美一丁目	325.34	14.00 ~ 14.40	No. 34	民	その他建物	試掘	無		
234	枝松三丁目	560.50	33.40	No. 82	民	その他建物	試掘	無		
235	小坂五丁目	102.73	24.40	No. 111	民	その他建物	既往の調査履歴 H30-075	(無)		
236	姫原一丁目	2.79	27.30	No. 168	民	水道	既往の調査履歴 R02-202	(有)		
237	中村二丁目	176.14	28.20	No. 108	民	住宅	試掘	無		
238	枝松三丁目	143.74	31.40	No. 83	民	住宅	試掘	無		
239	樽味四丁目	228.43	41.90	No. 81	民	宅地造成	試掘	有	土坑	弥生土器
240	山越一丁目	331.68	17.90	No. 160	民	住宅	既往の調査履歴 H27-074	(無)		
241	祝谷二丁目	123.40	42.20 ~ 42.30	No. 57	民	住宅	既往の調査履歴 R02-003	(有)		
242	北土居五丁目	1,278.00	23.30	No. 120	民	その他開発	試掘	無		
243	小坂四丁目	617.47	25.40	No. 110	民	造成	試掘	無		

松山市埋蔵文化財調査関係資料

表3 令和2年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	主な遺構・遺物等	本格対象面積 (㎡)	屋外調査期間	調査目的
660	東垣生八反地遺跡6次調査	松山市東垣生町650番1、651番1、652番1、653番1、654番1、663番、664番、651番5の各一部	弥生・古墳	掘立柱建物、溝、土坑、柱穴、井戸、水田址土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、石器、鉄器、木器、動物骨	2088.00	R2.2.3～R2.8.7	緊急
662	松末栄松遺跡	松山市松末二丁目138番1、138番4、138番5、138番6の各一部	弥生・中世	土坑、溝、井戸、柱穴・小穴、性格不明遺構 弥生土器、土師器、土師質土器、陶磁器、瓦、銭貨、石器、鉄器	804.00	R2.5.7～R2.8.18	緊急
663	姫原遺跡3次調査	松山市姫原一丁目甲33番、甲33番2	弥生～中世	竪穴建物、溝、土坑、柱穴 弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器、銅鏃、鉄器、瓦器	234.16	R2.5.7～R2.6.30	国補緊急
664	祝谷大地ヶ田遺跡9次調査	松山市祝谷五丁目824番1の一部	弥生～近世	土坑、溝、柱穴、性格不明遺構 弥生土器、土師器、須恵器、ガラス玉、石器、土師質土器、瓦器、陶器	387.87	R2.7.1～R2.8.31	緊急
665	桑原高井遺跡4次調査	松山市桑原一丁目778番、779番1の各一部及び778番地先	弥生・古墳 中世	竪穴建物、掘立柱建物、溝、柱穴、土師棺墓 弥生土器、土師器、須恵器、鉄器、陶磁器、石器	115.68	R2.10.1～R2.10.30	緊急
666	下難波腰折遺跡2次調査(A区)	松山市下難波乙9番41、乙9番42、乙109番1の各一部	古墳・近代	横穴式石室、小石室、土坑、性格不明遺構 土師器、須恵器、鉄器、ガラス製品、玉製品、銀製品、人骨、陶器	1,247.82	R2.10.15～R2.12.25	緊急
667	下難波腰折遺跡2次調査(B区)	松山市下難波乙9番41、乙109番1の各一部	古墳	小石室 鉄器、ガラス玉、玉製品	101.18	R2.11.1～R2.12.25	国補緊急
668	松山城三之丸跡23次調査	松山市堀之内13番9(史跡内)の一部	近世	北御門東袖石垣、土塁 陶磁器、瓦	120.00	R2.11.9～R3.3.11	国補
確認調査	掩体壕確認調査	松山市南吉田町1020番4、1021番4の各一部	現代	暗渠 鉄釘、陶磁器	85.00	R2.6.15～R2.6.26	緊急



図1 令和2年度 松山市埋蔵文化財本格調査位置図

Ⅲ 令和2年度 出土物整理・保存処理事業

令和2年度 出土物整理・保存処理事業

1. 出土物整理

当センターでは、近年実施された発掘調査の整理作業と並行して、過去の調査に関する資料の再整理を行っている。

報告書作成に向けて作業を進めている発掘調査の出土品については、必要に応じて注記・接合・復元作業を拡充した上で、実測作業と写真撮影を行っている。報告書が刊行された遺跡の出土品については、掲載順に配列したうえで当センター収蔵庫と別棟の松山市文化財情報館のいずれかに収納するほか、胴部の小片等については市内北吉田町の収蔵庫にて保管している。また、重要遺物については、温湿度管理がなされ、自動消火システムが設置されているセンターの特別収蔵庫にて厳重に保管している。いずれの収蔵場所においても収蔵台帳を作成し、資料調査の依頼等に迅速に対応できる体制をとっている。なお、遺構・遺物の実測図・作業日誌・写真のネガ・ポジフィルム等は、センターの所定の場所に保管しつつ、必要に応じて再整理を実施することによって、適切な管理を実施している。

(1) 遺物洗浄・注記・接合・復元作業

石膏による土器の復元作業は、報告書掲載写真の撮影と展示目的に加え、遺物の補強のために行う場合もある。近年は、過去に復元済みの遺物について、経年劣化による破損個所の修復を行うこともある。

表1 遺物接合・復元作業一覧

(1)

遺跡 No.	遺 跡	点数	天箱数	調査年度	刊 行 物	備 考
14-⑱	乃万の裏遺跡	1		昭和48年	松山市文化財調査報告書第7・17集	
104	中村松田遺跡	1		昭和62年	松山市文化財調査報告書第59集	
141	久米窪田森元遺跡	1		昭和62年	松山市文化財調査報告書第157集	
129	筋違F遺跡	1		昭和63年	松山市文化財調査報告書第52集	
166	福音小学校構内遺跡	12		平成元年	松山市文化財調査報告書第50・91・95集	
263	葉佐池古墳	1		平成5年	松山市文化財調査報告書第92集	国庫補助
306	岩崎遺跡	2		平成8年	松山市文化財調査報告書第71集	
395	西石井遺跡2次調査	1		平成14年	松山市文化財調査報告書第112集	
417	番町遺跡	2		平成15年	松山市文化財調査報告書第109集	
442	松山城櫓門跡	2		平成15年	松山市埋蔵文化財調査年報16	国庫補助
516	松山城三之丸跡11次調査	2		平成20年	松山市埋蔵文化財調査年報21	国庫補助
543	松山城三之丸跡15次調査	3		平成22年	松山市文化財調査報告書第109集	国庫補助
575	若草町遺跡4次調査	4		平成26年	松山市埋蔵文化財調査年報27	
620	樽味高木遺跡18次調査	12		平成28年	松山市埋蔵文化財調査年報29	

出土物整理

遺物接合・復元作業一覧

(2)

遺跡 No.	遺 跡	点数	天箱数	調査年度	刊 行 物	備 考
*	試掘 (H30-60) 南久米	1		平成 28 年	松山市埋蔵文化財調査年報 29	国庫補助
635	道後今市遺跡 16 次調査		1	平成 29 年	松山市埋蔵文化財調査年報 30	
636	道後今市遺跡 17 次調査	8	10	平成 29 年	松山市埋蔵文化財調査年報 30	
637	別府遺跡 2 次調査	1		平成 29 年	松山市文化財調査報告書 第 200 集	
648	別府遺跡 4 次調査	2		平成 30 年	松山市文化財調査報告書 第 200 集	
646	久米高畑遺跡 74 次調査	1		平成 30 年	松山市埋蔵文化財調査年報 31	
644	持田本村遺跡 2 次調査		7	平成 30 年	松山市埋蔵文化財調査年報 31	
654	東垣生八反地遺跡 5 次調査	1		令和元年	松山市文化財調査報告書 第 198 集	
657	下難波腰折遺跡 1 次調査		9	令和元年	松山市埋蔵文化財調査年報 32	
660	東垣生八反地遺跡 6 次調査	2		令和 2 年	松山市埋蔵文化財調査年報 33	
661	南高井一丁地遺跡	10		令和 2 年	松山市埋蔵文化財調査年報 32	
662	松末栄松遺跡	22	6	令和 2 年	松山市埋蔵文化財調査年報 33	
663	姫原遺跡 3 次調査	3		令和 2 年	松山市埋蔵文化財調査年報 33	国庫補助
665	桑原高井遺跡 4 次調査	2		令和 2 年	松山市埋蔵文化財調査年報 33	
665	祝谷大地ヶ田遺跡 9 次調査	5	5	令和 2 年	松山市埋蔵文化財調査年報 33	
666 667	下難波腰折遺跡 2 次調査	2		令和 2 年	松山市埋蔵文化財調査年報 33	

(2) 遺物実測・整理・収蔵・図面整理作業

出土品は報告書刊行計画にしたがって分類し、必要なものについて実測図の作成やトレース作業を行っている。近年はデジタルトレースに完全に移行している。遺構測量図等に関しても同様である。

以下、作業を実施した遺跡について概要を記す。

表 2 遺物実測・整理・収蔵・図面整理作業一覧

遺跡 No.	遺 跡	報 告 書 名	備 考
	年報 32		令和 2 年度刊行
637	別府遺跡 2 次調査	『別府遺跡』 － 2 次・3 次・4 次－ 「正尺池改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」	令和 2 年度刊行 松山市文化財調査報告書 第 200 集
640	別府遺跡 3 次調査		
648	別府遺跡 4 次調査		
342	五郎兵衛谷 7 号墳	『五郎兵衛谷 7 号墳』 「国庫補助市内遺跡発掘調査報告書」	令和 2 年度刊行 松山市文化財調査報告書 第 201 集
647	筋違 S 遺跡	未定	令和 3 年度刊行予定
646	久米高畑遺跡 74 次調査	未定	令和 3 年度刊行予定
*	平成 13 年度以降三之丸跡及び 周辺で実施した全遺跡	「史跡松山城跡」保存整備に伴う 埋蔵文化財確認調査総括報告書	令和 3 年度刊行予定

出土物整理

(3) 遺物写真撮影・現像・整理作業

令和2年度に報告書などを刊行した遺跡について、掲載遺物の写真撮影及びデータ処理を行った。また、調査直後の遺物や展示・広報関係に使用する物なども適宜撮影している。

撮影においてはフィルムの使用を停止し、遺物用・現場用共に35mm判一眼レフデジタルカメラフルサイズ1台と、APS-Cサイズ4台で賄っている。なお、現場用にはコンパクトデジタルカメラも併用している。データ処理には、Adobe Lightroom Classic 及び Adobe Photoshop を使い、TIFF保存を基本としている。編集は、Adobe InDesign で行っている。

撮影済みのフィルムは専用の保管室に収納しているが、使用の際は、スキャナー EPSON GT-X970 でデータ化している。他機関からの依頼はもとより、昔の景観を探しておられた市民の要望に応じ喜ばれた。古い写真もうかつに廃棄できない。

その他、報告書刊行済みの遺跡のデータの再整理を行い、保管データ量の圧縮に努めた。令和2年度に写真関係の作業を実施した遺跡や遺物は、以下の刊行物に掲載している。

表3 遺物写真撮影及びデータ処理・整理作業一覧

報告書 No.	報告書名	所収遺跡数	備考
*	図録「朝日谷2号墳」		令和2年度発行
年報32	「松山市埋蔵文化財調査年報32」	*	令和2年度刊行
第**集	「東垣生八反地遺跡5次調査」	1	令和3年度刊行予定
第**集	「南高井一丁地遺跡調査」	1	令和3年度刊行予定
第200集	「別府遺跡2・3・4次調査」	3	令和2年度刊行
第201集	「五郎兵衛谷7号墳」	1	令和2年度刊行
	「史跡松山城跡」保存整備に伴う埋蔵文化財確認調査総括報告書	平成13年度以降三之丸跡及び周辺で実施した全遺跡	令和3年度刊行予定（国庫補助）

2. 出土物整理 工事立会調査

所在地 1区：松山市岩崎町二丁目 487 番 9 地先～ 636 番 11 地先
2区：松山市岩崎町二丁目 479 番 2 地先～ 483 番 1 地先
3区：松山市岩崎町二丁目 468 番 5 地先～ 463 番 3 地先
(松山地区No.224 岩崎遺跡)

期 間 令和 2 年 11 月 13 日～令和 3 年 1 月 27 日

面 積 159.6㎡

原 因 上水道管布設替 (施設 2 支管 17 号配水管付設替工事)

担 当 新原 佑典 (文化財課)

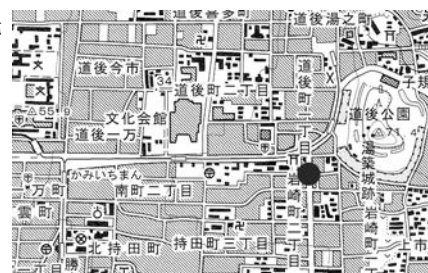


図 1 調査地位置図

概 要 この調査は、上水道 (配水) 管の布設替工事に際して立会で実施したものである。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「松山地区No.224 岩崎遺跡」に所在する。松山環状線改修工事に先立って実施された発掘調査 (岩崎遺跡 1 次調査) の成果をもとに、平成 30 年度に包蔵地として新規設定された。上記調査及び民間開発に伴って実施された 2 次調査のほかは試掘調査等の履歴に乏しいが、弥生時代から古代、中世の集落が展開する範囲である。さらに周辺では史跡湯築城跡や、道後町遺跡で実施された公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センターによる調査歴がある。

工区は東部環状線から東西に延びる松山市道 (東雲 3 号及び 4 号線) 内の 3 地点で、施工は掘削幅員 0.65m、総延長約 290m に及ぶ。いずれも水路擁壁及び新旧ガス管、上下水道管、温泉管が交錯しており、攪乱の間隙を縫うような掘削の中で、一部に遺存するオリジナルの堆積土層を確認し、遺物を採集した。3 つの調査区は岩崎遺跡 1 次調査 (以下、「1 次調査」と言う。) V 区に近接しているため、この成果^註に準拠しながら、土層堆積状況を中心に報告する。なお、調査は新設上水道管の施工が及ぶ範囲、深度にとどめ、それ以外については掘削を行っていない。

成 果 基本層序は第①層表土及び造成土、第②層造成以前の堆積土、第③層にぶい黄橙色砂、第④層灰黄褐色シルト、第⑤層褐灰色土、第⑥層灰オリブ色土である。第③層は 3 区に顕著に認められる。1 次調査 V 区で確認された土層との対応関係としては、第④層が第Ⅱ層、第⑤層が第Ⅲ層、第⑥層が第Ⅳ層に相当するとみられる。1 次調査の成果によると第Ⅲ層には古代に比定される遺物を、第Ⅳ層には古墳時代の遺物を包含する。

1 区の調査

1 区は岩崎遺跡 1 次調査 V 区第 4 地区及び VI 区の間地点から西方へ展開する、東雲 3 号線内である。調査区東端の現地標高は 37.8m、西端で 37.1m を測り、東方から西方へ緩やかな傾斜をなす。この地形は石手川旧流路による氾濫堆積に起因するもので、後述する工区を含め、調査地全域がこの範囲に位置する。掘削深度は地表下 0.8m にとどまったこと、また著しい攪乱のため、遺構は確認されなかった。確認した遺物は僅少であったが、第④層で土釜の脚部など中世の遺物を採集した。

2 区の調査

2 区は岩崎遺跡 1 次調査 V 区第 2 地区と第 3 地区の間地点から西方へ展開する、東雲 4 号線内である。現地標高は東端で 38.0m、西端で 37.2m を測る。やはり全体に既存管路による著しい攪乱を受けていた。確認した土層は第①層造成土、第②-3 層明褐色土、第②-4 層褐灰色土、第②-5 層橙色土、

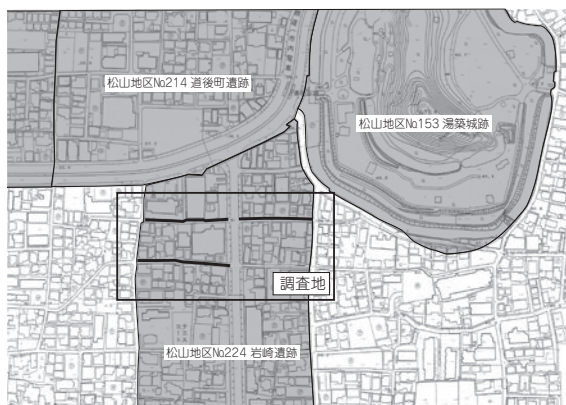


図2 調査地周辺埋蔵文化財包蔵地図

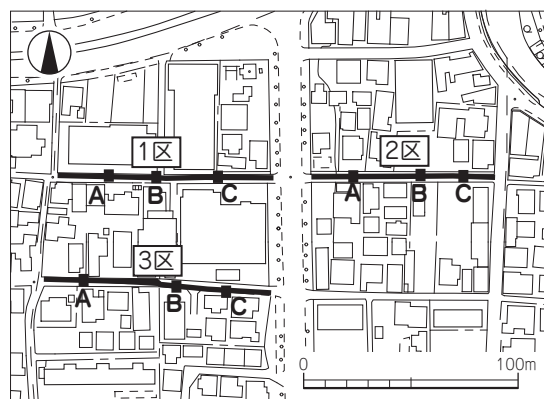


図3 土層掲載地点

第④層灰黄褐色シルトである。第②層のうち②-4層、②-5層は旧耕作土の可能性がある。遺物はいずれも第④層中から、弥生時代前期から後期の土器、及び中世の土器を採集した。この地点でも明瞭な遺構は確認されなかった。

3区の調査

3区は岩崎遺跡1次調査V区第4地区及びVI区の間地点から東方へ展開する、東雲3号線内である。現地標高は東端で38.8m、西端で37.9mを測る。3つの調査区の中でもっとも、土層の遺存状況は良好であった。基本層序は第①層造成土、第②層造成以前の堆積土層、第③層にぶい黄橙色砂、第④層灰黄褐色シルト、第⑤層褐灰色土、第⑥層灰オリーブ色土である。第③層土は一部で2層に分かれ、下層に灰白色砂礫が存在する。第③層が展開するのは3区のみで、中世以降に河川堆積があったことが窺われる。また掘削深度が最深で地表下1.2mに及んだこともあり、1次調査V区の第Ⅲ層及び第Ⅳ層に相当する第⑤層、第⑥層を検出した。また3区B地点では第④層土を掘り込み、にぶいオリーブ色土を埋土とする溝状遺構を確認した。攪乱により一部途絶するが、上面幅1m以上、深さ0.5m以上を測る。遺物は第③層中に中世の遺物を多く確認し、第④層に弥生土器から土師器までの遺物を採集した。第⑤、⑥層で確認された遺物は僅少であった。

まとめ 沖積地形を反映した、北東から南西へ緩やかな傾斜を持つ土層の状況を確認した。文京遺跡に代表される、道後城北遺跡群に通有のいわゆる「黄色シルト層」までの掘削には至らなかったため、岩崎遺跡1次調査で確認された弥生時代前期に始まる大規模な集落の展開を明らかにすることはできなかったが、採集した遺物の存在から、弥生時代の集落は主に東方に展開することが推測される。また中世の遺物については広範に認められ、1次調査VI区で中世の掘立柱建物が検出されていることを踏まえれば、集落、生産域が展開する可能性は高い。

今回、包蔵地を東西に横断する調査を行い、遺存度の高い土層と弥生時代前期から中近世に至る遺物を確認したことで、この地区に関する基礎資料を獲得することができた。一方で今回の上水道管施工では黄色シルト層までは掘削が及んでいないため、当該時期の遺跡展開については不明な点を残したが、換言すれば良好な土層堆積が地下に保存されることとなった。今後、調査例が増加するにつれて周辺の地形形成の状況や歴史的展開が詳らかになってくるものと期待される。(新原)

(註)

宮内慎一 [編] 1999『岩崎遺跡』(松山市文化財調査報告書第71集)

工事に伴う立会調査

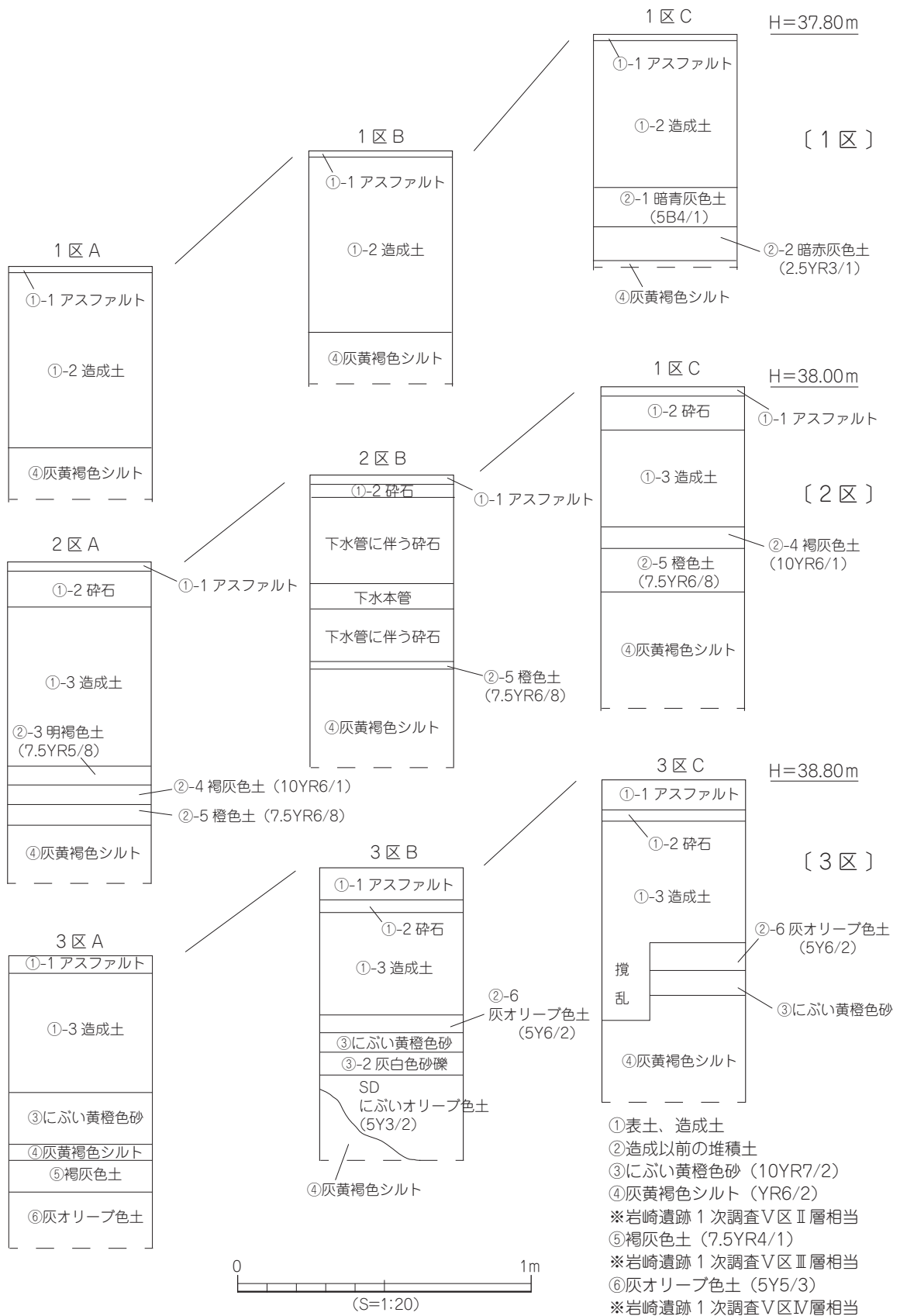


図 4 土層模式図

出土物整理

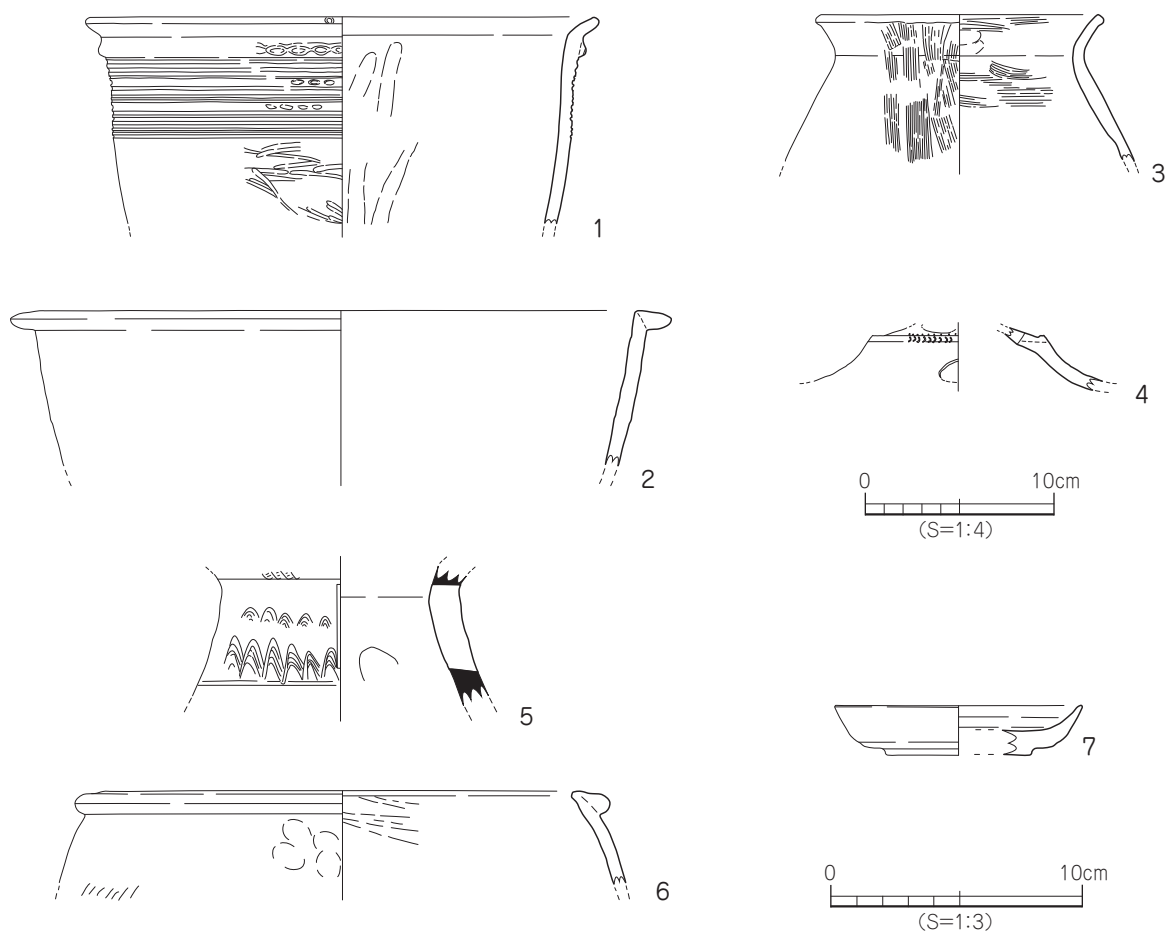


図5 出土遺物実測図

表1 出土遺物観察表 (土製品)

番号	種類 器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考
				外面	内面			
1	弥生土器 甕	口径 (26.5) 残高 10.8	口唇部に刻みあり、貼付突帯、ヘラ描き沈線3条、列点文、ヘラ描き沈線3条、列点文、ヘラ描き沈線5条、以下ミガキの文様構成。	ナデ ミガキ	ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~4mm) ◎	2区
2	弥生土器 甕	口径 (23.5) 残高 6.1	粘土貼付けにより断面三角形の口縁部を成形。内面スス付着。	ナデ	ナデ	橙色 にぶい橙色	石・長 (1~3mm) 金、赤色粒僅かに含む◎	2区
3	弥生土器 甕	口径 (14.6) 残高 7.7	折り曲げ口縁、口唇部はわずかに肥厚、外反する。	ハケ (縦位) (8本/1cm)	ハケ (横位) (6本/1cm)	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~3mm) 金 ◎	3区
4	弥生土器 高坏	残高 3.3	高坏の脚部。裾部は粘土を継ぎ足し段を作り、大きく裾開きにする。段の上位に「C」字状、下位に逆「C」字状の竹管文を施す。径約1.8cmの円孔2孔が残る。	ナデ	ナデ ヘラナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1~4mm) 金、赤色粒僅かに含む ◎	3区
5	須恵器 器台	残高 5.5	脚部片。外面は横走する沈線→下位の波状文→上位の波状文。四方の長方形透かしが2孔残る。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (~1mm) ◎	1区 器台ないし脚付壺の脚基部。
6	土師器 土釜	口径 (18.2) 残高	口唇部貼付けにより玉縁状に肥厚させる。外面スス付着。	ナデ	ナデ	暗褐色 にぶい黄褐色	石・長 (1~6mm) 金 ◎	1区
7	土師器 坏	口径 (9.7) 底径 (5.8) 器高 2.0	底部は静止ヘラ切りか。	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (~1mm) ◎	3区

3. 出土物整理 坂浪西1号墳確認調査

所在地 松山市勝岡町乙 935 番 105 の一部
(松山地区No.231 坂浪西古墳群)

期 間 令和3年3月15日～同年3月31日

面 積 約 300㎡

原 因 果樹園造成(国庫補助事業)

担 当 高尾 和長・山本 健一・大西 朋子・
宮脇 和人・山邊 進也・浅井 茂之
(文化財課) 山内 英樹・新原 佑典・鶴久森 彬

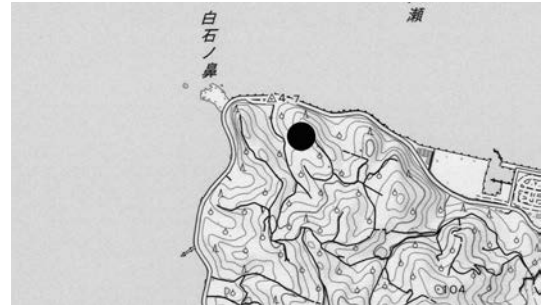


図1 調査地位置図

1 調査の経緯

2021(令和3)年3月8日、株式会社オレンジファーム YAMAKO・田那部昇氏(以下、「発見者」)より、同地の果樹園造成中に遺跡を発見したとの連絡が文化財課にあった。当該地は「周知の埋蔵文化財包蔵地」外にあり、同日、文化財課職員が現地確認を行ったところ、箱式石棺の断面が斜面に露出した状態であった。そこで、遺跡の取扱いについて発見者、文化財課、市埋蔵文化財センターの三者が協議を行い、発見者が文化財保護法第96条(遺跡の発見)及び同93条(包蔵地における土木工事等)の届出を行う(令和2年度第224号)とともに、文化財課及び市埋蔵文化財センターが、届出に対する試掘確認調査を行うこととなった。

なお、今回の調査対象である箱式石棺を含む古墳を「坂浪西1号墳」と呼称し、本古墳を含む古墳群を「坂浪西古墳群」として周知の埋蔵文化財包蔵地(No.231)に新規指定したことを付記しておく。

2 遺跡の立地(図1)

坂浪西1号墳は、松山市西部の高浜町、太山寺町、勝岡町に広がる北に延びる丘陵尾根頂上部に位置する。同丘陵部には赤子谷山古墳、坂浪古墳、のほりを山古墳などがあり、発掘調査の事例としては、丘陵北東部の勝岡町で1987(昭和62)年に高月山古墳の調査が実施され、4世紀末～5世紀初頭の箱式石棺2基を検出し、遺物としては銅鏃、鉄剣、鋤先が出土している。

3 遺構と遺物

(1) 墳丘及び構築方法(図2)

調査地は上部に冠水用のパイプを通す溝が掘削され、南側は開墾により大きく原形を失っているため、墳丘全体を把握できるものではなかったが、現況が残る北側墳丘部と地形測量及び断面観察の結果を勘案すると、地山整形および墳丘盛土による径約15mの円墳と想定される。

ここで注目されるのが墳丘の構築工程で、以下にその工程を列記する。

- ① 地山成形(切土等)により丘陵部に平坦部を構築し、灰褐色土(炭化物・灰を含む細砂)を固く敷き詰める。
- ② 灰褐色土を切り込み墓壙を構築し、中央部に箱式石棺を据える(円礫混じり粘土で被覆)。
- ③ 石棺構築と併行しながら、複数工程の盛土を積み上げる。

出土物整理

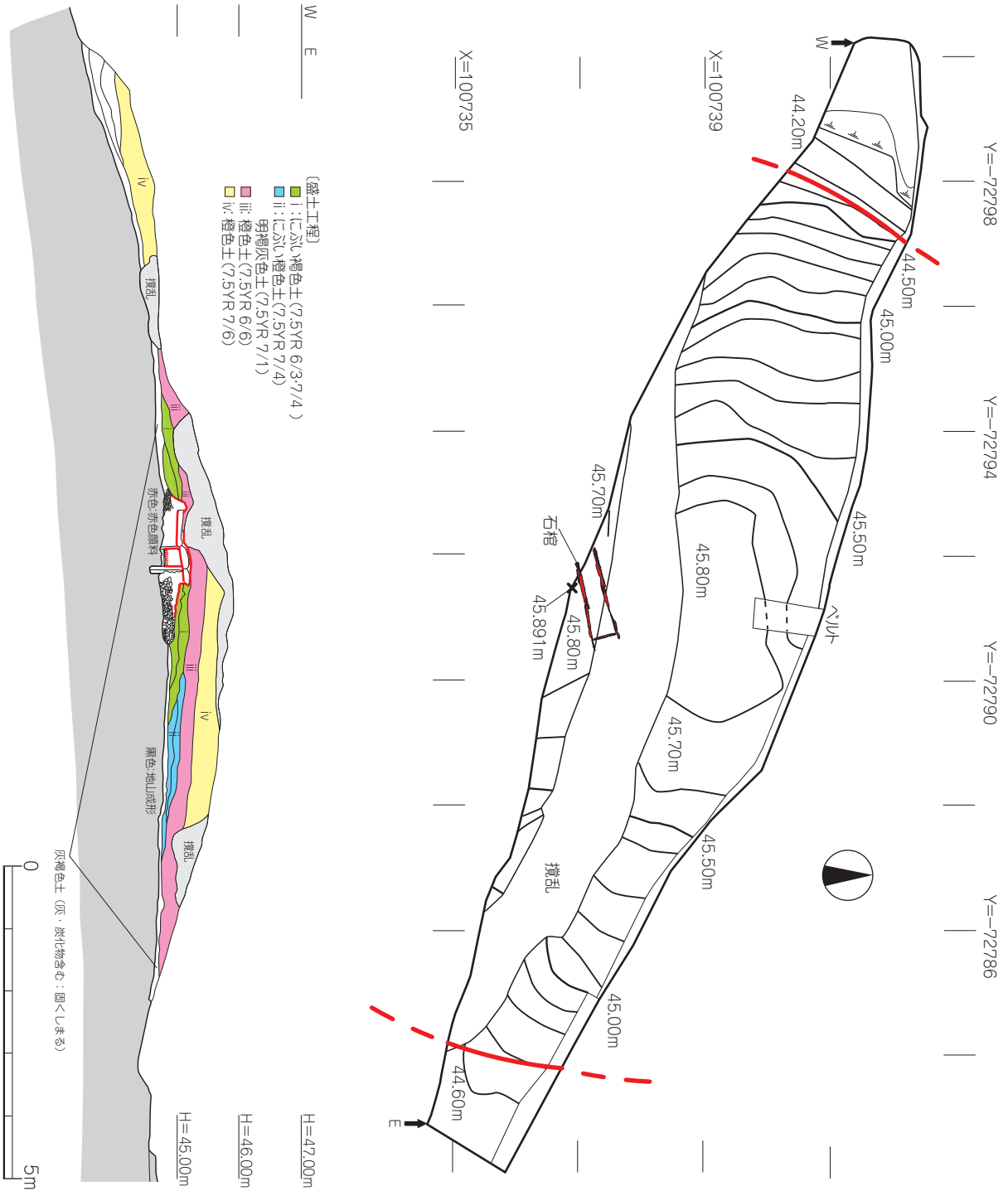


図2 墳丘測量図・断面土層図

坂浪西1号墳確認調査

- i 工程：石棺周囲ににぶい褐色土（炭化物・灰混じり砂質土）を固く敷き詰める。
- ii 工程：i 工程の裾部ににぶい橙色土（細礫混じり砂質土）と明褐灰色土（白みを帯びよく締まる炭化物混じり砂質土）を盛り上げる。
- iii 工程：橙色砂質土（礫・炭化物が混じり固く締まる）を全体的に盛り上げる。
- iv 工程：橙色砂質土（固く締まり、細礫混じり）を上部に盛り上げる。

各工程の中で層位は細分可能であるが、いずれも灰（炭化物）混じりの砂質土を固く締めて積み上げており、ii 工程終了時には、石棺蓋石上に顔料（ベンガラ）及び円礫混じりの被覆粘土が見える状態で「小墳丘」が完成するものとする。

さらに、iii・iv 工程の盛土構築を経て現存の墳丘が完成する。西側墳裾部は根や溝等の攪乱が激しく、地山整形後の灰褐色土（灰混じりの堅固な土層）の敷設範囲を墳丘の範囲と捉えたい。

(2) 箱式石棺の石材と構造（図3・5）

本古墳の埋葬主体は箱式石棺である。今回の確認調査では1基のみであったが、調査範囲が限定的なため、対象地外に複数の埋葬主体が存在する可能性も否定できない。

今回検出した箱式石棺は、確認当初の段階では蓋石2枚、側板4枚（左右2枚ずつ）、小口石1枚が組み合わされた状態で発見された。全体の約1/3が削平されてはいたが、開壘当時の様子の聞き取りや、周囲の石材回収作業の結果、構築当時の石材がほぼ全て確認された。

また、石材に塗布されていた赤色顔料（ベンガラ）の範囲や、壁面の被覆粘土に残された石材のスタンプを手掛かりに復元作業を進めた結果、本来は蓋石3枚、側板6枚（左右3枚ずつ）、小口石2枚の計11枚で構成されていたことが判明した。なお、本石棺に用いた石材は全て安山岩で、蓋石中央および両側2枚、蓋石が架かる側板上部などには、小口面を平坦に仕上げるための加工痕が伺える。

なお、石棺主軸は東西方位より北に14度振り、寸法（復元）は石棺内部で長軸180～185cm、小口側で幅約35cm、中央部で幅約25cmと括れる平面を呈する。床面玉砂利から蓋石内側までの高さは20cm程度と狭小である。

(3) 箱式石棺の構築方法（図4）

箱式石棺に付随する粘土（床面貼付・石材支持・被覆）、多量の円礫（2種類の大きさ）及び、多量の赤色顔料（ベンガラ）の塗布状況を平・断面観察により詳細に確認した結果、墓壙掘削から円礫・ベンガラ混じりの粘土被覆までの各工程を復元することができた。以下に詳細を記す。

① 墓壙の掘削

地山成形後に敷き固めた灰褐色土層に、長軸3.0～3.2m（復元長）、短軸1.6～1.7m、深さ15cm程度、平面形態が隅丸方形を呈する墓壙を掘削する。

② 嵌め込み溝の掘削

墓壙内に側板と小口石を据えるための溝を掘削する（幅約5cm・深さ15cm）。

③ 側板・小口石の設置

掘削した溝に側板と小口石を据える（側板で小口石を挟み込む構造）。

④ 粘土貼付・排水溝の掘削

側板と小口石の外側及び、石棺床面に粘土を貼付し、両石を固定させる。粘土の厚さは小口部で幅10cm、側板部で幅10cm程度を測る。また、床面粘土は厚さ5cmで、長軸中央に幅約3cm、深さ3cmの排水溝を掘削する。

出土物整理

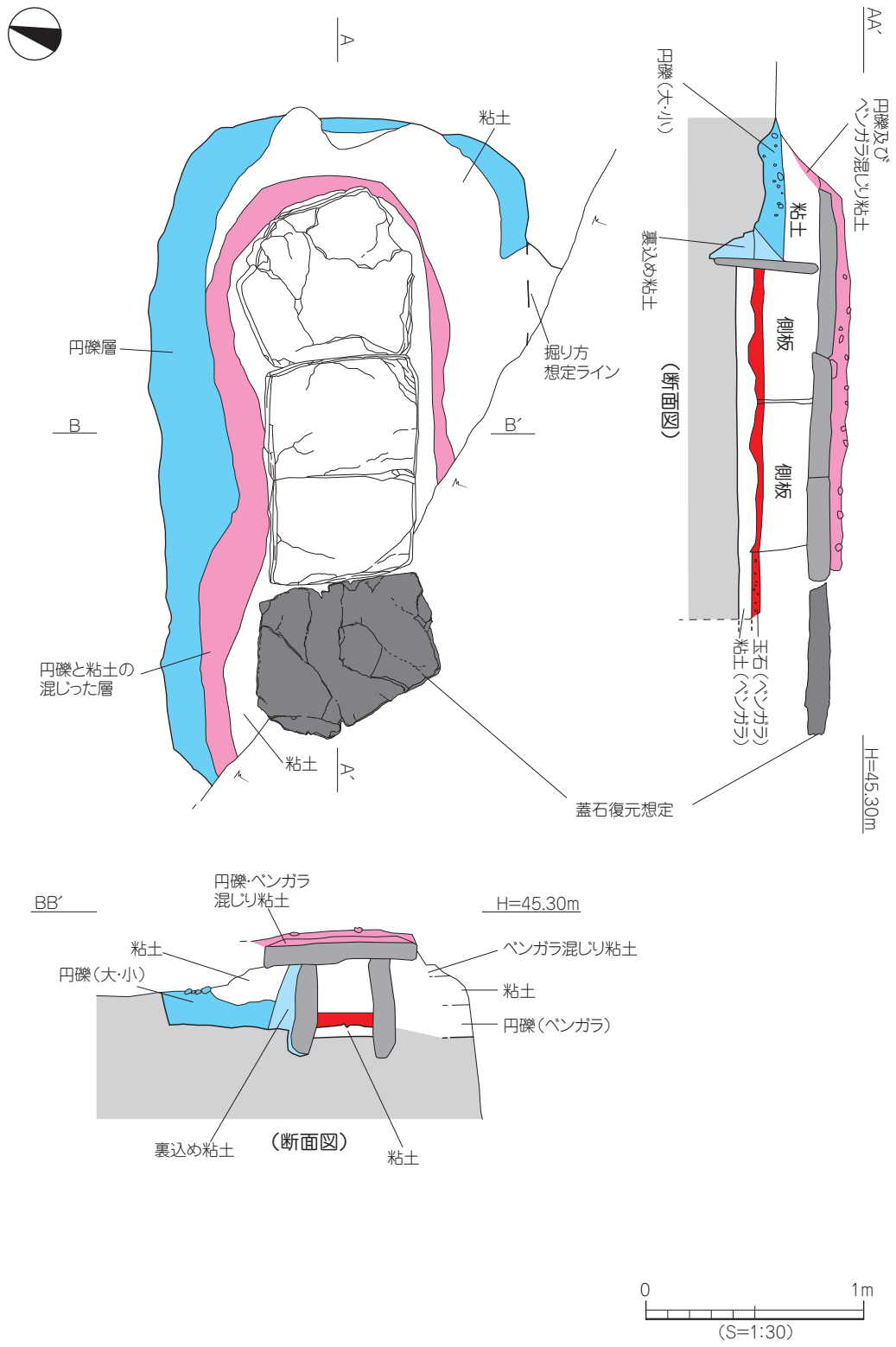


図3 石棺測量図

⑤ 小円礫の敷設

石棺外の墓壙掘方下面に、1cm～3cm大の小円礫を厚さ15cm程度敷き詰める。

⑥ 大円礫の敷設

石棺外の⑤の上面に、5cm～10cmの垂円礫を厚さ約10cmで敷き詰める。

⑦ 円礫上への粘土貼付

大円礫(⑥)の上面に粘土を厚い箇所を30cm程度貼付する。

⑧ 石棺内部の構築・埋葬

i 工程：石棺内部に小円礫とベンガラを「つなぎ」で混ぜ合わせたものを敷き詰める。

(厚さ5cm～7cm)

ii 工程：側板と小口石の石棺内側に、ベンガラを吹く(塗り付ける)。

iii 工程：遺体と遺物を納める。顔の部分にはベンガラではなく「水銀朱」を塗布。鉄製品(針か)は頭部付近(頭の右上)に束ねて供える。

⑨ 蓋石の架設

蓋石内面にベンガラを塗布し、蓋石を据え置く。この際、側板上に直接「置く」というよりも、外側の貼付粘土の広い接地面に「乗せる」イメージ(側板・小口石への荷重集中を分散か)。

⑩ 蓋石の粘土被覆

蓋石上面に円礫(大・小)を乗せ、石棺(蓋石)を覆うように粘土を被覆。

(ベンガラは粘土上面に塗布、もしくは当初より混ぜ合わせていた可能性を想定)

(4) 箱式石棺の床面構造(図6・7)

今回の調査では、箱式石棺の床面構造として、小円礫とベンガラを混ぜ合わせた赤色の礫床下に、排水機能を有する下部施設を備えていた。

遺体は東に頭部、西に足元を配し、粘土床のレベルを測ると、残存する箇所では頭部(東側)から足元にかけて約3cm傾斜することが判明した。墓壙西側が削平されていたため、排水の経路を追うことはできなかったが、その構造は注目される。

(5) 出土遺物(図5)

今回の調査では、墳丘削平された土中より僅かに土師器片を採集したが、墳丘部より原位置を保つような遺物は出土していない。また、墓壙内(石棺外)に副葬品が配置されている可能性も考えられるが、現地は現状保存されているため詳細不明である。

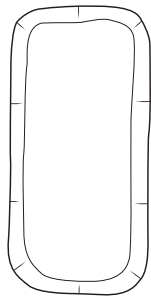
出土遺物は箱式石棺中より確認された人骨片および鉄製品である。人骨は遺存状態が悪く、頭骨と歯、上半身と足の一部が出土した。顔面にはベンガラと異なる鮮やかな「水銀朱」を、意図的に区別して塗布したものと思われる。また、歯は上顎16本、下顎16本の計32本が出土した。足の骨は中央部より西側で出土した。

また、副葬品である鉄製品は、頭部と東小口との20cm～30cmの範囲で出土した。細い棒状の製品が束になっており、縫い針状のものと考えられる。鉄針の一部には繊維痕跡が付着することから、本来は布もしくは袋状のものに包まれて副葬されていた可能性が想定される。

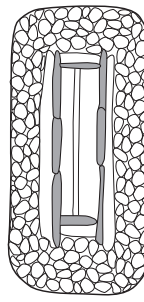
4 調査成果と課題

今回の調査では、開壘中の不時発見ながら、その後の確認調査により多くの情報を得ることができ

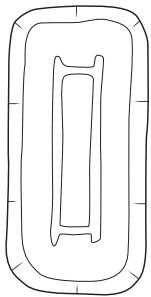
出土物整理



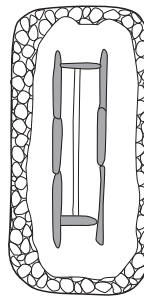
①墓墳を掘る。
(灰褐色土を切る)



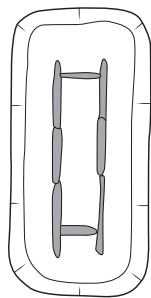
⑥小円礫の上に、さらに
10cm 大の亜円礫を敷く。
(10cm 程度の厚)



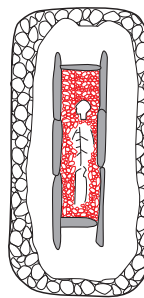
②側板・小口石を立てる
ための掘り込みを入れる。



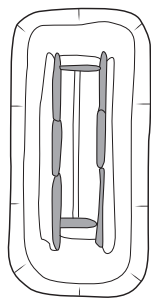
⑦大円礫上面に粘土を貼る。
(厚さ約 30 cm)



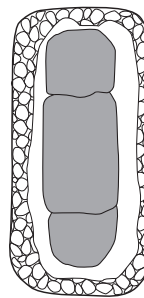
③側板・小口石を立てる。



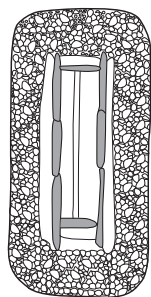
⑧さらに、その上に粘土を厚く
貼りつける。棺内部には円礫と
ベンガラを「つなぎ」を入れて
混ぜ合わせ粘土床の上に敷き広げ
(5~7cm厚) 遺体・遺物を置く。
(側板内にも塗る)



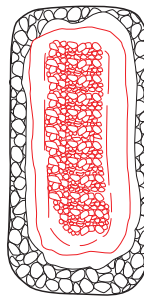
④側板の外側に粘土を貼り
つける。石棺内部にもあわ
せて床に粘土を貼る。粘土
の床面(棺内)に長軸中央
に溝(3cm程度)を掘りこむ。



⑨ベンガラと「つなぎ」
を合わせて蓋石内面に塗
り上に乗せる。
(側石・小口石の内面も塗る)



⑤棺外側に1~2cm大
の小さな円礫を敷きつ
める。(墓墳内15cm厚)



⑩蓋石を覆うようにベン
ガラを混ぜた粘土を貼り
つける。(亜円礫も混ぜる)

図4 石棺構築模式図

た。特に箱式石棺を埋葬主体に持つ古墳の調査については、調査当時の墳丘盛土の削平や蓋石の消滅・攪乱なども多く、各属性の複合的な検討は県内ではなされていないのが現状である。最後に、今回の調査成果からみえる成果と課題・展望について説明する。

(1) 古墳の築造工程と「小墳丘」

坂浪西1号墳の築造工程については、前述の記載のとおりであるが、箱式石棺を有する古墳の調査で、蓋石架設から粘土被覆、さらに墳丘盛土という一連の流れを追うことの出来る調査は県内では数少ない。本古墳は断面観察によりその具体像を窺い知ることの出来る貴重な事例である。

特に注目されるのは、箱式石棺を構築し、蓋石架設後の粘土被覆（ベンガラ・円礫混じり）の後、墳丘盛土・ii工程終了時に完成する「小墳丘」である。箱式石棺上部には平面楕円形に顔料塗布と円礫が露出する状況が復元されることから、この「小墳丘」の段階で墓上祭祀が執り行われた可能性も十分に考えられよう。今回の調査ではその痕跡（土器供献など）は確認されなかったが、墳丘盛土の工程確認とともに、今後の検討課題である。

(2) 箱式石棺における構築・構造上の諸問題

本古墳の箱式石棺については、①墓壙構築から石材組み合わせ、粘土被覆までの各工程において、多量の粘土（床面貼付用・石材支持用・被覆用）・多量の円礫（大・小）、そして多量の赤色顔料（ベンガラ）を使用、②複雑な構築工程、③石棺床面は粘土・小円礫（ベンガラ混じり）の2層構造、④床面粘土に排水溝を設ける、など、箱式石棺としては「異質」な印象である。

本古墳の事例を松山平野の箱式石棺と比較すると、被覆粘土や石棺床面の円礫敷き、赤色顔料（朱・ベンガラ）の塗布など、個別事象については確認できるものの、その全てを併せ持つ古墳は見当たらない。近隣の高月山古墳群でも、顔料塗布や粘土使用は認められるが、構造自体は本古墳とは異なる。

また、松山平野南部の事例では釈迦面山1号墳が注目される。調査当時の墳丘の遺存状態が良く、墳丘構築と石棺配置との関係についても若干触れられている。また、箱式石棺は棺内床面に礫を敷きベンガラを塗布、複数段階での粘土使用（石材支持用・被覆用）など、坂浪西1号墳の事例に近似する点が多いが、墓壙内への円礫の使い分けや床面粘土の排水機能等、相違もみられる。

仮説として、本古墳の箱式石棺を「側板（板石）→割石積上げ」と置き換え、竪穴式石槨の構築方法として検討すると、墓壙床面の円礫敷きや石室内部の粘土床や排水施設、蓋石を含めた石槨の被覆粘土など、共通する要素は多い。おそらく本古墳の箱式石棺は、竪穴式石槨の構築方法に強い影響を受けた「折衷型」のような構造であると現時点では捉えておく。

(3) 石棺内の出土遺物

箱式石棺内には人骨のほか、頭部の東側に針と考える鉄製品のみが出土した。足元部分にあたる箇所は開墾により削平され詳細不明だが、それ以前の盗掘等はないため、埋葬当時も棺内には鉄針のみであった可能性は高い。古墳時代の鉄針の類例及び検討が今後必要だが、被葬者の性格を考える上では貴重な資料として今後注目されよう。

今回の調査成果から本古墳の築造年代を検討すると、確実な時期決定は難しいが、箱式石棺の構造上の特徴や周辺の類例などを勘案し、年代幅を持って「古墳時代前期」と位置付けたい。今後は出土人骨や多量のベンガラ・朱の科学分析、鉄針の比較検討を通して、本古墳の被葬者像に迫りたい。本古墳の調査成果が、松山平野西部の海に面する丘陵尾根上に広く展開する箱式石棺を再検討する契機となれば幸いである。（山内）

出土物整理

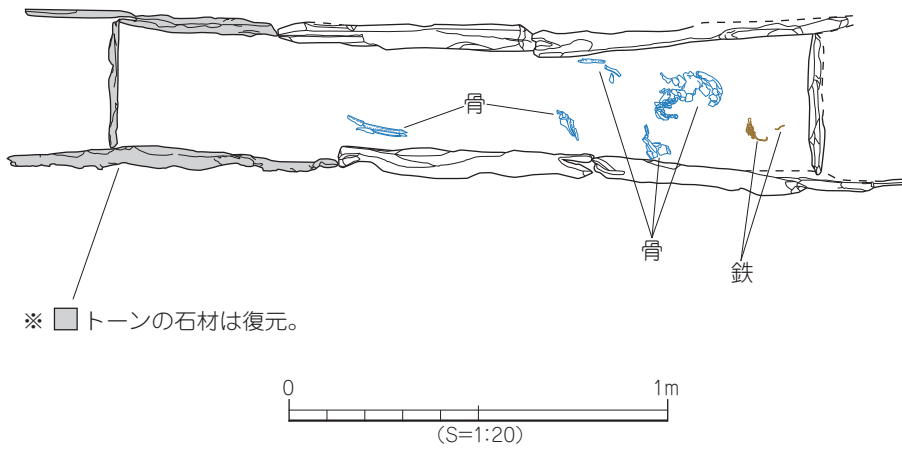
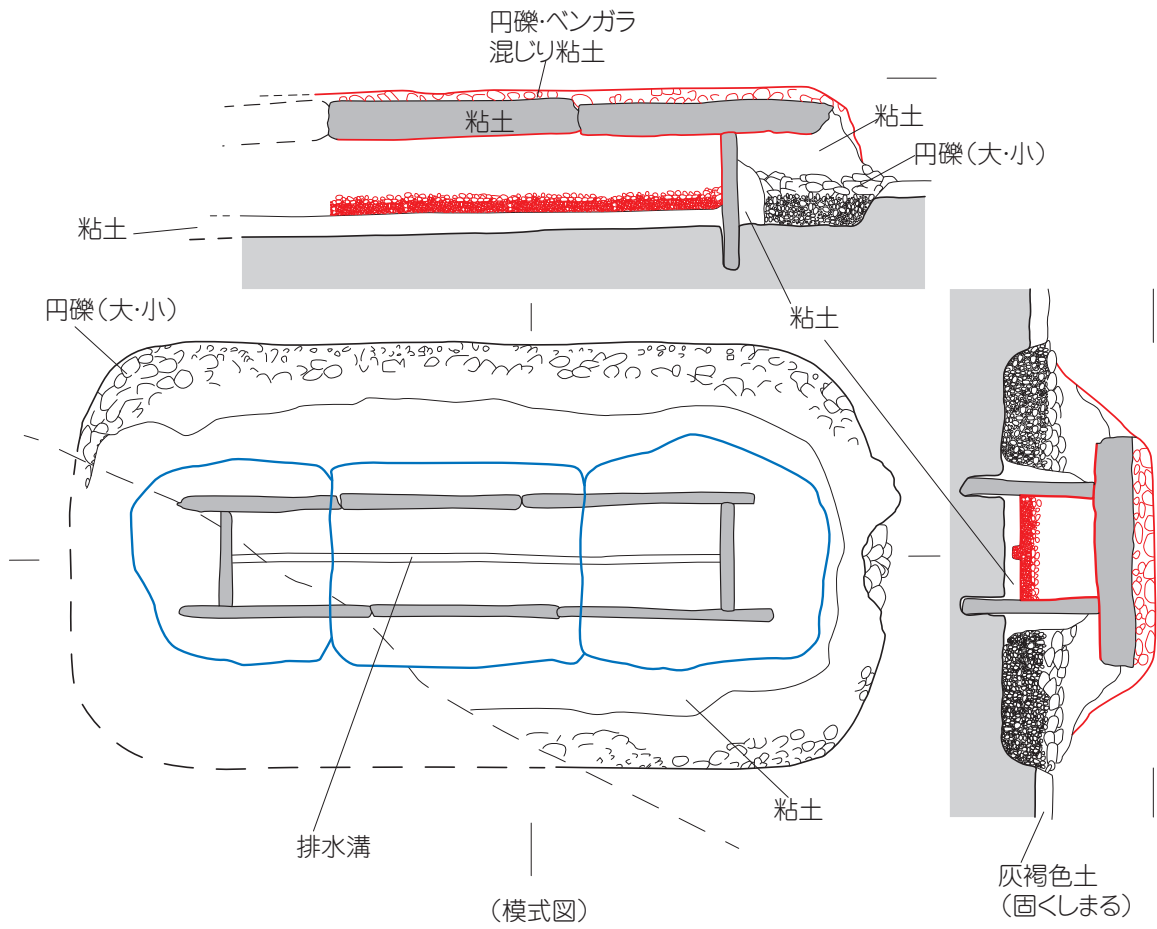


図5 石棺平断面の模式図・遺物出土状況図

坂浪西1号墳確認調査

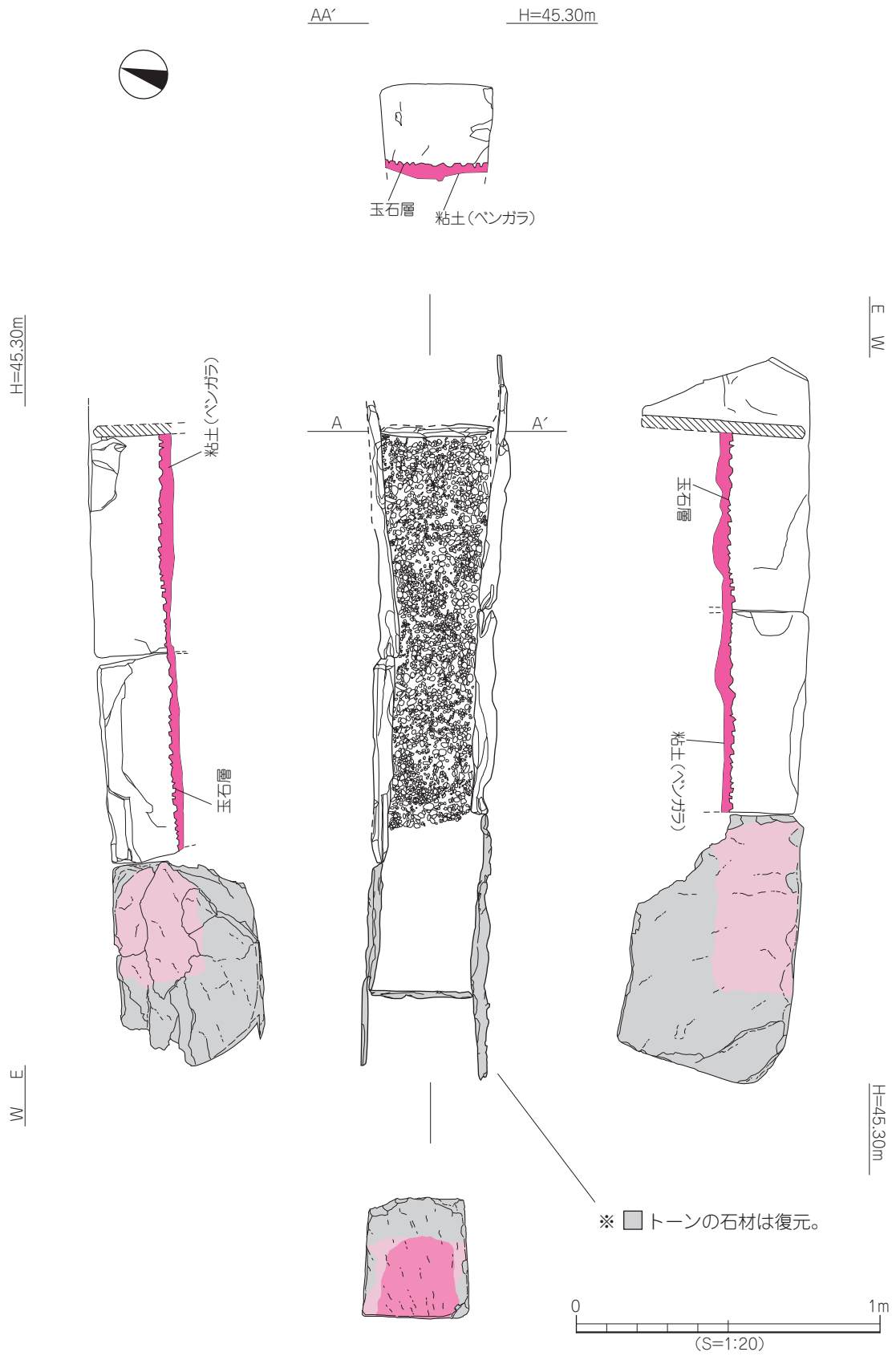


図6 石棺床面測量図・展開図

出土物整理

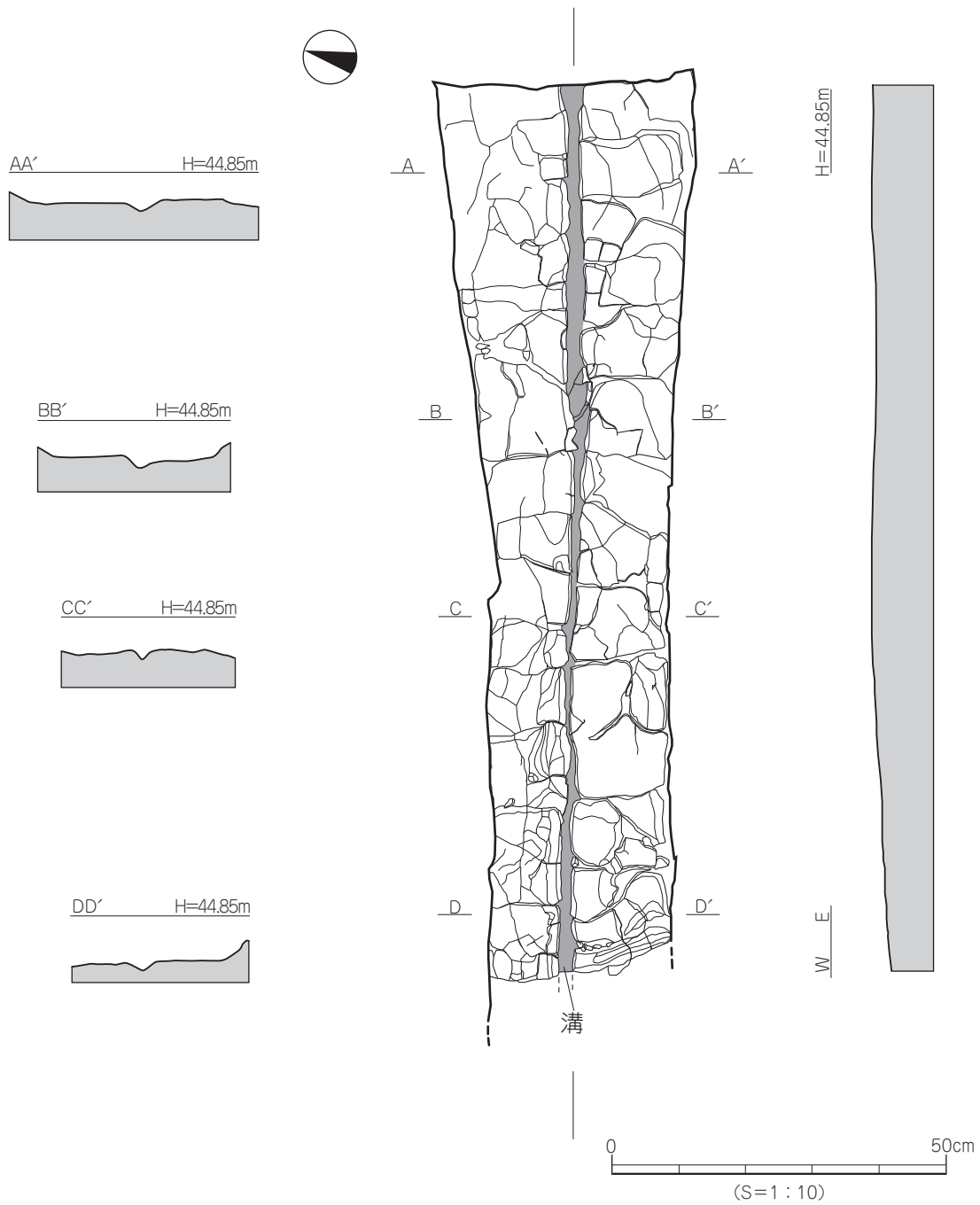


図7 石棺排水溝測量図

表1 坂浪西1号墳一覧表

墳形規模	主体部	石棺内規模		墓墳	墓墳規模			蓋石数	側板数	小口数	施設	出土遺物	時期	備考
		長さ×幅×高さ (m)			長さ×幅×深さ (m)									
円墳 約 15 m	箱式 石棺	(1.80 ~ 1.85) × 0.35 × 0.20		隅丸 方形	(3.00 ~ 3.20) × 1.60 ~ 1.70 × 0.15			3	6	2	排水溝	鉄針 ベンガラ 朱・人骨	古墳前期	

坂浪西1号墳確認調査



写真1
調査地遠景
(矢印が坂浪西1号墳)
(西より)



写真2
検出された箱式石棺
と墳丘断面(南より)

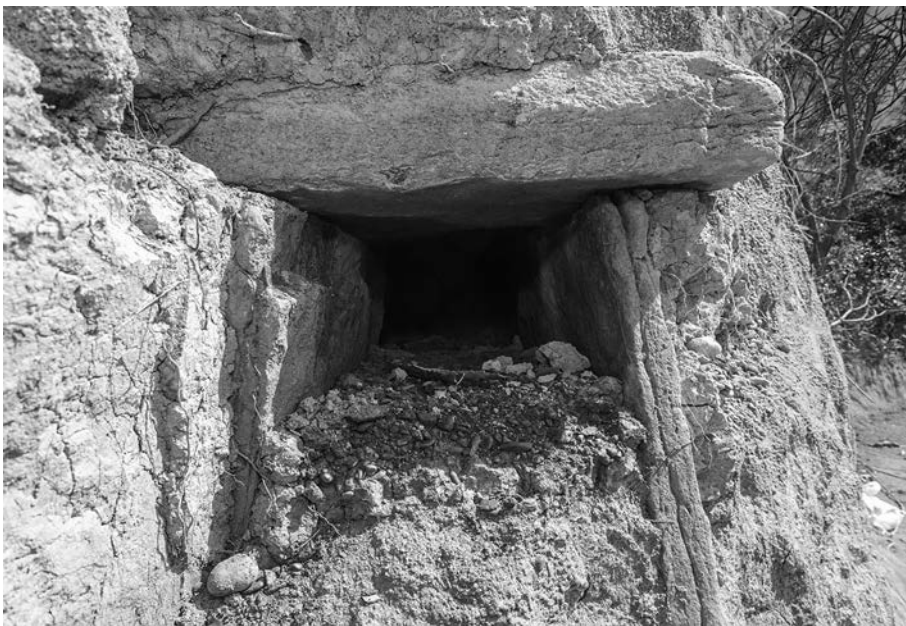


写真3
発見時の箱式石棺の
様子(小口側より)

出土物整理



写真 4
石棺蓋石上部の円礫・
ベンガラ混じり粘土
(南西より)

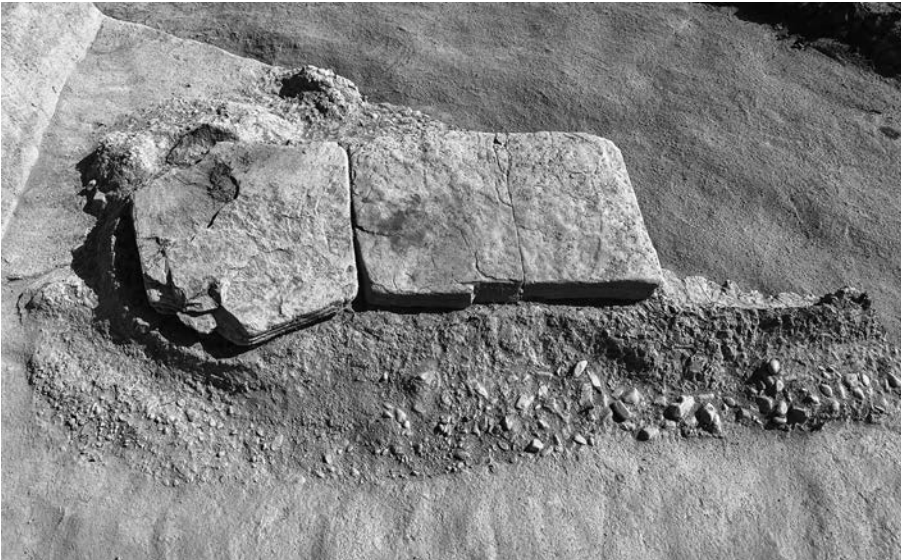


写真 5
墓壙及び石棺蓋石の
検出状況 (北より)



写真 6
人骨及び鉄針の出土
状況 (北西より)

坂浪西1号墳確認調査



写真7
足位より見た石棺床
面の排水溝検出状況
(西より)



写真8
裏込めの確認及び墓
壙ライン・円礫の確
認状況 (北西より)



写真9
石棺側板と小口石の
組み合わせ及び粘土
の被覆状況
(北東より)

出土物整理

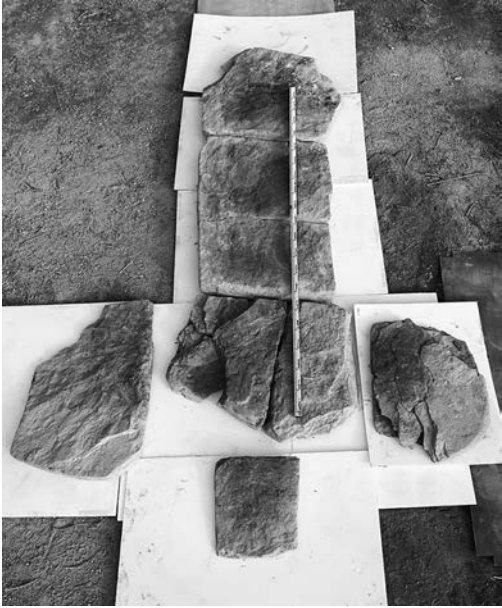


写真 10 確認した蓋石・側板・小口石

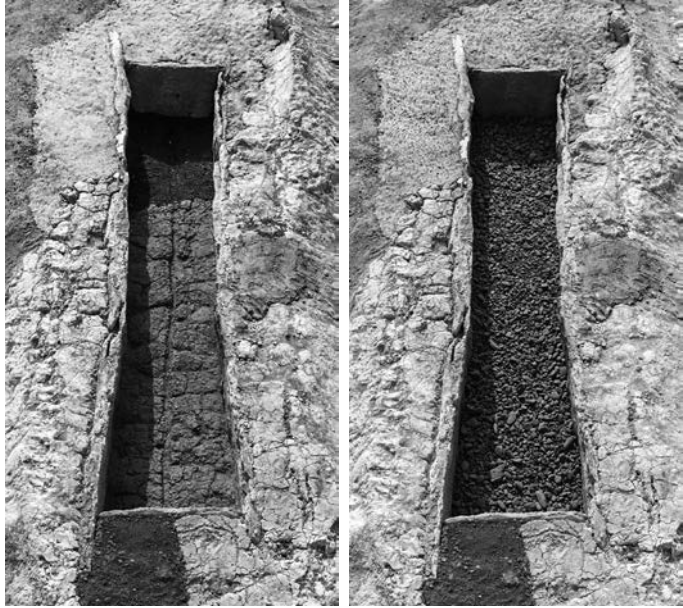


写真 11 復元した石棺床面排水溝（左）と礫床（右）（東より）



写真 12 蓋石を架設した復元（東より）



写真 13 復元した「小墳丘」と興居島（東より）

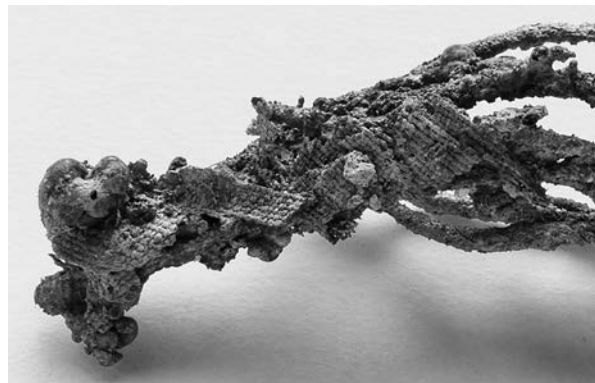


写真 14 石棺内出土の鉄針（左）と繊維の痕跡（右）

4. 出土物整理 来住廃寺露盤石

(1) はじめに

来住廃寺は、7世紀の終わりごろに建てられた寺院で、久米官衙遺跡群で最も新しい施設のひとつである。来住廃寺の正確な規模や伽藍の様子はまだわかっていないが、金堂基壇跡には礎石と露盤石が残っていた。

平成17年の金堂基壇跡の調査では、露盤石が寺の創建当初より基壇の上に配置されていないものであることが確認されている。

今回、露盤石が長年にわたり風雨にさらされ著しく劣化している状況が確認されたため、この劣化を防ぐため、現地にて石材強化のための薬剤注入などの保存処理を行い、松山市考古館へ運搬し館内で保管・展示を行うことになった。

露盤石の保存処理に伴い、2つに割れた石を動かした際、新たな知見を得ることができたため、以下にその成果を報告する。

(2) 委託概要 (写真1～9)

令和3年1月20日～令和3年4月30日にかけて、株式会社文化財保存活用研究所に来住廃寺露盤石保存処理等業務を委託した。

仮覆屋設置 : 保存処理作業環境を確保するため露盤石の移動と仮覆屋を設置する。

クリーニング処理 : 生物除去剤塗布後、養生期間を開け、ブラシ等を用いて露盤石に付着する塵埃や着生生物の除去を行う。

基質強化処理 : 石材に基質強化剤を含浸する。

展示台製作 : 屋内展示するため、展示台の製作を行う。

運搬・館内設置 : 松山市考古館にて展示するため、運搬と館内設置作業を行い完了する。

(3) 露盤石観察所見 (図1、写真10～16)

今回、露盤石の保存処理に伴い、2つに割れた石を移動させた際、今まで見えなかった割れ面及び下面を観察することができた。観察所見は以下の通り。

2つに割れた石を寄せて復元した平面形状は長方形で、幅1.62m、奥行1.55m、高さ0.69m、重さ3.1トンで、中心に直径43.5cm～45.5cmの円孔が確認できる。円孔の上部周辺には、幅79cm、高さ1.8cmの伏鉢座とも考えられる高まりを確認できる。表面左側面から上面を通り右側面にかけては、上端幅4cm～7cm、下端幅2cm～4.5cmの縄状のものを巻き付けるような溝が2条彫られているが、2条の溝は下面では確認できない。溝の底面には、幅2cmの鑿痕が1条ないし、2条確認できる。図示した割れ面の下端に打瘤状の膨らみが確認できることから、下面側から力が加わって2つに割れたものと推測される。下面中央には上端一辺90cm、下端一辺81cm、深さ12.4cmの隅丸形状の割り込みが確認できる。表面は著しく風化し、クラックが無数に確認できる状態であるため、溝の底面を除き露盤石製作時の工具痕は不明瞭である。

出土物整理

(4) おわりに

今回、露盤石を保存処理し、松山市考古館に保管したことによって、露盤石の保護を図ることができた。現在、露盤石は松山市考古館のロビーで、説明板を設置して周知・活用を図っている。

保存処理の際に確認した露盤石下面の削り込みは、来住廃寺では地面に接していた部分で、元の状態では見ることが出来なかった部分である。展示では、あえて2つに割れた石を1つに合わせず、今まで見ることが出来なかった削り込みや円孔が見えるようにしている。

今後、多くの人に見ていただき、類例や機能を解明する手掛かりが見つかることを期待したい。

(鶴久森)

註

(1) 名称については、形態的な特徴から露盤石の名称を使用しているが、機能的には塔の屋根の中心頂部にのせて建物を安定させる露盤とする説や、塔の心礎とする説など様々で意見は一致していない。

表1 露盤石観察表

器種	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	重さ (t)	中心円孔	削り込み			石材	備考
						直径 (cm)	幅 (cm)			
					上端		下端			
露盤石	1.62	1.55	0.69	3.1	43.5 ~ 45.5	90	81	12.4	縄状のものを巻き付けるような溝が2条	

来住廃寺露盤石



写真1 露盤石移動前



写真2 仮覆屋設置



写真3 生物除去剤噴霧作業風景



写真4 クリーニング作業状況①



写真5 クリーニング作業状況②



写真6 強化剤含侵作業状況



写真7 展示台製作状況



写真8 館内設置作業状況



写真 9 露盤石展示風景



写真 10 側面

来住廃寺露盤石



写真 11 伏鉢座



写真 14 上面の溝

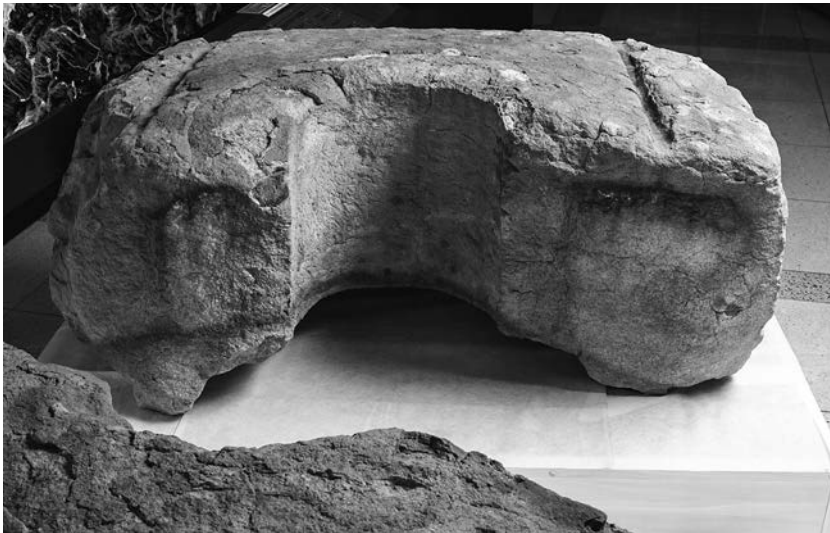


写真 12 下部の削り込み



写真 15 溝底面の鑿痕



写真 13 円孔内面



写真 16 割れ面の打留状の高なり

出土物整理

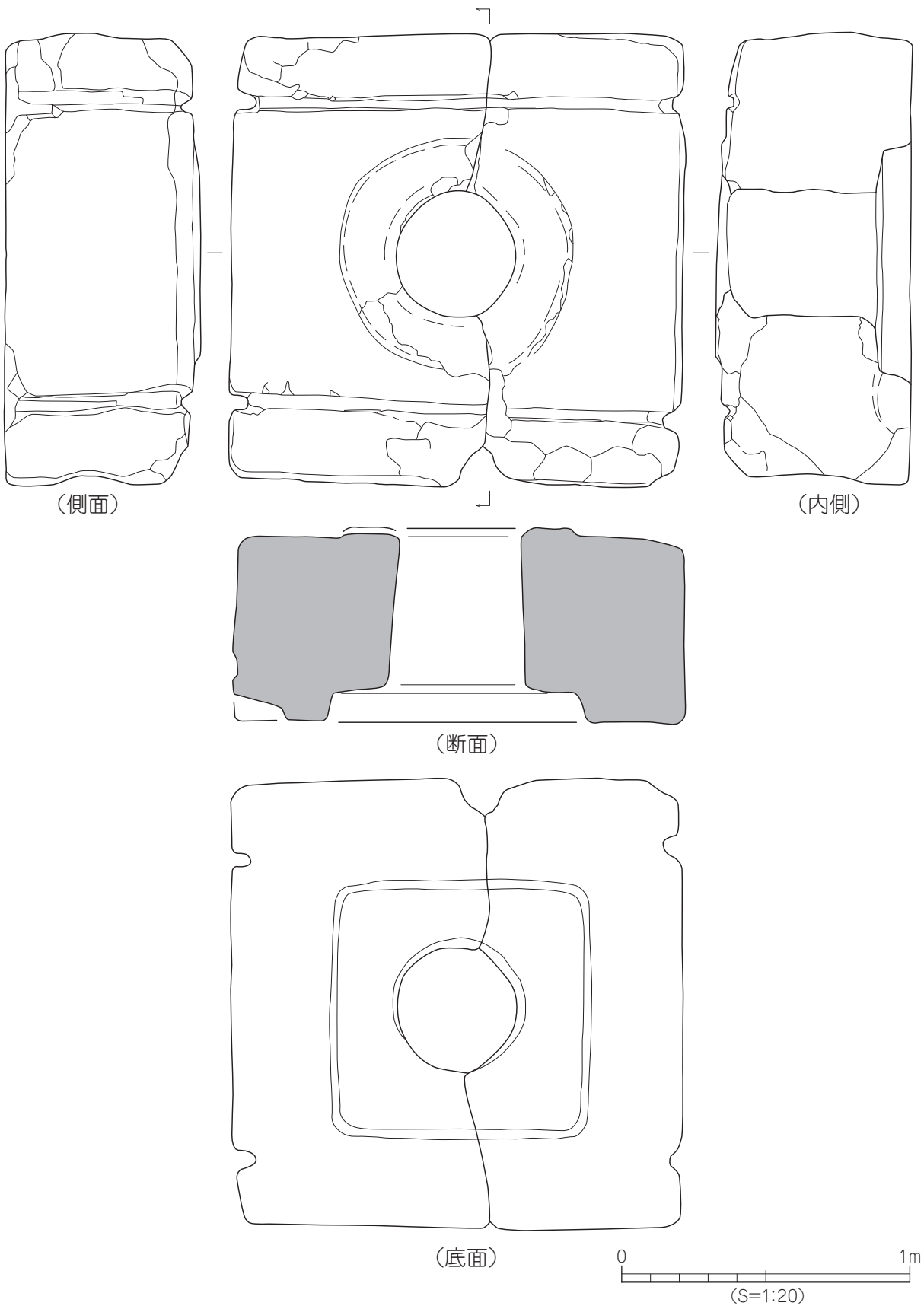


图 1 露盤石実測図

5. 出土物整理・寄贈品遺物（竹本定義コレクション）

—旧石器時代の遺物（未報告資料）—

(1) 遺物整理作業

竹本定義氏は、明治37年に久米村大字鷹子に生まれ、在野にあって大正から昭和時代の長期間にわたり、松山平野、特に久米地域で出土した考古資料を整理・分類・研究し、愛媛考古学界の礎を築かれた方である。採集された考古資料は土器、石器、青銅器など多岐にわたり、平成10年に松山市考古館が寄託を受け、平成13年に寄贈を受けている。

竹本定義コレクション中の旧石器時代の遺物については、昭和55年に十亀幸雄氏によって、ナイフ形石器等が報告されている（十亀1980）。今回報告する資料は、令和元年7月6日に松山市内の旧石器時代の遺物を調査中に発見した未報告資料である。

内訳は、使用痕のある剥片3点（図1-1～3）、スクレイパー2点（図1-4・5）、ナイフ形石器1点（図1-6）¹で、石材は全てサヌキトイド²で、縦長剥片を素材としたものである。

打面を残す1・4・5は、剥片剥離に際して打面調整や頭部調整は行われていない。4・5は礫打面³で、表面は黄褐色の虫食い状を呈している。

(2) 寄贈品遺物（図1・2）

1は右側縁の一部に微細剥離痕が認められる。背面の稜線と両側縁はほぼ平行しており、背面構成は腹面と同一方向の剥離である。末端部は折損している。石器が小型であり、生地が緻密であることから、節理の方向は判然としないが、平面で横方向の節理が確認できないことを考慮すると、剥片剥離の方向と同一方向であると推測される。

2は両側縁及び下端部の一部に微細剥離痕が認められる。背面構成は腹面と同一方向の縦長剥片を剥離したものが2条あり、その他、縦長剥片の剥離に先行する横方向の剥離が複数認められる。両端部は折損している。節理の方向は剥片剥離の方向と同一方向である。

3は両側縁に微細剥離痕が認められる。背面構成は腹面と同一方向の縦長剥片を剥離したものが多し。その他、腹面と逆方向のものや腹面と直交するものもある。両端部は折損している。節理の方向は剥片剥離の方向と同一方向である。

4は右側縁下半及び右側縁上半に刃部を作出している。背面構成は腹面と同一方向の縦長剥片を剥離したものが複数あり、その他、縦長剥片の剥離に先行する横方向の剥離が認められる。節理の方向は剥片剥離の方向と同一方向であり、左側面の平坦面は剥片剥離時に節理に沿って剥がれたものと考えられる。

5は左側縁に刃部を作出している。また、両側縁には微細剥離痕が認められる。背面の稜線と両側縁はほぼ平行しており、背面構成は腹面と同一方向の縦長剥片の剥離及び腹面と逆方向の縦長剥片の剥離が認められる。節理の方向は剥片剥離の方向と同一であり、剥片剥離時に節理に沿って縦割れが生じている。

6は素材の末端部側に急角度の連続的な剥離を施し、左側縁中央から上半にかけて鋭利な刃部を残している。左側縁下端の剥離は対向剥離になっている。器軸は両側縁に平行するが、左側面の稜（縁辺）はねじれている。背面構成は腹面と同一方向の縦長剥片を剥離したものと及び腹面と逆方向のものがある。腹面に直交する割れは剥片剥離時に節理に沿って割れたものと考えられる。先端部は折損

している。

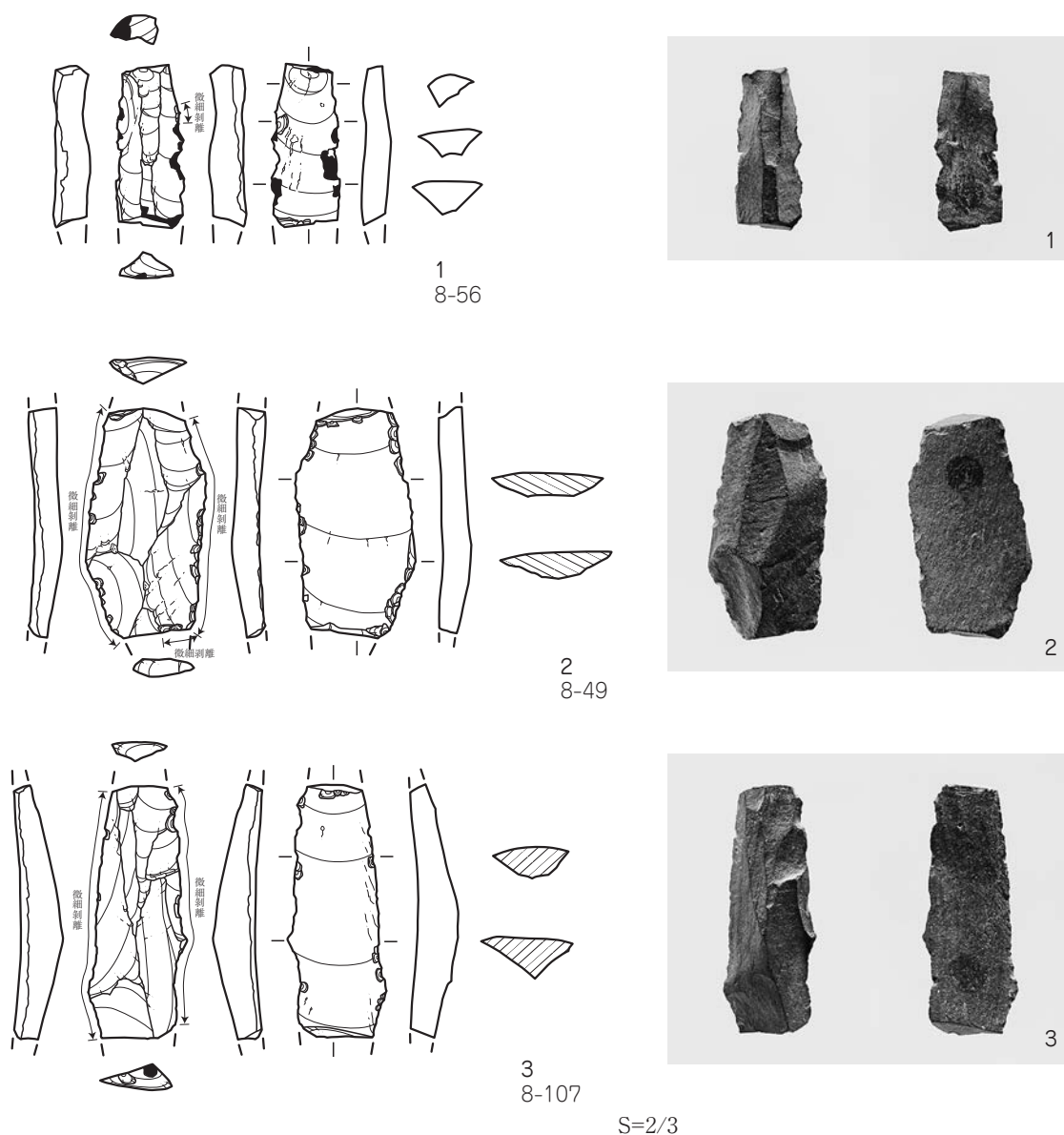
今回報告した遺物には採集地に係わる詳細な情報は見当たらなかった。そのため、竹本氏の活動範囲であった久米地域の表採遺物と推定しておきたい。(鶴久森)

【注釈】

- ※ 1 器種認定や石材については、愛媛県埋蔵文化財センター沖野実氏にご教授頂いた。
- ※ 2 県外産のサヌカイトと肉眼分別出来ない、生地が黒色緻密にして無斑晶質な安山岩を（公財）愛媛県埋蔵文化財センター 2018『高見 I 遺跡 2 次』埋蔵文化財発掘調査報告書第 196 集 102p に倣いサヌキトイドとした。
- ※ 3 打面形状の呼称及び剥離角の計測方法については竹岡俊樹 2003『旧石器時代の型式学』株式会社学生社 13p に倣った。

【参考文献】

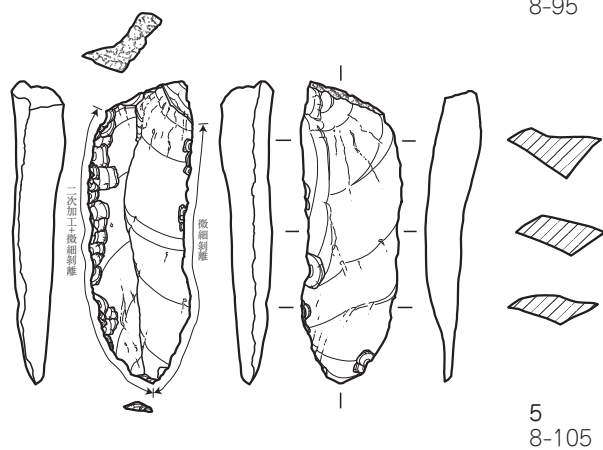
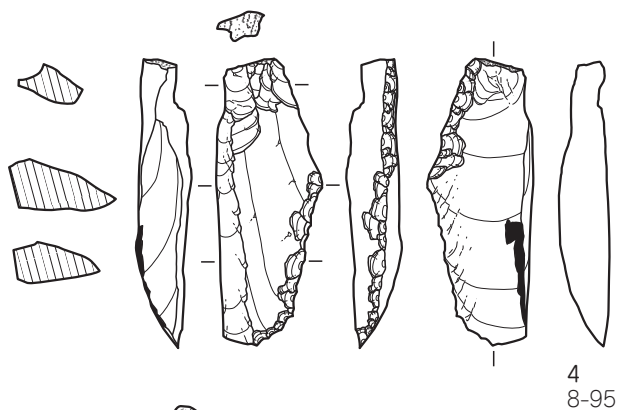
十亀幸雄 1980「道後平野における先土器時代の遺跡と遺物」『遺跡 18』



※横断面の斜線は節理の方向を示す

図 1 石器実測図①・石器写真

寄贈品遺物



6
8-53

S=2/3

※横断面の斜線は節理の方向を示す

図2 石器実測図②・石器写真

表1 竹本定義コレクション石器観察表

図版 番号	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	打 面			剥離角	石 材	備 考
							形状	幅 (cm)	厚さ (cm)			
1	8-58	使用痕のある剥片	(3.40)	1.40	0.80	(3.69)	平坦	1.00	0.65	108°	サヌキトイド	輝石微量
2	8-49	使用痕のある剥片	(4.80)	2.50	0.70	(8.92)	-	-	-	-	サヌキトイド	輝石微量
3	8-107	使用痕のある剥片	(5.00)	2.05	1.05	(8.32)	-	-	-	-	サヌキトイド	輝石微量
4	8-95	スクレイパー	5.70	2.10	1.10	12.33	礫	0.95	0.50	105°	サヌキトイド	輝石微量
5	8-105	スクレイパー	6.00	2.05	1.05	10.69	礫	1.70	0.95	108°	サヌキトイド	輝石微量 (使用痕あり)
6	8-53	ナイフ形石器	(4.65)	1.55	1.10	(5.14)	-	-	-	-	サヌキトイド	輝石微量

※計測値の括弧は残存値を示す

6. 保存処理

1. 保存処理の概要

保存処理室では主に木製品（PEG 含浸処理）、金属製品（減圧樹脂含浸）の保存処理を行っており、必要に応じて現場に出向き、遺構・遺物の取り上げ、土層の剥ぎ取り作業も行っている。

金属製品：保存処理は基本的に当センターで行うが、特殊な資料や X 線撮影は外部委託している。今年度は、委託していない。

木製・植物性遺物：保存処理は当センターで行うが、重要な資料や自然科学分析は外部委託している。今年度は委託していない。

動物遺骸体：洗浄や保護処理は当センターで行い、人骨の鑑定、獣種同定、保存処理は外部委託している。今年度は委託していない。

追加資料の掲載：平成 30 年度に松山市教育委員会文化財課より、NPO 法人人類学研究機構に鑑定を委託した、北斎院地内遺跡 2 次調査と上荇谷遺跡 3 次調査の人骨鑑定結果を、松山市文化財調査報告書第 43 集『斎院の遺跡』、第 104 集『上荇谷遺跡』の追加資料として P83～94 に掲載する。

2. 保存処理実務

(1) 木製品の保存処理

PEG（ポリエチレングリコール）含浸処理を行っている。この PEG 含浸法は、木製品中の水分を PEG に置き換える方法で、20%の水溶液に木製品を浸し、漸次、濃度を高めていき最終段階では 100%濃度の PEG 溶液をしみこませることになる。この処理は 1～15 年位を要する。令和 2 年度は一般収蔵庫に収納している木製品約 1700 点の再収納作業を行い、収蔵庫内の収納スペースの確保を行った。

(2) 金属製品の保存処理

前処理（脱水・脱塩・安定化処理）を行い、順次クリーニング（付着しているゴミ・土壌・サビ等の除去）、減圧樹脂含浸を行っている。また、処理の終了した遺物は、収納システム（三菱ガス科学・RP システム）により収納後、特別収蔵庫に保管している。以下、処理を行った点数を下表に記す。また、特別収蔵庫内に収納している金属製品の再収納作業を行い、約 320 箱（16 号天箱換算）の収納箱を 206 箱に収納し、収納スペースの確保も行った。

表 1 令和 2 年度 金属製品保存処理遺跡一覧

No	遺跡名	点数	作業工程	刊行物
564	祝谷大地ヶ田遺跡 4 次調査	100	クリーニング中	松山市埋蔵文化財調査年報 26
666	下難波腰折遺跡 2 次調査 (A 区)	28	クリーニング中	松山市埋蔵文化財調査年報 33
667	下難波腰折遺跡 2 次調査 (B 区)	2	クリーニング中	松山市埋蔵文化財調査年報 33
	庄 天神山	22	クリーニング中	(北条ふるさと館保管遺物)

(3) 動物遺骸体の保存処理

人骨、獣骨とも大部分のものが、土とともに出土した状態で搬入される。処理室ではこの余分な土を、竹べら・竹串・針先・ピンセット・刷毛などを用いて骨の取り出し、クリーニングを行っている。

保存処理

(4) 遺構・遺物の取り上げ作業

発掘調査で検出される遺物は腐食し、脆弱化しているためそのまま取り上げることが困難なものがある。また、ほとんどの調査の場合、発掘した遺構を現場で保存できない。このような場合に遺構・遺物の取り上げを行う。遺物が小さい場合は簡易な方法で行い（骨を土ごと取り上げること、年報11, 保存処理事業I-3参照）、遺物が大きく重量が増す場合は発泡ウレタン樹脂を用いて対象物全体を固めて取り上げる（年報X, 保存処理事業I-3参照）。この発泡ウレタン樹脂での梱包は従来使用していた石膏やコンクリートでの梱包より軽く仕上がりが、搬出、運搬の作業が軽減される。室内に搬入した後、時間をかけて精査することによって、発掘期間中に屋外で調査する以上の成果を期待できることも多い。

(5) 土層の剥ぎ取り転写

転写面にエポキシ系樹脂を塗り、樹脂の補強のためガーゼなどで裏打ちを行い、樹脂が硬化後転写面より剥ぎ取る。剥ぎ取った土層は、パネル仕上げにして展示、保管する。この土層の剥ぎ取りは、発掘後も室内で実物をあらゆる角度から精査できる効果的な記録保存法ともなる。

(6) 令和2年度調査出土遺物一覧（保存処理等必要遺物）

令和2年度に保存処理等必要遺物が出土した遺跡を表2に記す。（山本）

表2 令和2年度 調査出土金属・木製・動植物遺体一覧（以前の調査出土も含む）

No	遺跡名	種類	遺物内容	数量
260	若草遺跡3次調査	金属製品	釘飾り・斧・切羽・煙管・耳環・銭	11点
		動物遺骸体	骨	1点
636	道後今市遺跡17次調査	金属製品	釘・銭	5点
		動物遺骸体	歯・骨	5点
		木製遺物	炭	1点
640	別府遺跡3次調査	金属製品	釘・滓	11点
660	東垣生八反地遺跡6次調査	金属製品	破片爆弾・刀・斧・釘・滓	17点
		動物遺骸体	歯	1点
		木製遺物	炭	3点
662	松末栄松遺跡	金属製品	釘・銭	4点
663	姫原遺跡3次調査	金属製品	刀子・鏃	2点
666	下難波腰折遺跡2次調査A区 (腰折5号墳・6号墳)	金属製品	耳環・鏃・轡・刀子・鎌・U字刃先	27点
667	下難波腰折遺跡2次調査B区 (腰折7号墳)	金属製品	刀子	2点

【参考文献】1～5 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター『埋蔵文化財ニュース16・24・28・31』



写真1 祝谷7号墳出土土轡 処理前



写真4 祝谷7号墳出土土轡 処理中



写真2 祝谷7号墳出土土轡 処理前



写真5 祝谷7号墳出土土轡 処理中



写真3 祝谷7号墳出土土轡ほか 処理前



写真6 祝谷7号墳出土鬚 処理前



写真9 祝谷7号墳出土鐙吊り金具 処理中



写真7 祝谷7号墳出土鬚 処理前



写真10 祝谷7号墳出土鐙吊り金具 処理中



写真8 祝谷8号墳出土鐙吊り金具 処理前



写真11 祝谷8号墳出土鐙吊り金具 処理中

7. 北斎院地内遺跡^{きたさやじない}2次調査出土の人骨

松下真実*・松下孝幸**

【キーワード】：愛媛県、土坑墓、中世人骨、遊離歯、保存不良

はじめに

愛媛県松山市北斎院町 219-1 及び 221-1 に所在する北斎院地内遺跡の2次調査が、宅地開発に伴って1992（平成4）年におこなわれ、2基の土坑墓からそれぞれ人骨が出土した。本遺跡は1988（昭和63）年に1次調査がおこなわれており、15～16世紀に属する4基の土坑墓と2基の木棺墓からそれぞれ人骨が出土している。

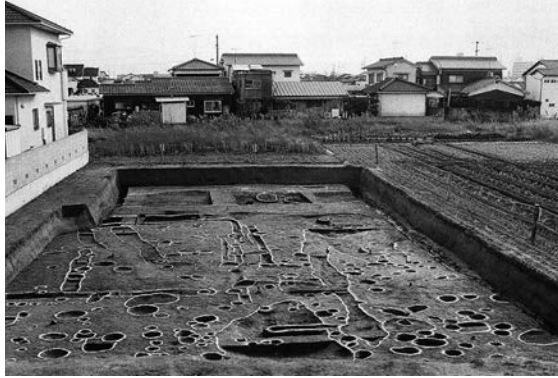


写真1 南側調査区遠景

愛媛県で筆者らが調査や鑑定依頼を受けた人骨のうち中世人骨は松山市の古照遺跡（松下、1998）と七反地遺跡（松下、2000）、余戸中ノ孝遺跡（松下真実・他、2019a）、余戸中ノ孝遺跡3次調査区（松下・他、2018）、東垣生八反地遺跡（松下真実・他、2019b）、南江戸上沖遺跡および八幡浜市のウラショウジ遺跡（松下、1999）から出土した中世人骨のみである。古照遺跡からは14世紀末頃の1体の壮年・女性骨が出土している。頭型や顔面の特徴は不明であるが、四肢骨が細い女性であった。平田七反地遺跡からは5体（男2、女3）の中世人骨が出土している。男性は長頭型を示し、歯槽性突顎がみられたが、女性の頭型と顔面の特徴は明らかにできなかった。男性の上腕骨と大腿骨は長く、男性の脛骨と女性の大腿骨、脛骨は短く、骨体は男女ともに細いものであった。また、男性は高身長であったが、女性は低身長であった。ウラショウジ遺跡からは16世紀に属する熟年・男性骨と年齢不明の女性骨がそれぞれ1体ずつ出土している。頭型や顔面の特徴は不明で、四肢骨は下肢骨しか残っていなかったが、男女とも下肢骨は細いものであった。余戸中ノ孝遺跡では、愛媛県では初例となる円形の溝を伴った土坑墓（1号墓）が出土しており、この1号墓から出土した男性人骨は頭蓋の保存状態が悪く、頭型や顔面の特徴は不明であるが、下顎骨や四肢骨が巨大で、身長が高く、被葬者はきわめて屈強な巨漢であったことが判明している。

本遺跡の2基の土坑墓から2体の人骨が検出されているが、保管されていたのは1基の墓から検出された遊離歯のみであった。その観察所見を記載しておきたい。

資料

報告書（松山市文化財調査報告書43集、1994）によると、本遺跡から土坑墓が2基検出され、2体の人骨が出土したと記載されている（表1）（表2）。人骨の保存状態は悪く、実際に保管されていたのは土坑墓1（1号土坑墓）から出土した歯牙のみである。供献遺物は頭部付近から土師質の坏1点、宋銭1点が出土している。実測図をみると2体とも下肢の状態は、膝を曲げた屈葬であるが、埋葬姿勢が仰臥であったのか、側臥であったのかは判然としない。側臥というのは左右の寛骨が重なっている状態であるが、実測図からその状況を読み取ることができない。報告書の記載によれば、人骨の遺存状態は著しく悪かったようで、保管されていたのは歯牙のみであったので性別・年齢を推定するこ

北斎院地内遺跡 2次調査出土の人骨

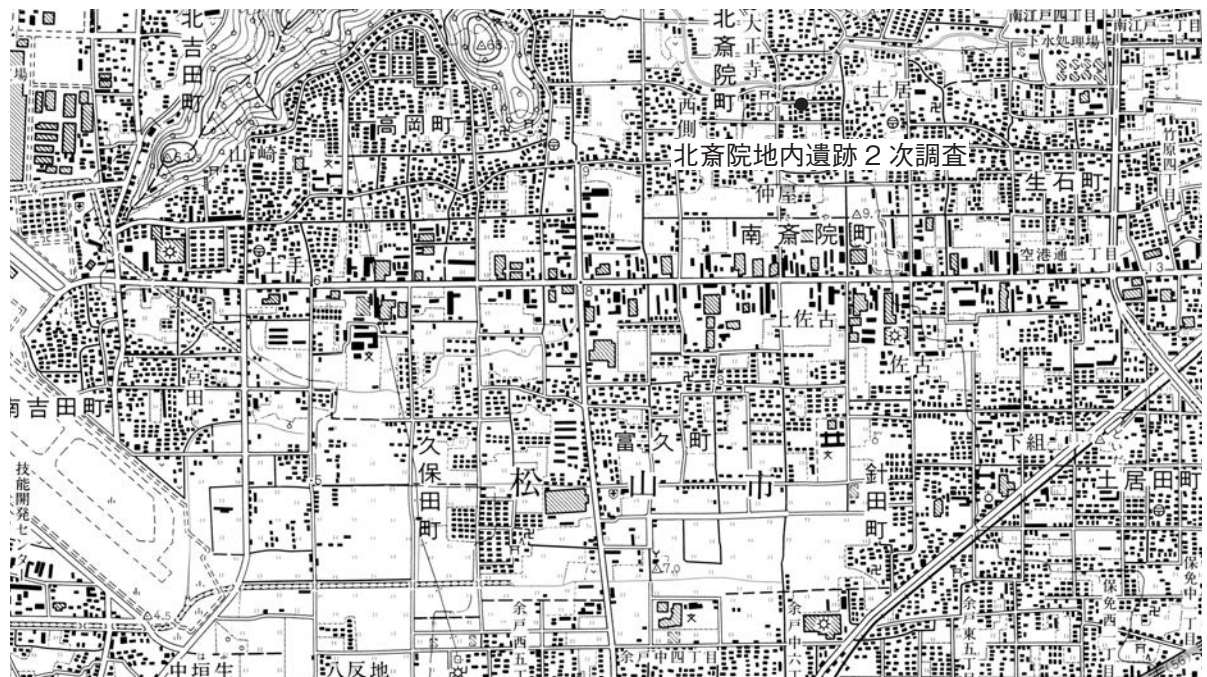
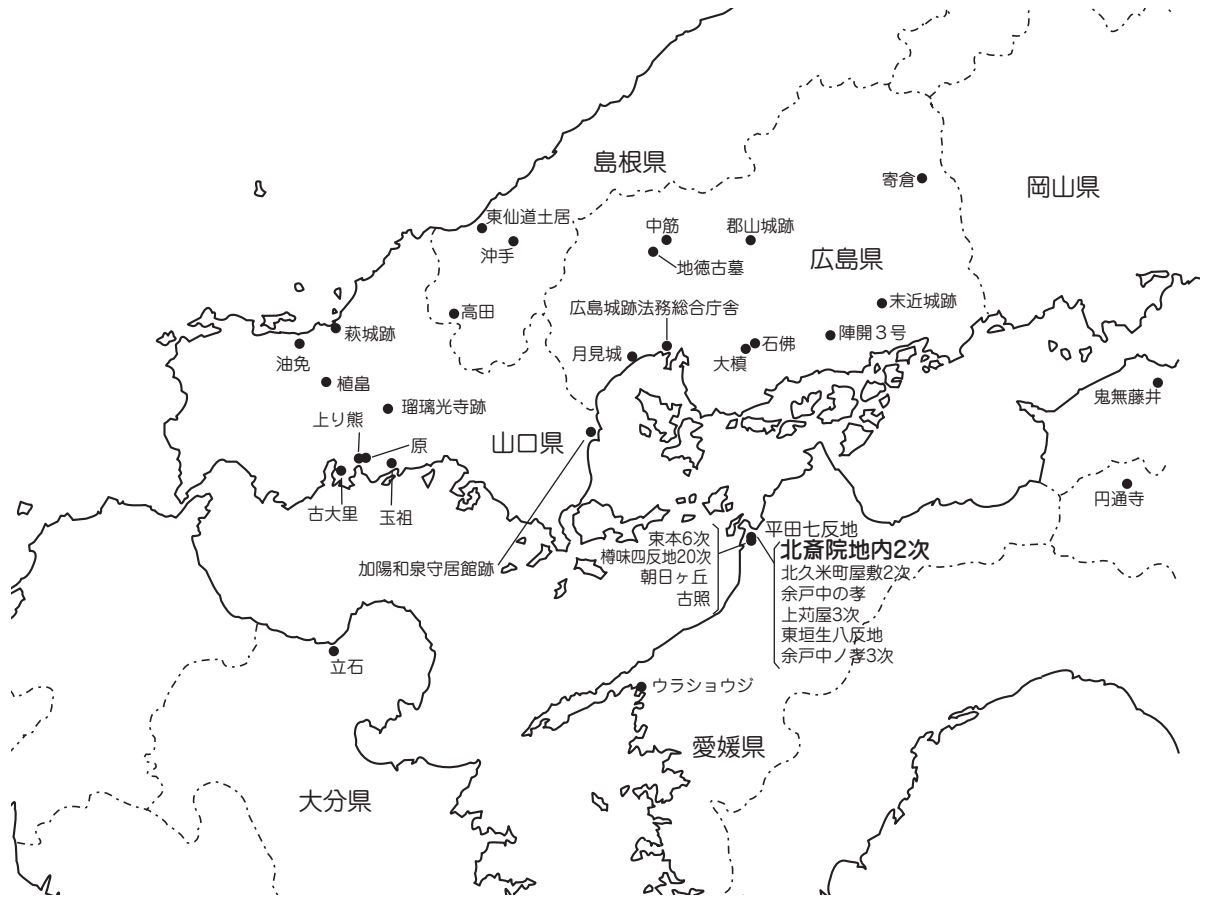


図1 遺跡の位置図 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the Kitasayajinai site, Matsuyama City, Ehime Prefecture)

保存処理

とができなかったが、参考までに表3に年齢区分を示した。なお、この2体の人骨は考古学的所見から15～16世紀の中世に属する人骨と推測されている。

表1 資料数 (Table 1. Number of materials)

成人			幼小児	合計
男性	女性	不明		
0	0	1	0	1

表2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備考 (埋葬姿勢、頭位)
土壙墓1	不明	不明	側臥屈葬か 北頭位 歯のみが残存
土壙墓2	不明	不明	仰臥屈葬 北頭位 人骨は残存していない。

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分		年 齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。

所 見

土壙墓1 出土人骨 (性別・年齢不明)

1. 歯

歯牙のみが残存していた。残存していた遊離歯を歯式で示すと次のとおりである。

$$\begin{array}{c} \diagup 7 \ 6 \ 5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1 \ | \ 1 \ 2 \ 3 \ 4 \ 5 \ 6 \ 7 \ \diagup \\ \diagdown \diagdown \ 6 \ 5 \ 4 \ 3 \ \diagup \ 1 \ | \ 1 \ 2 \ 3 \ 4 \ 5 \ 6 \ \diagdown \diagdown \end{array} \quad [\diagup : \text{不明 (破損)}, \text{番号は歯種}]$$

[1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小臼歯、5: 第二小臼歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯]

咬耗度は、大臼歯以外は Broca の1度 (咬耗がエナメル質のみ) であるが、上下両顎の大臼歯の咬耗は激しく Broca の2度 (咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ) ～3度 (咬耗が象牙質まで及ぶ) である。

性別・年齢は不明である。



写真 2 土壙墓 1 人骨出土状況

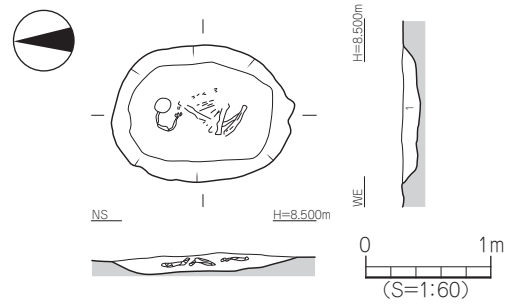


図 2 土壙墓 1 測量図

要 約

愛媛県松山市北斎院町に所在する北斎院地内遺跡の 2 次調査が、宅地開発に伴って 1992（平成 4）年におこなわれ、2 基の土坑墓からそれぞれ 1 体の人骨が出土した。保管されていたのは歯牙のみであったが、人類学的観察をおこない、以下の結果を得た。

1. 2 基の土坑墓から 2 体の人骨が検出されたが、いずれも遺存状態は悪く、土坑墓 1 から出土したの歯牙のみが保管されていた。成人の遊離歯であるが、性別・年齢は不明である。
2. 本人骨は、考古学所見から 15～16 世紀の中世に属する人骨と推測されている。
3. 本人骨の頭位は、2 体とも北側である。

＜参考文献＞

1. 松下真実・他、2018：愛媛県松山市余戸中の孝遺跡 3 次調査出土の中世人骨。余戸中の孝遺跡 3 次・6 次（一般国道 6 号線松山外環状道路空港線・一般県道久米垣生線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書）：315-324。
2. 松下真実・他、2019a：余戸中ノ孝出土の中世人骨。松山市埋蔵文化財調査年報 31（平成 30 年度）：63-81
3. 松下真実・他、2019b：東垣生八反地遺跡出土の中世人骨。松山市埋蔵文化財調査年報 31（平成 30 年度）：82-88
4. 松下孝幸、1998：愛媛県松山市古照遺跡出土の中世人骨。斎院・古照新松山空港道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告書（遺物編）：532-538。
5. 松下孝幸、1999：愛媛県八幡浜市ウラショウジ遺跡出土の中世人骨。愛媛県歴史博物館研究紀要第 4 号：96-123。
6. 松下孝幸、2000：愛媛県松山市七反地遺跡出土の中世人骨。道ヶ谷古墳・池の奥遺跡・平田七反地遺跡（一般国道 196 号松山北条バイパス埋蔵文化財調査報告書Ⅱ）（埋蔵文化財発掘調査報告書第 86 集）：391-422。
14. 松山市教育委員会、1994：斎院の遺跡（松山市文化財調査報告書 43 集）：37-66。

* Masami MATSUSHITA、** Takayuki MATSUSHITA

The Organization of Anthropological Research〔特定非営利活動法人・人類学研究機構〕



写真3 歯 (The teeth)

土壙墓1人骨 (性別・年齢不明)

(The teeth from the burial pit1 the 2th investigation of the Kitasayajinai site,
sex and age are unknown)

8. 上荊屋遺跡^{かみかりや}3次調査出土の中世人骨

松下真実*・松下孝幸**

〔キーワード〕：愛媛県、中世人骨、土坑墓、歯

はじめに

愛媛県松山市平井町 865 番地 1 外に所在する上荊屋遺跡の第 3 次の発掘調査が、市道小野 158 号線道路改良工事に伴い 2002（平成 14）年度におこなわれ、16 世紀代の土坑墓 3 基から人骨 3 体が出土した。この発掘調査によって出土した人骨（歯）が松山市埋蔵文化財センターに保管されていた。

愛媛県で筆者らが調査や鑑定依頼を受けた人骨のうち中世人骨は松山市の古照遺跡（松下、1998）、平田七反地遺跡（松下、2000）、余戸中ノ孝遺跡（松下真実・他、2019a）、余戸中ノ孝遺跡 3 次調査区（松下・他、2018）、東垣生八反地遺跡（松下真実・他、2019b）、南江戸上沖遺跡、北斎院地内遺跡 2 次調査区、東本遺跡 6 次調査区、北久米町屋敷遺跡 2 次調査区、樽味四反地遺跡 20 次調査 2 区および八幡浜市のウラショウジ遺跡（松下、1999）から出土した中世人骨のみである。

余戸中ノ孝遺跡からは愛媛県ではこれが初例である円形の周溝を伴う中世墓が出土した。周溝を伴った墓に副葬されていた土師器（碗）が吉備の所産であることや、出土した熟年男性骨の四肢骨は極めて太く、屈強な人物であったことは注目される。また、古照遺跡からは 14 世紀末頃の 1 体の壮年・女性骨が出土している。頭型や顔面の特徴は不明であるが、四肢骨が細い女性であった。ウラショウジ遺跡からは 16 世紀に属する熟年・男性骨と年齢不明の女性骨がそれぞれ 1 体出土している。頭型や顔面の特徴は不明で、四肢骨は下肢骨しか残っていなかったが、男女とも下肢骨は細かった。七反地遺跡からは 5 体（男 2、女 3）の中世人骨が出土している。男性は長頭型を示し、歯槽性突顎がみられたが、女性の頭型と顔面の特徴は明らかにできなかった。男性の上腕骨と大腿骨は長く、男性の脛骨と女性の大腿骨、脛骨は短く、骨体は男女ともに細いものであった。また、男性は高身長であったが、女性は低身長であった。

上荊屋遺跡の第 3 次調査で出土した遺骨として保管されていたのは遊離歯のみであったが、人類学的観察をおこない、歯種などを同定したので、その結果を報告しておきたい。

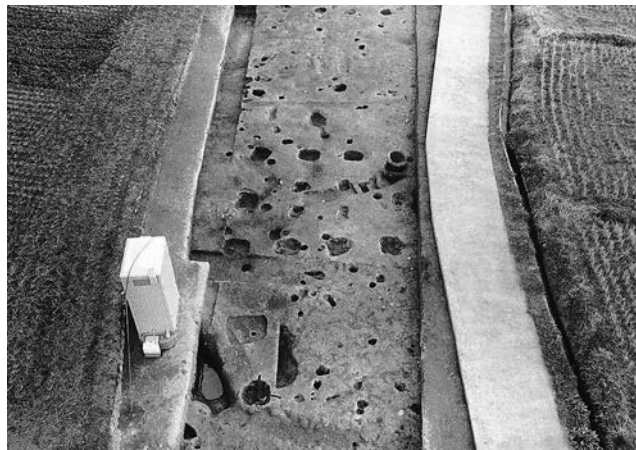


写真 1 5 区遠景



写真 2 6 区遠景

資 料

今回の調査で人骨（歯）が検出された土坑墓は 5 区の SK1、SK2、6 区の SK1 の 3 基の土坑墓から、合計 3 体の人骨（歯）が出土した。保管されていたのはすべて歯冠のみで、3 体とも性別・年齢は不明である（表 1、2）。報告書によると 3 基の土坑墓からはそれぞれ漆器の坏が出土している。また、6 区 SK1 からは棺材が検出されている。

歯の検出位置から SK1 の被葬者の頭位は北と推定されている。また、6 区 SK1 でも歯が南側から検出されているので、頭位は南だったと推測されている。

3 基の土坑墓とも漆器の坏や土師器などが副葬されており、これらの考古学的所見から、5 区の SK1 と SK2 出土の人骨は 16 世紀頃、6 区の SK1 出土人骨は 16 世紀中頃以降に所属する人骨と推測されている。3 体とも性別・年齢は不明であるが、歯の咬耗状態から 5 区の SK1 と 6 区 SK1 の被葬者は成人と思われる。5 区の SK2 の被葬者は、歯の咬耗が弱く、墓坑が小さいことから、未成人であった可能性もあるが、確証がないので、表 1 では成人として処理した。参考までに表 3 に年齢区分を示した。

表 1 資料数 (Table 1. Number of materials)

成 人			幼小児	合 計
男性	女性	不明		
0	0	3	0	3

表 2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	頭 位	備考
5 区 S K 1	不明	不明	北頭位	歯冠のみ
5 区 S K 2	不明	不明	不明	歯冠のみ
6 区 S K 1	不明	不明	南頭位	歯冠のみ

表 3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分		年 齢
未成人	乳児	1 歳未満
	幼児	1 歳～ 5 歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6 歳～ 15 歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16 歳～ 20 歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21 歳～ 39 歳 (40 歳未満)
	熟年	40 歳～ 59 歳 (60 歳未満)
	老年	60 歳以上

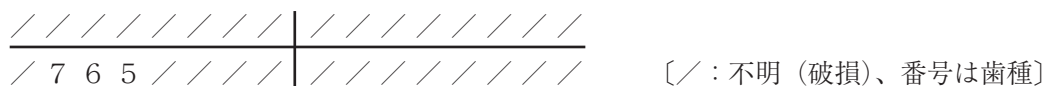
注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第 14 次発掘調査報告書 (1996) を参照されたい。

所 見

5区SK1 (性別・年齢不明)

1. 歯

遊離歯冠が残存していた。保存状態は悪く、ほとんどが破片状態であった。同定ができた残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。



(1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小白歯、5: 第二小白歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大白歯)

咬耗度は Broca の 2 度 (咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ) である。また、歯の咬合形式は不明である。

2. 性別・年齢

保存状態が悪く、性別や年齢推定が可能な部位が残存していないことから、性別・年齢とも不明である。

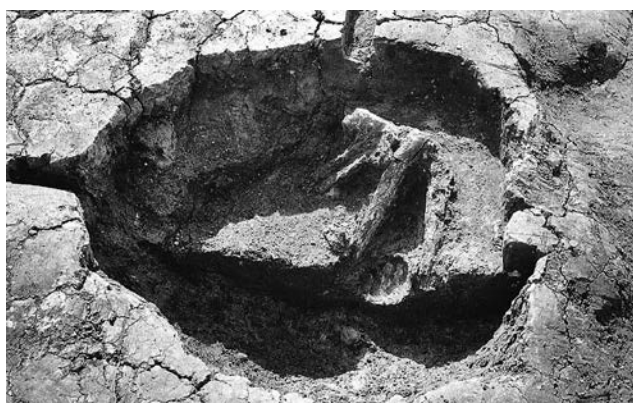
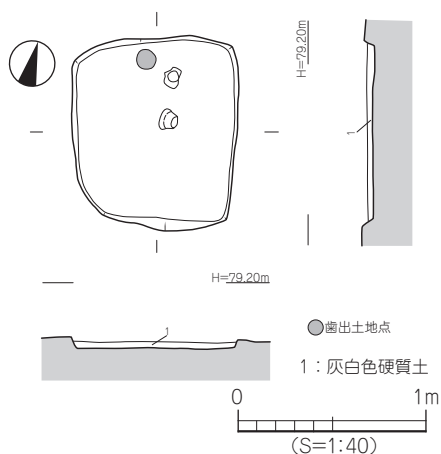


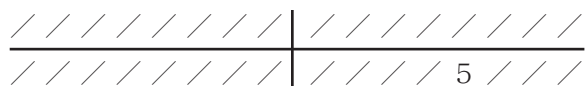
写真3 5区SK1 人骨出土状況

図2 5区SK1 測量図

5区SK2 (性別・年齢不明)

1. 歯

遊離歯冠が残存していた。保存状態は悪く、ほとんどが破片状態であった。同定ができた残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。



(1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小白歯、5: 第二小白歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大白歯) [/ : 不明 (破損)、番号は歯種]

咬耗度は Broca の 1 度 (咬耗がエナメル質のみ) である。また、歯の咬合形式は不明である。

2. 性別・年齢

保存状態が悪く、性別や年齢推定が可能な部位が残存していないので、性別・年齢とも不明である。

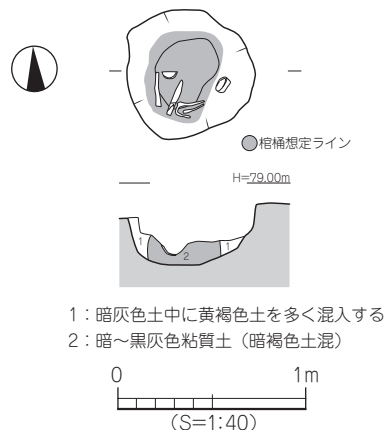


図3 5区SK2 測量図

《参考文献》

1. 松下真実・他、2018：愛媛県松山市余戸中ノ孝遺跡3次調査出土の中世人骨。余戸中ノ孝遺跡3次・6次（一般国道6号線松山外環状道路空港線・一般県道久米垣生線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書）：315-324.
2. 松下真実・他、2019a：余戸中ノ孝出土の中世人骨。松山市埋蔵文化財調査年報31（平成30年度）：63-81
3. 松下真実・他、2019b：東垣生八反地遺跡出土の中世人骨。松山市埋蔵文化財調査年報31（平成30年度）：82-88
4. 松下真実・他、愛媛県松山市北斎院地内遺跡2次調査地出土の人骨（投稿中）
5. 松下真実・他、愛媛県松山市東本遺跡6次調査地2区出土の中世人骨（投稿中）
6. 松下真実・他、愛媛県松山市北久米町屋敷遺跡2次調査地出土の中世人骨（投稿中）
7. 松下真実・他、愛媛県松山市樽味四反地遺跡20次調査2区出土の中世人骨（投稿中）
8. 松下孝幸、1998：愛媛県松山市古照遺跡出土の中世人骨。斎院・古照新松山空港道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告書（遺物編）：532-538.
9. 松下孝幸、1999：愛媛県八幡浜市ウラシヨウジ遺跡出土の中世人骨。愛媛県歴史博物館研究紀要第4号：96-123.
10. 松下孝幸、2000：愛媛県松山市七反地遺跡出土の中世人骨。道ヶ谷古墳・池の奥遺跡・平田七反地遺跡（一般国道196号松山北条バイパス埋蔵文化財調査報告書Ⅱ）（埋蔵文化財発掘調査報告書第86集）：391-422.
11. 松山市教育委員会、2005：上莉屋遺跡－第3次・4次調査－（松山市文化財調査報告書104集）

* Masami MATSUSHITA、** Takayuki MATSUSHITA

The Organization of Anthropological Research [N P O 法人・人類学研究機構]

上苧谷遺跡 3 次調査出土の人骨



写真 5 歯 (The teeth)

上苧屋 3 次 5 区 SK1 (性別・年齢不明)

(The skeleton SK1 from the 5area 3th investigation of the Kamikariya site,
sex and age are unknown)

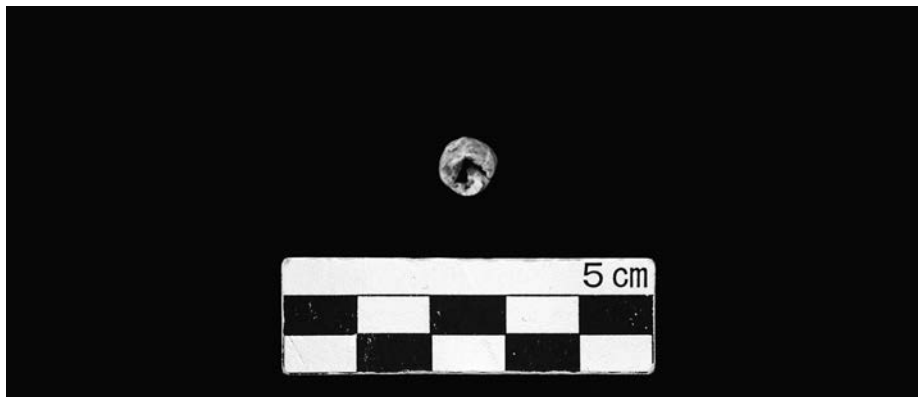


写真 6 歯 (The teeth)

上苧屋 3 次 5 区 SK2 (性別・年齢不明)

(The skeleton SK2 from the 5area 3th investigation of the Kamikariya site,
sex and age are unknown)



写真 7 歯 (The teeth)

上苧屋 3 次 6 区 SK1 (性別・年齢不明)

(The skeleton SK1 from the 6area 3th investigation of the Kamikariya site,
sex and age are unknown)

IV 令和2年度
普及啓発事業

令和2年度 普及啓発事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における遺跡の発掘調査を行うとともに、出土遺物や記録資料などを整理・保管している。発掘調査終了後は、随時現地説明会を開催するとともに発掘調査報告書を刊行することにより、広く一般に公開している。

また、附属の松山市考古館は、地域文化の発展・向上並びに調査研究活動の振興を図ることを目的として設置されたものであり、展示会・講演会・体験学習を開催するなど、市民一人ひとりの生涯学習を支援しながら、埋蔵文化財保護の普及啓発に努めている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、令和2年4月14日（火）～5月10日（日）までの期間、考古館は臨時休館とした。臨時休館後には、感染症の予防対策を徹底しながら下記の各種事業を実施した。

1. 展示活動
2. 教育普及活動
3. 収集・保管・育成活動
4. 出版活動
5. 資料貸出・資料調査

一方、埋蔵文化財センターに隣接して設置している文化財情報館は、松山市内で出土した文化財資料を整理・保管し、その活用を図るとともに市民に開かれた歴史学習の場としての充実を図り、埋蔵文化財センター及び考古館と一体となって埋蔵文化財保護施設として有機的な活用を図ることを目的としている。

1. 展示活動

常設展示室は、「海を媒介とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解明し、「見る」「聞く」「触れる」「考える」を展示の基本コンセプトとした立体的な展示を心がけている。展示品は、松山平野で出土した考古資料約600点である。

常設展示室に隣接した特別展示室では、5回の展示会・特別展を開催した。加えて、ロビー等でスポット展示を開催した。

(1) 四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展「四国の風土と暮らし-海と人々2-古墳時代～近世」 (表1-1、写真1・2)

この展示会は、四国内の埋蔵文化財センター5団体が合同で開催し、新たに平成31年度から4か年計画で実施している巡回展で、令和2年度は2年目にあたる。参加の5団体が発掘調査して出土した遺物を持ち寄り、今までに蓄積された情報を提供・交換することによって、観覧者の方々に埋蔵文化財の重要性を認識していただくというものである。今年度は、海や川にまつわる古墳時代から近世にかけての「四国の風土と暮らし」をテーマに展示し、松山市考古館からは船ヶ谷遺跡の自然流路出土の祭祀に使用された口縁部を打ち欠いた須恵器を展示・紹介した。当初、展示会の会期は4月25日～7月5日までの予定であったが、新型コロナ感染予防対策のため臨時閉館があり、6月6日から26日間の会期で、講演会・みどころ案内等は全て中止とした。展示会の観覧者数は780人であった。

(2) 愛媛県・松山市連携事業『古代いよ発掘まつり』

展示会「掘ったぞな松山2020」・「いにしへのえひめ」(表1-2、写真3～6)

この展示会は、前年度(平成31年度・令和元年度)松山市内や愛媛県内で発掘調査した遺跡とその出土品、作成した報告書の成果をいち早く市民に紹介することを通じて、松山・愛媛の古代史や埋

蔵文化財への興味・関心を深める機会の提供を目的に、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センターと当埋蔵文化財センターが連携して開催した。

松山市内の発掘調査成果の展示会「掘ったぞな松山 2020」(展示品約 200 点)と、愛媛県内の発掘調査成果の展示会「いにしへのえひめ」(展示品約 100 点)を開催した。期間中には発掘調査の詳しい説明をする報告会を計 2 回(掘ったぞな展 1 回・いにしへのえひめ 1 回)、専門研究者による講演会を計 1 回(いにしへのえひめ 1 回)実施した。展示会・講演会等の参加者は延べ 2,659 人(掘ったぞな展 1,368 人・いにしへのえひめ 1,291 人)であった。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止・予防のため、関連事業である歴史バスツアーや古代体験まつり等は中止した。

(3) 松山市埋蔵文化財センター(松山市考館)30周年記念特別展

「発掘 松山の至宝」(前期展・後期展)(表 1-3・4、写真 7~15)

特別展は、考古館最大の事業であり、県内外の貴重な遺物を借用し、系統的に紹介するものである。今年度は、松山市立埋蔵文化財センター・松山市考古館の開館 30 周年を記念して刊行した『発掘 松山の至宝』に掲載した出土品にスポットを当てた展示会を前期展・後期展の 2 回にわけて開催した。

前期展は、令和 2 年 11 月~令和 3 年 1 月に、旧石器時代から古墳時代までの松山を代表する遺跡の出土品と「食と器」をテーマにして、「食と器」では縄文時代から江戸時代までの煮炊きの器や食器を展示した。

後期展は、令和 3 年 2 月~3 月に、飛鳥時代から江戸時代までの松山を代表する遺跡の出土品と「マツリ」をテーマにして展示した。

また、前期展・後期展ともに 30 周年誌の挿図『松山の代表的な遺跡の復元イラスト』(イラストレーター早川和子氏作)を展示した。

期間中には展示会の詳しい解説を行う解説会を計 2 回(前期展 1 回・後期展 1 回)、専門研究者による講演会を計 2 回(前期展 1 回・後期展 1 回)実施した。展示会・講演会等の参加者は延べ 1,601 人(前期展 642 人・後期展 959 人)であった。

(4) 松山市考古館ロビー展(表 1-6~8、写真 16~18)

来館者に対して、より多くの情報を提供する目的から、「発掘情報展」(7 回)、「大連古代連展」(1 回)等を開催した。

2. 教育普及活動

教育普及活動としては、市民を対象に埋蔵文化財保護の普及啓発を目的とした講演会・体験学習・考古学講座などを開催し、職員の資質・技術向上を目的とした研修等に参加した。

(1) 講演会・展示解説会・考古学講座・演奏会(表 2、写真 4・6・9・10・13~15・17・18・22)

展示会に関連した展示解説会・報告会・講演会や箏コンサートを計 31 回開催し、延べ 778 人の参加者があった。

(2) わかりやすい考古学講座(表 2-5、写真 19)

当講座は、考古学や松山の歴史に興味と関心をもっていただくことを目的に実施している。各講座期間中に特別展示室で実施している展示会に関連する時代で、かつ 30 周年誌に紹介している出土品をテーマに掲げ、当センター職員・市教育委員会職員等がスライドで詳しく解説した。講座は 7 月以降、各月ごとに計 9 回実施し、延べ 257 人の参加があった。なお、今年度は、新型コロナウイルス感

染症拡大防止のため、前年度まで実施していた講話内容に関連する出土品の見学は中止した。

(3) まつやまの歴史を学ぼう (表2-7、写真20)

当講座は、市民の方々に広く松山の歴史や遺跡、文化等を通じて、地域の魅力を再発見する機会を提供することを目的に、外部講師4名と当埋蔵文化財センター職員1名が講話し、10月～11月に計5回実施し、延べ159人の参加があった。

(4) こども考古学教室 (表2-6、写真21)

当教室は、小学生に松山の歴史や考古学に興味や関心をもって頂くことを目的に、夏休み期間中に2回実施した(7月1回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)。考古館や埋蔵文化財センターの仕事についての解説や、展示およびバックヤードの案内、発掘体験を実施した。教室は7月～8月に計2回実施し、延べ45人の参加があった。

(5) 古代体験教室 (表3)

古代のもの作りを体験することで、古代人の苦労や知恵を学ぶことを目的とし、実施する体験教室である。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために当初予定していた古代体験教室の内容を変更(一部中止もあり)して実施した。また、7月からは、5種類の古代体験キット(石勾玉を作ろう、古代の技術を学ぼう～合金編～銅鐸・銅銭・銅鏡、ふんどう君ペンダント作り)を作成し、考古館受付で数量限定で販売した。

体験内容は、一部内容を変更しながらも「石勾玉を作ろう」、「古代の技術を学ぼう～合金編～」、「ふんどう君ペンダント作り」、「火おこし体験(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、考古館スタッフが先行し、それを見学)」を実施し、1,777人の参加があった。なお、「マリングラスづくり」、「染物体験」、「拓本下敷」、「ねんどで土器づくり」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

(6) 遺跡見学会 (表4、写真23)

わかりやすい考古学講座で1回実施し、延べ29人の参加があった。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、歴史バスツアーは中止した。

(7) 体験学習(団体来館) (表5)

26件、延べ966人の来館があり、常設展示・収蔵庫・復元室等の施設見学を行うとともに、火おこし体験(今年度はスタッフが火をおこし、参加者は見学)などにより、身近に感じながら歴史を学習した。毎年実施していた古代衣装の着付け体験は中止した。

(8) 発掘調査現地説明会 (表6)

遺跡の発掘現場見学を通して、市民が埋蔵文化財に対する興味や関心をより一層持ってもらうために開催するものである。松山城三之丸跡23次調査と下難波腰折遺跡2次調査の計2か所で現地説明会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止した。

(9) 職場体験 (表7)

中学校・高等学校・大学等で教育の一環として実施されている「職場体験学習」や「インターンシップ」を受託している。今年度は、職場体験では、中学校1校より生徒延べ11人、インターンシップでは1件1人を受け入れ、考古館の普及啓発業務等を体験した。

(10) 博物館学芸員実習 (表8)

平成6年度から博物館学芸員資格の取得を希望する学生に対し、学芸員実習を行っている。当年度は、8月に1人(神戸女子大学4年生)、9月に1人(広島大学4年生)を受け入れ、野外実習と屋内

実習を実施した。

(11) 出前考古学教室（表9）

「総合的な学習の時間」、「選択教科社会科の授業」、「文化祭」等の利用では、各学校からの要請を受けて、小・中・高等学校や公民館に赴き、出前考古学教室を実施している（25団体41回3,364人）。また、館外での主催事業も1回で29人の参加者があった。今年度の館外事業と出前教室は計26回実施し、参加者数は3,393人であった。

(12) 職員研修・会議（表10）

文化庁主催の「公開承認施設担当者会議」をはじめとして、全国埋蔵文化財法人連絡協議会等の研修会や会議に参加し、職員の資質ならびに技術の向上と業務の円滑な推進を図っている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、会議の中止が5件あり、オンラインでの実施が2件あった。職員研修等はオンラインを含み4回、参加者数は5人であった。

3. 収集・保管・育成活動

(1) 大連古代蓮の育成（表1-8、写真24）

平成10年4月に松山市農業指導センターから古代蓮の株を譲り受け、育成している。これは、平成8年1月に中国大連市の観光訪問団から寄贈された、大連市の遺跡から出土した千年前の蓮の種子である。今年度は6月1日～8月1日までの間に104輪開花した。

(2) 古代米の育成（表1-9）

考古館の玄関前で赤米を育成した。

4. 出版活動（表11・12）

考古館主催の展示会・講演会などを開催するに先立ち、多くの観覧者を募るために展示会5件でポスター・チラシ、展示会の解説書パンフレット2件を作成し、「キッズジョブまつやま2020」の実施に伴いオンライン版の製作に協力した。さらに、発掘調査の成果を公開する松山市埋蔵文化財調査年報1冊と発掘調査報告書2冊を刊行、朝日谷2号墳出土品の重要文化財指定を記念し『図録 朝日谷2号墳』1冊、松山市立埋蔵文化財センター・松山市考古館の開館30周年を記念して刊行した『発掘松山の至宝』を増刷した。

5. 資料貸出・資料調査（表13・14）

各博物館や教育委員会主催事業への出展や、研究者からの資料調査の要望などに応じ、貸出26件と資料調査12件の利用があった。

●考古館月別入館者数調（表15）

普及啓発事業

表1 展示会一覧

No.	展示会名	期 間	会 場	観客動員数 (人)	
1	四国地区埋蔵文化財センター 発掘へんろ展「四国の風土と暮らし -海と人々2 古墳時代～近世-」	(予定期間) 令和2年 4月25日(土)～7月5日(日) (実施期間) 令和2年 6月6日(土)～7月5日(日)	特別展示室	780	
2	愛媛県・松山市連携事業 「古代いよ発掘まつり」	① 「掘ったぞな松山2020」 令和2年 6月6日(土)～7月5日(日)	特別展示室	1,368	2,659
		② 「いにしへのえひめ」 9月4日(金)～10月25日(日)		1,291	
3	松山市埋蔵文化財センター (松山市考古館)30周年記念特別展 前期展「発掘 松山の至宝」	令和2年11月7日(金)～令和3年1月31日(日)	特別展示室 常設展示室一部	642	
4	松山市埋蔵文化財センター (松山市考古館)30周年記念特別展 後期展「発掘 松山の至宝」	令和2年 2月6日(土)～3月21日(日)	特別展示室 常設展示室一部	959	
5	ロビー展 「発掘情報展」	① 下難波腰折遺跡1次調査 令和2年 4月1日(水)～4月5日(日)	ロビー	181	10,742
		② 南高井一丁地遺跡 4月7日(火)～5月31日(日)		525	
		③ 道後今市遺跡17次調査 6月2日(火)～8月30日(日)		3,681	
		④ 東垣生八反地遺跡6次調査 9月1日(火)～11月1日(日)		2,137	
		⑤ 松末栄松遺跡 11月3日(火)～11月29日(日)		1,123	
		⑥ 大地ヶ田遺跡9次調査 12月2日(水)～12月27日(日)		606	
		⑦ 下難波腰折遺跡2次調査 令和3年 1月5日(火)～3月31日(水)		2,439	
6	「発掘 松山の至宝」(番外編)・ 早川和子 原画展	3月26日(金)～3月31日(水)	特別展示室	132	
7	「大連古代蓮の育成と展示会」	令和2年 4月1日(日)～令和3年 3月31日(火)	育成：考古館玄関前 展示会：ロビー展示	10,752	
8	「古代米の育成」	令和2年 5月27日(水)～10月16日(金)	考古館玄関前	—	
			合計	26,666	

表2 教育普及活動一覧 (考古学講座・講演会等)

(1)

No.	事業名	実施日	会 場	講師・報告者(敬称略)・内容	聴講者数 (人)		
1	第2回 四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展「四国の風土と暮らし-海と人々2-古墳時代～近世」	① 講演会 令和2年 4月25日(土)	講堂	今治村上海賊ミュージアム学芸員 田中謙	中止		
		② 講演会 5月16日(土)		瀬戸内考古学研究会 谷若倫郎			
		① みどころ案内 5月23日(土)	展示室	当センター		学芸員	
		② みどころ案内 5月24日(日)		当センター		学芸員	
		③ みどころ案内 6月13日(土)		当センター		学芸員	
		④ みどころ案内 6月14日(日)		当センター		学芸員	
		⑤ みどころ案内 6月20日(土)		当センター		小玉亜紀子	
		⑥ 報告会 8月29日(土)		講堂		当センター 梅木謙一 当センター 相原浩二	34
		2		愛媛県・松山市連携事業 「古代いよ発掘まつり」 「掘ったぞな松山2020」		報告会 9月12日(土)	講堂
報告会 10月10日(土)	愛媛県埋蔵文化財センター 池尻伸吾						
講演会 10月10日(土)	愛媛県埋蔵文化財センター 柴田圭子						
3	松山市立埋蔵文化財センター (松山市考古館)30周年記念特別展 前期展「発掘 松山の至宝」	展示解説会 12月26日(日)	講堂	当センター 小玉亜紀子	48		
		講演会 令和3年 1月23日(土)		愛媛県教育委員会係長・専門学芸員 兵頭勲			
4	松山市立埋蔵文化財センター (松山市考古館)30周年記念特別展 後期展「発掘 松山の至宝」	展示解説会 2月20日(土)	講堂	当センター 吉岡和哉	58		
		講演会 3月20日(土)		愛媛大学ミュージアム准教授 吉田宏			
5	わかりやすい考古学講座 『発掘 松山の遺跡X』	① 令和2年 7月4日(土)	講堂	松山市公園緑地課 西村直人	35		
		② 8月1日(土)		当センター 梅木謙一			
		③ 9月5日(土)		松山市教育委員会文化財課 山内英樹			

普及啓発事業

教育普及活動一覧（考古学講座・講演会等）

(2)

No.	事業名	実施日	会場	講師・報告者（敬称略）・内容	聴講者数 (人)		
5	わかりやすい考古学講座 『発掘 松山の遺跡X』	④ 10月3日(土)	講堂	当センター 河野史知	32		
		⑤ 11月14日(土)	見学会	当センター 小玉亜紀子	29		
		⑥ 12月12日(土)	講堂	当センター 相原浩二	20		
		⑦ 令和3年1月9日(土)		当センター 渡部浩史・小玉亜紀子	21		
		⑧ 2月6日(土)		松山市教育委員会文化財課 新原佑典	29		
		⑨ 3月6日(土)		当センター 相原浩二	30		
		令和2年7月19日(日)			中止		
		6	こども考古学教室 親子考古学教室	① 7月26日(日)	展示室・ 講堂・野外	当センター 加島次郎	23
				② 8月2日(日)	当センター 加島次郎	22	
① 10月18日(日)	講堂			奈良芸術短期大学教授 前園實知雄	36		
② 10月25日(日)		当センター 橋本雄一	33				
③ 11月8日(日)		松山市立子規記念博物館総館長 竹田美喜	34				
④ 11月22日(日)		愛媛県歴史文化博物館専門学芸員 今村賢司	29				
⑤ 11月29日(日)		愛媛県建築士会文化財まちづくり委員長 花岡直樹	27				
8	ロビー 箏コンサート	① 第149回 8月1日(土)	エントランス	高田琴音(大洲市立南中学校3年生)	17		
		② 第150回 9月5日(土)		山口真那(愛媛県立松山東高等学校2年生)	10		
		③ 第151回 10月25日(日)		鈴木智歩(私立済美高等学校2年生)	21		
		④ 第152回 11月22日(日)		山口真那(愛媛県立松山東高等学校2年生)	20		
		⑤ 第153回 12月26日(土)		鈴木智歩(私立済美高等学校2年生)	11		
		⑥ 第154回 令和3年1月9日(土)		山口真那(愛媛県立松山東高等学校2年生)	10		
		⑦ 第155回 2月6日(土)		鈴木智歩(私立済美高等学校2年生)	21		
		⑧ 第156回 3月6日(土)		佐川雅貴(正派邦楽会 大師範)	11		
合計 31回					778		

表3 教育普及活動一覧（古代体験教室）

(1)

No.	事業名	日時	会場・団体名	参加者数 (人)			
1	石勾玉をつくろう	個人	9:00～17:00 受付で販売	① 令和2年 7月(10件)	21		
				② 8月(18件)	25		
				③ 9月(8件)	15		
				④ 10月(3件)	3		
				⑤ 11月(1件)	1		
				⑥ 12月(1件)	1		
				⑦ 令和3年 1月(2件)	2		
				⑧ 2月(6件)	7		
				⑨ 3月(1件)	1		
		団体	① 令和2年 8月8日(土)	10:00～16:00	考古館講堂	33	
			② 8月18日(火)	10:00～11:30	エンゼル学園	34	
			③ 10月7日(水)	9:30～15:30	新田青雲中等教育学校	49	
			④ 令和3年 3月4日(木)	9:00～12:00	松山市立伊台小学校	64	
		出前	団体	① 令和2年 6月24日(水)	10:30～12:00	松山市立小野小学校	138
				② 8月5日(水)	13:00～14:30	東雲第2児童クラブ	24
				③ 8月18日(火)	10:00～12:00	しおかぜクラブ	15
				④ 10月3日(土)	9:40～11:40	松山市立城西中学校	21
⑤ 11月1日(日)	12:55～14:40			松山市立北条南中学校	24		
⑥ 11月14日(土)	10:00～12:00			愛媛県総合教育センター	14		
⑦ 令和3年 1月20日(水)	15:05～15:50			松山市立みどり小学校 (歴史クラブ)	17		
2	マリングラスづくり			中止			
3	古代の技術を学ぼう ～合金編・銅鑄～	個人	9:00～17:00 受付で販売	① 令和2年 7月(10件)	10		
				② 8月(6件)	6		
				③ 9月(4件)	4		
				④ 10月(4件)	4		
				⑤ 11月(2件)	2		
				⑥ 12月(1件)	1		
				⑦ 令和3年 1月(0件)	0		
				⑧ 2月(0件)	0		
				⑨ 3月(2件)	2		
	来館	個人	① 令和2年 7月(6件)	9:00～17:00	受付で販売	6	
			② 8月(7件)			7	
			③ 9月(4件)			4	
			④ 10月(3件)			3	

普及啓発事業

教育普及活動一覧（古代体験教室）

(2)

No.	事業名		日 時		会場・団体名	参加者数 (人)				
3	古代の技術を学ぼう ～合金編・銅鏡～	来館	個人	⑤	11月(0件)		0	6		
				⑥	12月(3件)		3			
				⑦	令和3年 1月(0件)		0			
				⑧	2月(2件)		2			
				⑨	3月(1件)		1			
			団体	令和2年 9月5日(土)	13:00～16:00	愛媛大学ジュニアドクター育成塾	39	39		
	古代の技術を学ぼう ～合金編・銅銭～	来館	個人	①	令和2年 7月(9件)		11	34		
				②	8月(7件)		7			
				③	9月(3件)		4			
				④	10月(1件)		1			
				⑤	11月(1件)		1			
				⑥	12月(3件)		5			
				⑦	令和3年 1月(1件)		2			
				⑧	2月(3件)		3			
				⑨	3月(0件)		0			
	出前	団体	2月28日(日)	10:00～15:30	愛媛県生涯学習センター 「ふれあいフェスタ」	100	100			
4	ふんどう君 ペンダント作り	来館	個人	①	令和2年 4月(0件)	9:00～17:00	受付で販売	0	39	
				②	5月(0件)			0		
				③	6月(0件)			0		
				④	7月(3件)			3		
				⑤	8月(9件)			11		
				⑥	9月(3件)			3		
				⑦	10月(3件)			4		
				⑧	11月(1件)			2		
				⑨	12月(2件)			4		
				⑩	令和3年 1月(4件)			6		
				⑪	2月(4件)			4		
				⑫	3月(2件)			2		
			出前	団体	①	令和2年 8月18日(火)	10:00～11:30	エンゼル学園	50	136
		②			令和3年 2月25日(木)	10:00～11:30	松山市立潮見小学校	86		
		①			令和2年 8月18日(火)	10:00～12:00	しおかぜクラブ	12	12	
5	染物体験							中止		
6	ねんどで土器作り							中止		
7	拓本下敷							中止		
8	火おこし体験 (見学のみ含む)	来館	個人	①				中止		
				①	令和2年 9月2日(水)	9:00～12:00	松山市立味酒小学校	68	707	
				②	9月3日(木)	9:00～12:00		105		
				③	9月5日(土)	13:00～16:00	愛媛大学ジュニアドクター育成塾	51		
				④	10月7日(水)	9:30～15:30	新田青雲中等教育学校	53		
				⑤	令和3年 2月25日(木)	10:00～12:00	松山市立潮見小学校	91		
				⑥	2月25日(木)	12:30～14:30	砥部町立砥部小学校	46		
				⑦	3月3日(水)	10:00～12:00	松山市立余土小学校	146		
				⑧	3月3日(水)	13:00～14:30	松山市立双葉小学校	80		
		⑨	3月4日(木)	9:00～11:30	松山市立伊台小学校	67				
		出前	団体	①	令和2年 7月2日(木)	9:05～11:40	松山市立堀江小学校	104	146	
				②	9月11日(金)	9:15～10:00	愛媛県立鱒学校	9		
				③	10月21日(水)	15:05～15:50	松山市立みどり小学校	20		
				④	11月18日(水)	9:00～11:00	素鷲公民館(素鷲小学校)	13		
					総合計		1,777			

表4 教育普及活動一覧（遺跡見学会）

No.	事業名	日 時		内 容	参加者数 (人)
1	わかりやすい考古学講座 『発掘松山の遺跡X』⑤ 現地説明会	令和2年 11月14日(土)	10:00～11:30	松山城三之丸跡 23次調査	29
2	わかりやすい考古学講座 『発掘松山の遺跡X』⑥ 現地説明会	12月12日(土)	10:00～11:30	下難波腰折遺跡 2次調査 (考古館講堂で実施・講座に変更)	(20)
				合計	29

普及啓発事業

表5 教育普及活動一覧（体験学習・主催事業来館・団体来館）

(1)

No.	学校名・団体名	学 年	実施日	内 容	参加者数 (人)
1	発掘へんろ展「四国の風土と暮らしー海と人々2古墳時代～近世ー」講演会①	—	令和2年 4月25日(土)	「よみがえる村上水軍の城」	中止
2	GW古代体験イベント「石勾玉を作ろう」	—	4月29日(水)	石勾玉作り	
3	GW古代体験イベント「石勾玉を作ろう」	—	5月1日(金)	石勾玉作り	
4	GW古代体験イベント「石勾玉を作ろう」	—	5月2日(土)	石勾玉作り	
5	GW古代体験イベント「石勾玉を作ろう」	—	5月3日(日)	石勾玉作り	
6	GW古代体験イベント「石勾玉を作ろう」	—	5月4日(月)	石勾玉作り	
7	GW古代体験イベント「石勾玉を作ろう」	—	5月5日(火)	石勾玉作り	
8	GW古代体験イベント「石勾玉を作ろう」	—	5月6日(水)	石勾玉作り	
9	発掘へんろ展「四国の風土と暮らしー海と人々2古墳時代～近世ー」講演会②	—	5月16日(土)	「有史の瀬戸内を行き交うヒト・モノ・コト」	
10	発掘へんろ展「四国の風土と暮らしー海と人々2古墳時代～近世ー」みどころ案内①②	—	5月23日(土)	みどころ案内①②	
11	発掘へんろ展「四国の風土と暮らしー海と人々2古墳時代～近世ー」みどころ案内③④	—	5月24日(日)	みどころ案内③④	
12	発掘へんろ展「四国の風土と暮らしー海と人々2古墳時代～近世ー」みどころ案内⑤⑥	—	6月13日(土)	みどころ案内⑤⑥	
13	発掘へんろ展「四国の風土と暮らしー海と人々2古墳時代～近世ー」みどころ案内⑦⑧	—	6月14日(日)	みどころ案内⑦⑧	
14	発掘へんろ展「四国の風土と暮らしー海と人々2古墳時代～近世ー」展示解説会	—	6月20日(土)	展示解説会	
15	わかりやすい考古学講座X①	—	7月4日(土)	「江戸の暮らし」	35
16	こども考古学教室①	—	7月19日(日)	館内案内・発掘体験・合金銅鏡	中止
17	こども考古学教室②	—	7月26日(日)	館内案内・発掘体験・合金銅鏡(10人)	23
18	わかりやすい考古学講座X②	—	8月1日(土)	「首長の品々(朝日谷2号墳出土品)」	30
19	箏コンサート	—	8月1日(土)	第149回	10
20	こども考古学教室③	—	8月2日(日)	館内案内・発掘体験・合金銅鏡(20人)	22
21	古代体験教室「石勾玉づくり」	—	8月8日(土)	午前(22人)・午後(15人)	37
22	愛媛県・松山市連携事業 「はったぞな松山2020」報告会	—	8月29日(土)	「朝日谷2号墳の調査成果と出土品について」 「下難波腰折遺跡の調査成果」	34
23	わかりやすい考古学講座X③	—	9月5日(土)	「墓におさめられたモノ」	31
24	箏コンサート	—	9月5日(土)	第150回	10
25	愛媛県・松山市連携事業 「いにしへのえひめ」報告会	—	9月12日(土)	「新谷・五十嵐地区の発掘調査成果」 「北竹ノ下I・紫宸殿遺跡の発掘調査成果」	32
26	わかりやすい考古学講座X④	—	10月3日(土)	「モノからみた中世」	32
27	愛媛県・松山市連携事業 「いにしへのえひめ」講演会	—	10月10日(土)	「中世の文房具」	31
28	まつやまの歴史を学ぼう①	—	10月18日(日)	「考古学から見た道後と久米の魅力」	36
29	まつやまの歴史を学ぼう②	—	10月25日(日)	「国史跡の学術調査成果からみた久米の魅力」	33
30	箏コンサート	—	10月25日(日)	第151回	21
31	まつやまの歴史を学ぼう③	—	11月8日(日)	「上代文学から見た伊予の温泉と久米の魅力」	34
32	わかりやすい考古学講座X⑤	—	11月14日(土)	松山城三之丸跡(現地説明会)	29
33	まつやまの歴史を学ぼう④	—	11月22日(日)	「松山地方から見た四国遍路は面白い」	29
34	箏コンサート	—	11月22日(日)	第152回	20
35	まつやまの歴史を学ぼう⑤	—	11月29日(日)	「保存修理工事から見た道後温泉本館の魅力」	27
36	わかりやすい考古学講座X⑥	—	12月12日(土)	「下難波腰折遺跡の発掘」	20
37	特別展 前期展「発掘 松山の至宝」 展示解説会	—	12月26日(土)	展示解説会	16
38	箏コンサート	—	12月26日(土)	第153回	11
39	わかりやすい考古学講座X⑦	—	令和3年 1月9日(土)	「モノから知る生業」・「松山城三之丸跡23次調査」	21
40	箏コンサート	—	1月9日(土)	第154回	10
41	特別展 前期展「発掘 松山の至宝」講演会	—	1月23日(土)	「縄文時代の器と食べ物」	32
42	わかりやすい考古学講座X⑧	—	2月6日(土)	「古代の記号と絵画」	29
43	箏コンサート	—	2月6日(土)	第155回	21
44	特別展 後期展「発掘 松山の至宝」 展示解説会	—	2月20日(土)	展示解説会	23
45	わかりやすい考古学講座X⑨	—	3月6日(土)	「青銅器のマツリ」・「松山城三之丸跡23次調査」	30
46	箏コンサート	—	3月6日(土)	第156回	11
47	特別展 後期展「発掘 松山の至宝」講演会	—	3月20日(土)	「平形銅剣を用いた祭祀(マツリ)」	35

普及啓発事業

教育普及活動一覧（体験学習・主催事業来館・団体来館）

(2)

No.	学校名・団体名	学 年	実施日	内 容	参加者数 (人)		
1	中予児童福祉会		令和2年 4月25日(土)	公園内クイズラリー	中止		
2	愛媛若葉旬会	—	5月17日(日)	館内案内			
3	二之丸旬会	—	6月25日(木)	館内案内	9	9	
4	インクルデ	—	7月 2日(木)	館内案内	2		
5	松山市立勝山中学校	2年生	7月 7日(火)	職場体験	中止	44	
			7月 8日(水)				
			7月 9日(木)				
			7月10日(金)				
6	松前史談会	—	7月11日(土)	館内案内			
7	社会科主任会	—	7月21日(火)	館内案内	42		
8	つきの会	—	8月 6日(木)	館内案内	5		
9	愛媛若葉	—	8月16日(日)	館内案内	13		
10	エンゼル学園	—	8月18日(火)	館内案内・ペンダント(50人)	57		
11	エンゼル学園	—	8月19日(水)	館内案内・石勾玉(34人)	40		
12	愛媛新聞カルチャースクール	—	8月22日(土)	館内案内	6		
13	愛媛大学	3年生	8月27日(木)	インターンシップ	1		
			8月28日(金)		1		
14	ピーターパンたかおか	—	8月29日(土)	館内案内	14		
15	松山市立味酒小学校	6年生	9月 2日(水)	館内案内・火おこし見学	68		
			9月 3日(木)		105		
16	愛媛大学ジュニアドクター育成塾	—	9月 5日(土)	館内案内・火おこし見学・銅鏡(39人)	51		
17	愛媛新聞カルチャースクール	—	9月12日(土)	館内案内	4		
			9月15日(火)		3		
18	松山市立桑原中学校	2年生	9月16日(水)	職場体験	4		
			9月17日(木)		4		
19	新田青雲中等教育学校	1年生	10月 7日(水)	館内案内・火おこし見学・石勾玉(39人)	53		
20	愛媛新聞カルチャースクール	—	10月10日(土)	館内案内	9		
21	やまびこ旬会	—	10月16日(金)	館内案内	5		
22	幸風苑しあわせクラブ	—	10月29日(木)	館内案内	18		
23	愛媛新聞カルチャースクール	—	11月21日(土)	館内案内	7		
24	はたちの会	—	11月21日(土)	館内案内	7		
25	松山市学校事務主任会	—	令和2年 2月 5日(金)	館内案内	中止		
26	松山市立潮見小学校	5年生	2月25日(木)	館内案内・火おこし見学・ペンダント(86人)	91		
27	砥部町立砥部小学校	6年生	2月25日(木)	館内案内・火おこし見学	46		
28	松山市立さくら小学校	5年生	2月25日(木)	館内案内	中止		
29	松山市立余土小学校	5年生	3月 3日(水)	館内案内・火おこし見学	146		
30	松山市立双葉小学校	5年生	3月 3日(水)	館内案内・火おこし見学	80		
31	松山市立伊台小学校	6年生	3月 4日(木)	館内案内・火おこし見学・石勾玉(64人)	67		
32	松山市立高浜小学校	5年生	3月 4日(木)	館内案内・火おこし見学	中止		
33	放課後等デイサービス フレンドリー松本	—	3月10日(水)	館内案内	8		
主 催					予定分	47件	—
					実施分	32件	815
団体来館					予定分	33件	—
					実施分	26件	966
総 合 計					予定分	80件	1,781
					実施分	58件	

表6 教育普及活動一覧（発掘調査現地説明会）

No.	遺跡名	日 時	遺跡の主な概要	見学者数 (人)
1	下難波腰折遺跡2次調査	令和2年12月12日(土)	古墳時代	中止
2	松山城三之丸跡23次調査	12月19日(土)	江戸時代	中止
合 計				0

普及啓発事業

表7 教育普及活動一覧（職場体験）

No.	学校名	学年	日時	内容	参加者数 (人)
1	松山市立勝山中学校	2年生	令和2年7月7日(火)	職場体験	中止
			7月8日(水)		
			7月9日(木)		
			7月10日(金)		
2	松山市立桑原中学校	2年生	9月15日(火)	9:00～15:00	3
			9月16日(水)	9:00～15:00	4
			9月17日(木)	9:00～15:00	4
合計1校3件					11

表8 教育普及活動一覧（博物館学芸員実習）

No.	学校名	学年	日時	内容	参加者数 (人)
1	神戸女子大学	4年生	令和2年 8月6日(木)	14:00～17:00	1
			8月7日(金)	9:00～17:00	1
			8月8日(土)	9:00～17:00	1
			8月9日(日)	9:00～17:00	1
			8月10日(月)	9:00～17:00	1
2	広島大学	4年生	9月24日(木)	14:00～17:00	1
			9月25日(金)	9:00～17:00	1
			9月26日(土)	9:00～17:00	1
			9月27日(日)	9:00～17:00	1
			9月29日(火)	10:00～17:00	1
合計2校10件					10

表9 教育普及活動一覧（館外・出前考古学教室）※館外欄は考古館主催事業で出前欄は依頼事業

(1)

No.	学校名・団体名	学年ほか	実施日	内容	参加者数 (人)
館外	1 わかりやすい考古学講座X⑤	現地見学	令和2年 11月14日(土)	松山城三之丸跡 23次調査	29
	2 わかりやすい考古学講座X⑥	現地見学	12月12日(土)	下難波腰折遺跡 2次調査	中止
	3 現地説明会	—	12月12日(土)	下難波腰折遺跡 2次調査	
	4 現地説明会	—	12月19日(土)	松山城三之丸跡 23次調査	
出前	1 葉佐池古墳レンゲソウまつり	—	5月3日(日)	土器パズル・古代服	中止
	2 愛媛県立北条高等学校	2年生	5月14日(木)	講義・遺物	中止
	3 松山市立新玉小学校	5年生	① 6月11日(木)	講義・遺物	64
			② 6月12日(金)	講義・遺物	32
	4 松山市立雄郡小学校	6年生	6月17日(水)	講義・遺物	73
	5 松山市立正岡小学校	6年生	6月23日(火)	講義・遺物	17
	6 松山市立小野小学校	6年生	6月24日(水)	講義・石勾玉づくり(138人)	146
	7 松山市立堀江小学校	6年生	7月2日(木)	講義・遺物・火おこし(100人)	104
	8 笑顔のまつやま まちかど講座 愛媛県立松山東高等学校	1年生	7月2日(木)	講義	57
	9 松山市立味酒小学校	6年生	① 7月16日(木)	講義・遺物・古代服	168
			② 7月29日(水)	土器づくり	168
			③ 9月8日(火)	古代人体験学習相談①	168
			④ 10月14日(水)	古代人体験学習相談②	168
			⑤ 10月21日(水)	古代人体験	168
⑥ 10月29日(木)			土練	168	
⑦ 10月29日(木)			古代人体験学習発表会	168	
⑧ 10月30日(金)			土器焼き	168	
⑨ 令和3年 3月9日(火)			松山城の説明	168	
10 東雲第2児童クラブ	—	8月5日(水)	石勾玉づくり(24人)	29	
11 しおかぜクラブ	—	8月18日(月)	石勾玉づくり(15人)・ペンダント(12人)	33	
12 愛媛県生涯学習センター コミュニティカレッジ	—	9月1日(火)	講義	45	
13 松山市立立岩小学校	4～6年生	9月10日(木)	石包丁づくり	15	
14 松山市立みどり小学校	4～6年生	① 9月16日(水)	講義・遺物	19	
		② 9月23日(月)	石包丁づくり	20	

普及啓発事業

教育普及活動一覧（館外・出前考古学教室）※館外欄は考古館主催事業で出前欄は依頼事業 (2)

No.	学校名・団体名	学年ほか	実施日	内容	参加者数 (人)			
14	松山市立みどり小学校	4～6年生	③ 10月21日(水)	火おこし見学	20	159		
			④ 11月20日(金)	講義・塩作り	20			
			⑤ 12月2日(水)	2学期の反省	20			
			⑥ 令和3年 1月20日(水)	石勾玉づくり①	20			
			⑦ 2月10日(水)	石勾玉づくり②(17人)	20			
			⑧ 3月10日(水)	ふりかえり学習	20			
15	愛媛県立聾学校	4・5年生	令和2年 9月11日(金)	火おこし見学	9	51		
16	放課後等デイサービスみらい	—	9月26日(土)	石勾玉作り	中止			
17	笑顔のまつやま まちかど講座 愛媛県立松山商業高等学校	1年生	9月29日(火)	講義・遺物	42			
18	松山市立城西中学校	1～3年生	10月3日(土)	石勾玉作り	21	285		
19	松山市立雄新中学校	1年生	10月26日(月)	講義・遺物	244			
20	全国埋文連絡協議会	—	10月30日(金)	現地見学(葉佐池古墳)	20			
出 前	21	松山市立北条南中学校	1～3年生	11月1日(日)	石勾玉づくり(24人)	26	135	
	22	愛媛県総合教育センター	1～6年生	11月14日(土)	石勾玉づくり(14人)	16		
	23	愛媛大学学園祭	—	11月14日(土)	土器パズル・古代服・遺物展示	中止		
				11月15日(日)				
	24	素鷲公民館(素鷲小学校)	3年生	11月18日(水)	講義・遺物・火おこし見学	13		
	25	松山大学・カルスボ公開講座	—	11月25日(水)	講義(オンライン講演会)	80		
	26	日本技術士会四国本部	—	11月28日(土)	葉佐池古墳と松山市内の遺跡見学	中止		
	27	キッズジョブまつやま2020	—	12月6日(日)	講義・遺物・拓本・土器パズル・クイズ・古代服	中止		95
	28	えひめ消費者教育研究会	—	12月27日(日)	講義(オンライン講演会)	95		
	29	松山市立垣生中学校	2年生	令和3年 2月4日(日)	石勾玉づくり	中止		300
	30	愛媛県生涯学習センター 「ふれあいフェスタ」	—	令和3年 2月28日(日)	合金コイン(100人)	300		
30	四国ESDフォーラム2021	—	3月14日(日)	講義・古代服	100	212		
31	味生公民館(味生小学校)	3年生	3月19日(金)	秀野家見学	112			
					館外	予定分 4件	—	
						実施分 1件	29	
					出前	予定分 31件	—	
						実施分 25件	3,364	
					総合計	予定分 35件	—	
						実施分 26件	3,393	

表10 教育普及活動一覧（職員研修・会議）

No.	研修・会議名	実施日	開催地	参加者数 (人)
1	公開承認施設担当者会議及び国宝・重要文化財(美術工芸品)防災・防犯対策研修会	資料送付	—	—
2	四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展 第1回実行委員会	令和2年 4月22日(水)	愛媛県	中止
3	第41回全国埋蔵文化財法人連絡協議会 総会	6月11日(木)	オンライン	1
4	四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展 第2回実行委員会	7月9・10日(木・金)	高知県	中止
5	四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展 第3回実行委員会	10月8日(木)	香川県	中止
6	全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	10月1・2日(木・金)	広島県	不参加
7	全国埋蔵文化財法人連絡協議会 研修会	10月30日(金)	愛媛県	1
8	四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展 第4回実行委員会	令和3年 1月6日(水)	徳島県	中止
9	令和2年度 第2回埋蔵文化財担当職員等 講習会	2月3日(水)	オンライン	2
10	愛媛大学ジュニアドクター育成塾 意見交換会	3月16日(火)	愛媛県	1
11	四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展 第5回実行委員会	3月17日以降	徳島県	中止

普及啓発事業

表 11 考古館広報関係一覧（印刷物・オンライン等）

No.	出版物名	発行日	対象	版型	部数（枚）
1	四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展 『四国の風土と暮らし—海と人々 2 古墳時代～近世—』	令和 2 年 4 月	一般	B2 A4	500 50,000
2	愛媛県・松山市連携事業 『古代いよ発掘まつり』『掘ったぞな松山 2020』	7 月	一般	B2 A4	450 1,000
3	特別展 前期展「発掘 松山の至宝」	10 月	一般	B2	400
4	特別展 後期展「発掘 松山の至宝」	令和 3 年 1 月	一般	B2 A4	500 10,000
5	キッズジョブまつりやま 2020	3 月	一般	オンライン	—

表 12 出版物一覧

No.	報告書名・出版物名	発行日	対象	版型・頁	部数（枚）
1	愛媛県・松山市連携事業『古代いよ発掘まつり』『掘ったぞな松山 2020』 解説パンフレット	令和 2 年 7 月 11 日	一般	A4 4 頁	1,000
2	特別展 前期展「発掘 松山の至宝」 解説パンフレット	11 月 7 日	一般	A4 4 頁	2,000
3	松山市埋蔵文化財調査年報 32	12 月 25 日	一般	A4 118 頁	300
4	松山市文化財調査報告書 第 200 集 『別府遺跡—2 次・3 次・4 次—調査』	12 月 25 日	一般	A4 172 頁	300
5	松山市文化財調査報告書 第 201 集 『五郎兵衛谷 7 号墳』	令和 3 年 3 月 10 日	一般	A4 64 頁	300
6	発掘 松山の至宝	令和 2 年 12 月 2 日	一般	B5 96 頁	1,000
7	図録 朝日谷 2 号墳	令和 3 年 3 月 31 日	一般	A4 16 頁	1,000

表 13 資料の貸出一覧

(1)

No.	種類	貸出資料名	点数	貸出・利用目的	貸出・利用期間	貸出先
1	資料	分銅形土製品ほか	25	常設展示室において展示するため	令和 2 年 4 月 1 日 ～令和 7 年 3 月 31 日	子規記念博物館
2	資料	松山城二之丸跡出土 金貨	1	坂の上の雲ミュージアムの常設展で展示 をするため	平成 30 年 4 月 1 日 ～令和 5 年 3 月 31 日	坂の上の雲ミュージアム
3	資料	福音小学校構内遺跡出土 器台	2	妙見山古墳出土の伊予型特殊器台との比 較展示のため	平成 30 年 7 月 6 日 ～令和 3 年 7 月 5 日	今治市教育委員会
4	写真 資料	朝日谷 2 号墳出土品	99	指定調査のため なお、指定のための調 査・審議を経た後、令和 2 年 4 月 21 日～ 5 月 10 日の間、東京国立博物館にて展示 するため	令和 2 年 1 月 9 日 ～5 月 29 日	東京国立博物館
5	写真 資料	船ヶ谷遺跡 3 次 巻頭図版 1 ほか 来住庵寺 18 次調査出土 軒丸瓦ほか	4 47	令和 2 年度 6 月 6 日から 7 月 12 日にか けて開催する令和 2 年度共同企画展『え ひめ発掘平成史』への展示及び図録作成の ため	4 月 20 日～ 8 月 12 日	(公財) 愛媛県埋蔵文化財 センター
6	資料	松山城出土遺物	75	令和 2 年度 7 月 4 日から 8 月 2 日にか けて開催する令和 2 年度共同企画展『え ひめ発掘平成史』への展示及び図録作成の ため	5 月 18 日～ 8 月 12 日	(公財) 愛媛県埋蔵文化財 センター
7	写真	浮穴小学校構内遺跡	1	『2020 年度わおマップコミュニティ—浮 穴小学校エリア』に掲載するため	5 月 15 日～ 5 月 31 日	英公社株式会社
8	写真	船ヶ谷遺跡 4 次調査 陶質土器 2 点の集合写真	1	令和 2 年企画展示「伽耶—古代東アジア を生きたある王国の歴史—」において展 示図録及び展示パネル等に掲載するため	5 月 26 日～ 9 月 6 日	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館
9	デジタル データ	遺跡群 II 期の想定復元図ほか	2	松山市シルバー人材センター発行の瓦版に て久米官衛遺跡群について紹介するため	6 月 1 日～ 6 月 15 日	公益社団法人 松山市シルバー人材センター
10	写真	影浦谷古墳 盾形埴輪ほか	6	『2020 年度わおマップコミュニティ—清 水・姫山小学校エリア』に掲載するため	6 月 1 日～ 6 月 30 日	英公社株式会社
11	資料	松山大学構内遺跡ほか	7	大西藤山歴史資料館の企画展「伊予型特 殊器台の誕生」に伴う資料借用の事前調査	6 月 18 日	今治市教育委員会
12	写真	大連古代蓮の写真	5	愛媛 CATV「たうん広場」において、大 連古代蓮の開花を伝えるニュースで使用 するため	6 月 20 日～ 6 月 30 日	愛媛 CATV
13	写真	筋違 F 遺跡ほか	2	令和 2 年度大西藤山歴史資料館企画展「伊 予型特殊器台の誕生」において展示及び 広報のため	7 月 8 日～ 11 月 1 日	今治市教育委員会
14	資料	松山大学構内遺跡ほか	6	令和 2 年度大西藤山歴史資料館企画展「伊 予型特殊器台の誕生」において展示及び 広報のため	8 月 4 日～ 11 月 13 日	今治市教育委員会
15	写真	五郎兵衛谷 7 号墳出土 刀子についてハエの囲蝸殻	1	出雲弥生の森博物館 10 周年記念特別展 『出雲・神塩治楽山古墳とその時代』のバ ンフレット・パネルに掲載するため	9 月 9 日～ 9 月 25 日	出雲市市民文化部 文化財課
16	写真	葉佐池古墳 1 号石室内部(整備状況)、 ハエの囲蝸殻	2	出雲弥生の森博物館 10 周年記念特別展 『出雲・神塩治楽山古墳とその時代』パ ネルに掲載するため	9 月 23 日～ 9 月 25 日	出雲市市民文化部 文化財課

普及啓発事業

資料の貸出一覧

(2)

No.	種類	貸出資料名	点数	貸出・利用目的	貸出・利用期間	貸出先
17	写真	北谷王神ノ木1号横穴式石室ほか	5	『2020年度わおマップコミュニティ 堀江小学校エリア』に掲載するため	令和2年 10月20日～31日	英公社株式会社
18	写真	祝谷大地ヶ田遺跡3次調査出土「円頭大刀」	1	研究論文作成のため	11月17日	個人
19	写真	船が描かれた絵画土器 (樽味高木遺跡3次調査)	1	①第59回企画展「海と活きた古代人～旧石器時代から弥生時代の鹿児島～」における展示・展示パネル等の作成のため ②企画展終了後、企画展示室は、展示パネルと写真を残し、春休み企画として展示	11月17日 ～令和3年4月11日	(公財)鹿児島県文化振興財団
20	写真	朝日谷2号墳関連	9	機関紙「文化愛媛」84号に掲載するため	令和2年 11月21日～22日	(公財)愛媛県文化振興財団
21	資料	久米窪田森元遺跡遺構配置図	1	会誌『木簡研究』の電子化およびインターネット公開のため	12月2日～11日	奈良文化財研究所都城発掘調査部資料研究室気付
22	写真	松山城二之丸跡出土「ロシア金貨」	1	提供画像として紙面に掲載するため	12月18日～25日	読売新聞松山支局
23	写真	石包丁(現代の紐付き)	1	中学生を対象とした学習教材に掲載し、石包丁について紹介するため	令和3年 1月18日～29日	株式会社アフロ
24	写真	祝谷9号墳出土「円筒埴輪ほか」	204	インターネットラジオ「ホンマルラジオ 道後・大和屋」HP掲載・収録のため	2月16日	個人
25	写真	東山古墳周辺風景	12	東石井公民館に展示のため	2月20日 ～令和4年3月31日	東山保存会
26	写真	松山市文化財調査報告書第83集『播磨塚天神山古墳』巻末図版I 松山市駐屯地所在播磨塚古墳の写真	2	『新三木市史地域編4 志染の歴史』令和3年度未発刊予定)に図版を掲載するため	3月18日～31日	兵庫県三木市

表14 資料の調査一覧

No.	種類	調査資料名	点数	調査・利用目的	調査・利用期間
1	資料	竹本コレクション	1式	松山の旧石器遺物の研究のため熟覧、模写、写真撮影	令和2年 7月29日 8月5日
2	資料	分銅型土製品	53	卒業論文執筆に伴う研究調査のため	9月23日
3	資料	瀬戸風峠4号墳ほか(玉類)	136	論文作成のため熟覧・写真撮影	9月29日
4	資料	来住庵寺2・3次調査出土(軒丸瓦)	3	卒業論文執筆のため熟覧・模写・写真撮影・その他(拓本)	11月18日
5	資料	かいなご3号墳出土(蔵骨器)	1	遺跡出土火葬人骨の研究のため熟覧・写真撮影	12月22日
6	資料	久米高畑遺跡26次調査ほか	3	論文作成に伴う調査・研究のための三次元計測	令和3年 1月13日
7	資料	祝谷六丁場遺跡	141	論文作成のため熟覧・写真撮影	1月14日～16日
8	資料	祝谷六丁場遺跡出土(伐採斧)	1式	資料調査のため模写・熟覧・写真撮影	1月29日
9	資料	天山1号墳出土(環状乳五神五獣鏡)	1	図録作成のため熟覧・写真撮影	2月9日
10	資料	岩崎遺跡・西石井遺跡2次調査	87	論文作成のため熟覧・模写・写真撮影	2月17日～18日
11	資料	大淵遺跡(彩文土器)	2	令和3年度企画展「COME on 山陰弥生ライフ」事前調査のため熟覧・写真撮影	2月24日
12	資料	瀬戸風峠1号墳ほか	10	U字形鍬鋤先の製作方法の観察『紀要愛媛』第17号への掲載のため熟覧・模写・写真撮影	3月16・17日

表15 令和2年度 考古館月別入館者数調(令和2年4月～令和3年3月)

(単位:人)

月	開館日数 (日)	常設展示室									特別展示室	展示室延 入場者数	入館者数
		有料入館者					無料入館者						
		一般	高齢者	団体 各種割引	前売	小計	高校生 以下	障がい者 介護者	その他	小計			
4	11	27	19	0	—	46	30	7	3	40	0	86	329
5	18	45	19	0	—	64	22	2	2	26	0	90	377
6	25	92	56	0	—	148	51	5	1	57	591	796	1,560
7	27	156	62	42	—	260	85	14	3	102	697	1,059	1,169
8	26	158	55	0	—	213	232	4	43	279	789	1,281	952
9	26	147	45	12	—	204	285	5	9	299	605	1,108	974
10	27	144	74	0	—	218	113	3	5	121	623	962	1,056
11	24	137	73	0	—	210	101	7	2	110	256	579	1,230
12	24	77	44	0	—	121	20	4	0	24	145	290	606
1	24	83	60	0	—	143	29	21	0	50	193	386	599
2	22	124	85	0	—	209	156	6	11	173	372	754	755
3	26	146	110	0	—	256	327	21	17	365	66	1,282	1,135
計	280	1,336	702	54	—	2,092	1,451	99	96	1,646	4,932	8,670	10,742



写真1 発掘へんろ展「四国の風土と暮らし」①



写真2 発掘へんろ展「四国の風土と暮らし」②



写真3 愛媛県・松山市連携事業
『古代いよ発掘まつり』『掘ったぞな松山2020』



写真4 「掘ったぞな松山2020」報告会
令和2年8月29日(土)



写真5 愛媛県・松山市連携事業
『古代いよ発掘まつり』『いにしへのえひめ』



写真6 「いにしへのえひめ」報告会
令和2年9月12日(土)



写真7 30周年記念特別展・前期展
「発掘 松山の至宝」①



写真8 30周年記念特別展・前期展
「発掘 松山の至宝」②



写真 9 解説会の受付（新型コロナウイルス感染予防対策）
令和 2 年 12 月

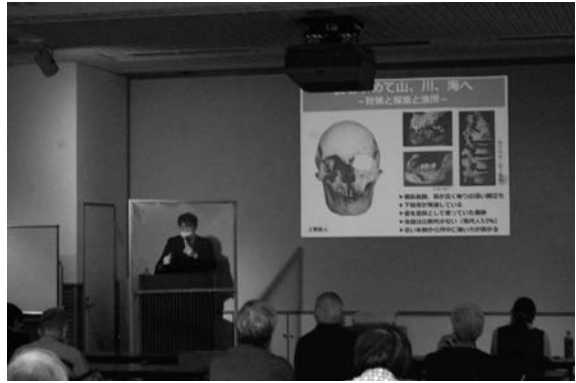


写真 10 前期展「発掘 松山の至宝」
講演会 令和 3 年 1 月 23 日（土）



写真 11 30 周年記念特別展後期展
「発掘 松山の至宝」①



写真 12 30 周年記念特別展後期展
「発掘 松山の至宝」②



写真 13 講演会の受付（新型コロナウイルス感染予防対策）
令和 3 年 3 月



写真 14 後期展「発掘 松山の至宝」
講演会① 令和 3 年 3 月 20 日（土）



写真 15 後期展「発掘 松山の至宝」
講演会② 令和 3 年 3 月 20 日（土）



写真 16 発掘情報展「下難波腰折遺跡 2 次調査」



写真 17 大連古代蓮 写真展①



写真 18 大連古代蓮 写真展②



写真 19 わかりやすい考古学講座



写真 20 「松山の歴史を学ぼう」
令和2年11月8日(日)



写真 21 こども考古学教室(親子考古学教室)



写真 22 考古館ロビーコンサート
令和2年12月26日(土)



写真 23 わかりやすい考古学講座(現地見学・
松山城三之丸跡) 令和2年11月14日(土)



写真 24 大連古代蓮の育成

松山市埋蔵文化財調査年報 33

令和3年12月24日 発行

編集
発行

松山市教育委員会

〒790-0003 愛媛県松山市三番町六丁目6-1
TEL (089) 948-6605

公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団

埋蔵文化財センター

〒791-8032 愛媛県松山市南斎院町乙67番地6
TEL (089) 923-6363
FAX (089) 925-0260

印刷

平和印刷工業株式会社

〒790-0921 愛媛県松山市福音寺町728番地
TEL (089) 947-9155
